

# 平成14年度 研究開発実施報告書

## 研 究 主 題

子どもの自己成長力を強める幼稚園教育と

小学校教育の一体的教育課程の編成

一人との関わりを重視したみなぎのコースを核として—

(第2年次研究)

平成15年3月31日

兵庫県三木市立口吉川幼稚園

兵庫県三木市立口吉川小学校

本報告書に記載されている内容は、学校教育法施行規則第 26 条の 2 の規程に基づき、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって、この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適応できる性格のものでないことに留意してお読みください。

# 目 次

I	研究開発の概要	
1	研究開発課題	1
2	研究の概要	1
3	実践の結果	1
II	研究開発の経緯	
1	研究のあゆみ	2
2	園・校内研究の内容	4
III	研究開発の内容	
1	幼小連携をふまえたカリキュラム編成のための基本的な考え方	5
2	「みなぎのタイム」から「みなぎのコース」へ	6
3	「口吉川みなぎのコースの内容系列表」について	7
4	幼稚園の保育に関する基本的な考え方	14
5	小学校単元修正の基本的な考え方	20
6	7ヶ年の教育課程の編成とその内容	26
	(1) 幼稚園の指導計画及び幼児の学び・育ち	26
	(2) 小学校における「みなぎのコース」単元別指導計画	32
	第1学年	36
	障害児学級	50
	第2学年	52
	第3学年	62
	第4学年	66
	第5学年	71
	第6学年	75
7	子どもの活動の連携	80
8	教師の連携	83
IV	研究開発実施の効果	84
1	教育課程の評価	84
2	実践の効果	84
V	研究開発実施上の問題点および今後の研究開発の方向	88





# 研究開発の概要と研究経過



# 1 研究開発の概要

## 1 研究開発課題

子どもの自己成長力を強める幼稚園教育と

小学校教育の一体的教育課程の編成

—一人との関わりを重視したみなぎのコースを核として—

## 2 研究の概要

小規模校であることと、幼稚園教育が1年間であることから課題となる「人との関わり」を通した学びに焦点をあて、幼小7年間の教育課程の開発を行ってきた。7年間を通して子どもたちが絶えず自己成長を図り続けていく力をより太く育てていくために、本年度は、「みなぎのコース」の中で7年間を通じて子どもたちが触れる学習内容を系統化した「みなぎのコース」の内容系列表の作成を行った。

幼稚園では総合的な子どもたちの遊びを、これまでの幼稚園教育要領にある5領域の視点から、「みなぎのコース」(生命・健康、自己・成長、人間関係、学校や園での生活・遊び、地域生活、自然環境)と「教科に発展していく内容」(数量形、言語、表現、身体運動、)との10の視点をのぞき窓として子どもたちの学びを整理してきた。

さらに小学校では、地域生活者としての生き方学習の時間として「みなぎのコース」を特設し、単元開発及び単元修正を行ってきた。

これら教育内容の開発を支えるものとして、子どもの活動の連携・教師の連携も充実させようと取り組んできた。

## 3 実践の結果

幼稚園では「みなぎのコース」内容系列表にある6領域と「教科に発展していく内容」の4領域の視点によって、子どもたちの総合的な遊びを分類・整理して、環境構成を行ってきた。この取組は、幼稚園での子どもたちの遊びを小学校との関連を意識しながら整理したもので、幼稚園の学びを小学校の「みなぎのコース」や教科等に生かしていくことが可能になる。幼稚園の学びを受け継ぎ、小学校の単元開発に生かしていくことで、滑らかな接続や7年間での学びの体系が実現していくと思われる。今後、小学校の目標や内容の扱い方に変化が見られるはずである。

小学校では、「みなぎのコース」の内容系列表をもとにした、単元開発・単元修正が実践されてきた。教師の願い(内容系列表)と子どもたちの願いとの接点の中で単元が作られ、子どもたちの姿をもとに単元修正がされてきた。内容系列表が作成されたことで、学年の系統性が明らかになり、それぞれの学年での、学びの内容を意識しながら単元開発や修正が行われてきた。今後、7年間の学びの体系を意識した単元開発が行われることが目指される。

子どもの活動の交流においては、なかよし班遊びを日課表の中に組み込み、毎週定期的に行っていくこととなった。さらに、ゲストティーチャーを招く中で、貴重な共通体験も企画してきた。子どもの交流を通して、お互いの顔や名前を覚えることにより、安心して小学校に入学できたり、保護者の不安も少なくなったりと効果も出てきている。

幼小の教師の連携により、子どもや互いの教育についての理解がさらに深まってきた。7年間で子どもを育てる視点も共有化できてきた。

## II 研究開発の経緯

### 1 研究のあゆみ

#### 1 学期

- ・ 4月19日（金） 幼小合同研修会・・・学年別指導と講話  
「総合的な学習の単元立ち上げについての学年別指導」  
「7年間における保育・みなぎのタイムにおけるスコープの設定について」  
講師：立教大学 教授 奈須正裕先生
  
- ・ 5月10日（金） 幼小合同研修会  
講師：お茶の水女子大学 教授 無藤 隆先生  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生
  
- ・ 6月 7日（金） 研究開発学校連絡協議会 文部科学省
  
- ・ 6月24日（月） 公開保育授業研究会・幼小合同研修会  
「幼・1・2年の3年間での学びの積み上げと整理について」  
「保育とみなぎのタイム、7年間のスコープ・シークエンスの確立について」  
講師：神戸大学発達科学部附属幼稚園 副園長 奥山登美子先生  
講師：三木市教育委員会 指導主事 森口恵子先生
  
- ・ 6月28日（金） 幼小合同授業研究会・研修会  
「授業を通しての自己成長力のとらえ方」  
講師：愛知教育大学教育学部 助手 久野弘幸先生
  
- ・ 7月25日（木） 研究開発に係る運営指導委員会 運営指導委員
  
- ・ 7月25日（木） 幼小連携合宿研修会  
「合宿の課題について」  
「自己成長力を子どもの姿から整理」  
「スコープの検討」  
「研修のまとめと課題の整理」  
～26日（金） 「自己成長力の内容検討」  
「スコープ作成原理のまとめと内容整理」  
講師：立教大学 教授 奈須正裕先生  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生  
講師：愛知教育大学教育学部 助手 久野弘幸先生



- ・ 8月26日（月） 幼小合同研修会  
「スコープの内容項目及び2学期のみなぎのタイムの材について」  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生

## 2学期

- ・ 10月10日（木） 幼小合同保育授業研究会・研修会  
「幼・小連携の具体的指導内容の検討を進める」  
講師：愛知教育大学教育学部 助手 久野弘幸先生
- ・ 11月5日（火） 幼小合同保育研究会・研修会  
「幼稚園保育を通して、幼・小連携を見る。遊びを通しての学びとは？」  
「スコープの内容項目との関連、小学校につなぐ学びについて」  
「幼小連携を通して変わってきた幼児の姿、保育について」  
講師：兵庫教育大学 教授 名須川知子先生
- ・ 11月6日（水） 幼小合同授業研究会・研修会  
「みなぎのコースの単元修正の実際」  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生
- ・ 12月3日（火） 幼小合同授業研究会・研修会  
「単元修正の流れ及びスコープと教育課程全体との関係について」  
講師：立教大学 教授 奈須正裕先生  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生
- ・ 12月5日（木） 幼小合同授業研究会・研修会  
「抽出児の姿を通して単元修正を加える」  
「2年次報告書の内容構成について」  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生

## 3学期

- ・ 1月 9日（木） 園内研修会  
「子どもの遊びと環境構成について」
- ・ 1月16日（木） 園内研修会  
「幼小連携の取組の分析について」
- ・ 1月22日（水） 園内研修会  
「幼稚園の取組のまとめについて」

- ・ 2月 4日 (火) 幼小合同授業研究会・研修会  
「单元とスコープとの関係及び单元修正の考え方について」  
講師：立教大学 教授 奈須正裕先生
- ・ 2月20日 (木) 研究開発に係る運営指導委員会 運営指導委員
- ・ 2月20日 (木) 幼小合同研修会  
「本年度の取組のまとめと3年次の取組の方向について」  
講師：立教大学 教授 奈須正裕先生  
講師：加古川市立加古川小学校 校長 一井教男先生  
講師：愛知教育大学教育学部 助手 久野弘幸先生

## 2 園・校内研究の内容

時 期	研 究 内 容
<b>1 学期・・・「みなぎのタイム」内容系列表の作成</b>	
4月	本年度の研究の方向と体制について・・・幼小連携7カ年のスコープの作成 みなぎのタイムの時数及び保育内容の明確化について 1学期の指導計画及び单元立ち上げについて
5月	保育・みなぎのタイムにおける「自己成長力」の定義づけ 幼小交流活動の目標設定と推進
6月	保育・みなぎのタイムにおけるスコープ及びシーケンスの検討、公開保育授業研究会 「みなぎのコース」の授業研究会
7月	運営指導委員会 合宿研修会 「みなぎのタイム」スコープの作成
8月	内容系列表の最終検討と2学期の单元の立ち上げについて
<b>2 学期・・・保育内容の検討と单元開発及び单元修正</b>	
9月	2学期の実践及び改善、修正について 「みなぎのタイム」から「みなぎのコース」へ
10月	「みなぎのコース」の授業研究会、子どもの姿を通じた改善、修正について
11月	「みなぎのコース」の授業研修会、保育研究会
12月	「みなぎのコース」の授業研修会 3学期の指導計画について
<b>3 学期・・・保育内容の検討と单元開発及び单元修正、研究のまとめと3年次への展望</b>	
1月	3学期の保育内容の検討及び指導計画について 「みなぎのコース」の改善、修正と年間单元一覧表及び年間单元指導計画の作成 研究開発学校2年次報告書のまとめと検討
2月	「みなぎのコース」の授業研修会 運営指導委員会 研究開発学校2年次報告書の作成
3月	3学期の幼小連携の取組の記録 研究開発学校3年次研究推進の計画

## 研究開発の内容



### III 研究開発の内容

#### 1 幼小連携をふまえたカリキュラム編成のための基本的な考え方

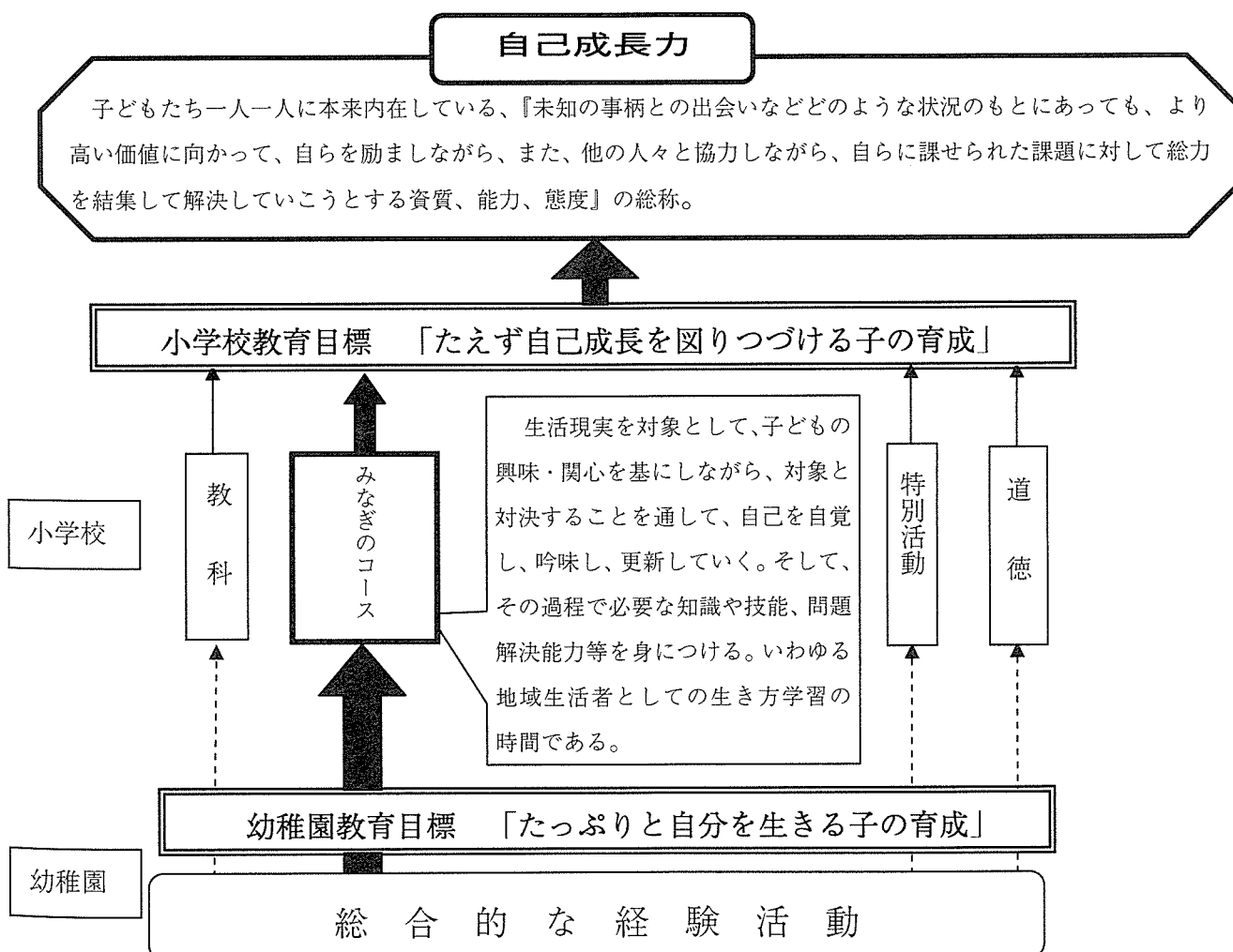
##### (1) 本校園教育目標と自己成長力との関係

幼稚園の教育目標である「たっぷりと自分を生きる子の育成」と小学校の教育目標である「たえず自己成長を図りつづける子の育成」をつなぐキーワードを「自己成長力を太くする7ヵ年のカリキュラム」とした。

本校園では、これからの幼児・児童につけていく「生きる力」を、人間が生まれながらにして持つ「自己成長力」としてとらえている。この「自己成長力」を各発達段階、学年においていかに効果的に豊かに、いわゆる「たくましい学力」として身につけていくかについて研究を進めていきたいと考えた。

本校園では、この自己成長力を、子どもたち一人一人に本来内在している、『未知の事柄との出会いなどどのような状況のもとにあっても、より高い価値に向かって、自らを励ましながらか、また、他の人々と協力しながら、自らに課せられた課題に対して総力を結集して解決していこうとする資質、能力、態度』の総称ととらえている。そこで、本校のような小規模校において、大きな課題となっている人との関わりを通じた学びに焦点をあて、幼稚園1ヵ年と、小学校6ヵ年をつないだ7ヵ年の教育課程の開発を行っていくことにした。

##### (2) 本校園の教育目標と教育課程について



平成14年度教育課程表（授業時数表）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	272	280	235	235	180	175
社会			70	85	90	100
算数	114	155	150	150	150	150
理科			70	90	95	95
生活	0 (-102)	0 (-105)				
音楽	0 (-68)	70	60	60	50	50
図画工作	0 (-68)	70	60	60	50	50
家庭					60	55
体育	90	90	90	90	90	90
道徳	34	35	35	35	35	35
総合的な 学習の時間			0 (-105)	0 (-105)	0 (-110)	0 (-110)
みなぎのタイム	272 (+272)	140 (+140)	105 (+105)	105 (+105)	110 (+110)	110 (+110)
特別活動	0 (-34)	0 (-35)	35	35	35	35
総時数	782 (0)	840 (0)	910 (0)	945 (0)	945 (0)	945 (0)

## 2 「みなぎのタイム」から「みなぎのコース」へ

本校では、昨年度まで「みなぎのタイム」を、低学年での「生活科」と3学年以上の「総合的な学習の時間」を核とした総合的な学びの時間ととらえてきた。そして、『子どもたちが、身近な生活の中から学習課題を見つけ、教科・領域の枠にとらわれず、体験重視の手法を駆使して主体的に自らの生き方や学び方を創造する学習の時間』と定義づけ、“学びの楽しさあふれる子の育成”を目指してきた経緯がある。

ところで、本校が開発している「みなぎの」は、自己成長力を強めるために、活動をすることによってふれさせていきたい内容があり、活動が充実することにより多くの学びが期待できる領域としての位置づけをもつものである。従来の「みなぎのタイム」の呼称では、活動する時間のことを表すイメージが強く、私たちのねらっている子どもたちにふれさせたい内容とは、隔たりを感じずにはいられなかった。そこで、呼称を「みなぎのコース」とすることにより、これまで以上に子どもたちがふれ、学んでいく学習の内容がイメージでき、私たちが追及しようとしている内容に裏づけされた活動から学んでいく領域にふさわしくなったように思われる。

また、現在、本校が教育目標としている「たえず自己成長を図り続ける子の育成」とは、言い換えると、「子ども一人一人に、本来内在している、どのような状況のもとにあっても、より高い価値に向かって、自らを励ましなが、また、他の人と協力しながら、自らに課せられた課題に対して総力を結集して解決していくことができる力をもった子の育成」である。

この目標は、教科指導や道徳・特別活動の領域においても具現化を図っていくのはもちろんであるが、集中的に力をつけるためには「みなぎのコース」という生活探究コースを特設することが有効であると考へた。そこで、この時間を『生活現実を対象として、子どもの興味関心をもとにしながら、対象と対決することを通して、自己を自覚し、吟味し、更新していく。そして、その過程で必要な知識・技能・問題解決能力等を身につける、地域生活者としての生き方学習の時間』として位置づけることにした。

本年度の当初、この「みなぎのコース」を発達面から考へ、幼稚園・小学校1・2年を一つの成長過程として位置づけ、その3年間を前期と後期に分けて内容項目の連携を図ろうとした。また、小学校の1学年においては生活科・音楽科・図工科・特別活動を、2学年においては特別活動を「みなぎのコース」に内在した教育課程ととらえ、編成を行い実践していった。そうすることで、学習指導要領にある目標が十分に達成可能であると考えていたのである。しかし、「みなぎのコース」における内容項目を設定し、実践していく過程において、音楽科・図工科の内容が十分にはカバーしきれない状況にあることがわかった。そのため、カバーしきれない内容は、音楽科・図工科の時間を設け、実施する必要があるが出てきた。さらに研究を進める中で、「みなぎのコース」の位置づけを、達成する内容項目と指導時間が対応する考へ方へと変更していくこととなった。また、発達区分も、幼稚園、1・2年、3・4年、5・6年と分けるほうが適切でないかと考へている。

また、この「みなぎのコース」は従来の幼稚園の保育活動及び1・2年の生活科と3年以上の総合的な学習の時間に大枠としては対応するものであるが、本校園では、幼稚園・小学校7ヵ年を通した新たな学習コースとして内容項目を設定し、その「みなぎのコース内容系列表」を工夫の拠り所として、幼稚園は保育を見直し、小学校では単元開発・単元修正を行い、教育課程を開発していくことにした。

### 3 「口吉川みなぎのコースの内容系列表」について

まずは、先行経験をもとに地域性や児童の実態に合わせ、領域を決めた。本校にとって必要な領域として、人や動物を含めた命・個体の維持に関する学びとしての「生命・健康」、人は時間とともに動き成長していくというとらえのもととなる自分の成長や将来に関する学びとしての「自己・成長」、福祉・国際理解など人として関わっていくことにより充実した共生社会の実現に貢献する資質や能力を育てる「人間関係」、園や学校での生活の工夫や充実、遊びに関する学びとしての「学校や園での生活・遊び」、地域の人々の切実な暮らしと学校や園がおかれている地域社会に関する学びとしての「地域生活」、地域を取りまく自然環境の保全や望ましい環境に関する学びとしての「自然環境」という6つの領域を設定した。そして、7ヵ年を4つの段階（幼稚園、1・2年、3・4年、5・6年）に分け、発達段階に応じてふれさせたい内容項目を作成し、その内容項目が段階を追ってつながっていくように考へていったのである。

このスコープ作成をもとに、幼稚園では、子どもたちが体験している総合的な遊びを「みなぎのコース」の6つの視点から見直していった。しかし、みなぎのコースの視点が、幼稚園の保育活動を分析する視点全てを包括するものではない。そこで、教科に発展していく内容としての数量形・言語・身体運動・表現という4つの領域の視点も加えて再編することになった。ただし、4領域の大きさは、決して6領域の大きさと同じものではない。むしろ、4領域を1つにまとめたものが、6領域の1つの大きさにあたる程度ではないかと考へている。これは、幼稚園を小学校化するというのではなく、子どもたちの活動を見る視点を7年間で1つのものにしようとする考へ方である。

## 「みなぎのコース」 内容系列表

	目標	内容	幼稚園
生命・健康	身近な人や動植物との関わりの中で、生きていることのすばらしさや生命の神秘・尊さに気づき、自他の生命を尊重する心をもち、心身ともに健康な生活を営む資質や能力を育てる。	<p>ア 身近な動植物の飼育や栽培活動を通してその変化や栽培の様子に関心をもち、それらの生命に親しみをもつとともに生命の尊さに気づく。</p> <p>イ 生きていることのすばらしさや生命の神秘・尊さに気づき、自他の生命を尊重する。</p> <p>ウ 心身ともに健康な生活についての認識を深め、よりよい生活を営もうとする。</p>	<p>ア 身近な動植物の飼育や栽培活動を通して動植物に親しみ、いたわったり、大切にしたりしようとする。</p> <p>イ 自分の健康な生活に関心をもつとともに、生活に必要な習慣やリズムを大切にしようとする。</p>
自己・成長	身近な人々の生き方にふれ、自分の将来について考える資質や能力を育てる。	<p>ア 生きがいをもって生活している身近な人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える。</p> <p>イ 成長に気づき、それを支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、今の自分をしっかりと見つめ、自分の将来について考え、自己を高めていこうとする。</p>	<p>ア 具体的な手がかりや行事を通して自分の成長に気づく。</p> <p>イ 自分の成長を支えてくれた家族などの存在に気づく。</p> <p>ウ 自分の成長に喜びを感じ、自分でできることは自分で取り組もうとする。</p>
人間関係	自分を含め様々な人々が、それぞれに生きがいをもって生きようとしていること、そのためにお互いに助け合っていることを理解し、より一層充実した共生社会の実現に貢献する資質や能力を育てる。	<p>ア 自分を含め様々な人々が、それぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、すべての人々の存在を尊重する。</p> <p>イ 人々が互いに助け合っていることを理解するとともに、自分たちの生活との関わりについて認識を深め、共生社会の実現について考え、その実現に貢献しようとする。</p>	<p>ア 身近な人々との交流を楽しむことによって、いろいろな人々に対する優しさや愛情ある関わりを知る。</p> <p>イ 先生や友だちと一緒にふれあっていく楽しさや、おもしろさが感じられるようになる。</p> <p>ウ 楽しく安心して遊びや生活ができるように、先生や友だちと関わりながら、きまりやマナーがあることを知る。</p>
学校や園での生活・遊び	学校や園での様々な活動や遊びを通して、楽しく遊んだり安全な生活をしたりするために必要な資質や能力、態度を養う。	<p>ア 園や学校で、様々な遊びや活動に親しみながら、楽しく安心して遊びや生活ができる。</p> <p>イ 園や学校、通学路の様子などに関心をもち、危険な場所や災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動ができる。</p>	<p>ア 身近なものや遊具に興味をもって、楽しく安心して遊びや生活をする。</p> <p>イ 園や学校、通学路の様子がわかり、きまりを守って登下校ができ、安全に気を付けて行動しようとする。</p>
地域生活	自分たちを取り巻く地域社会について理解と愛着をもち、構成員の一人として、よりよい社会を創る資質や能力を育てる。	<p>ア 地域社会の歴史、伝統、文化、生活、産業などについて理解するとともに、愛着をもつ。</p> <p>イ 公共物や行事も含め地域を支える人たちの働きや活動を知り、その現状や問題点について理解する。</p> <p>ウ 地域社会の構成員の一人として、地域の文化や生活等を守り、受け継ぐとともに、よりよい郷土を創っていこうとする。</p>	<p>ア 地域社会の一人として地域の文化や行事等に参加し、喜びをもつ。</p> <p>イ 公共物を利用したり、行事に参加したりすることを通して、それに従事する人々がいることに気づく。</p> <p>ウ 自分たちの生活に関係の深い施設の大切さに気づく。</p>
自然環境	身近な自然について理解と愛着をもち、自然と遊び、生活し、生きていこうとするとともに、自分でできる方法で環境の保全や望ましい環境を創る資質や能力を育てる。	<p>ア 身近な自然と積極的に関わり、季節と深く関係しながら日々の生活があること等、自然に対しての理解を深め、愛着をもつ。</p> <p>イ 環境問題と自分たちの生活との関わりについて認識を深め、自然との共存について考える。</p> <p>ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造について考え、自分にできる方法で実践しようとする。</p>	<p>ア 身近な自然にふれて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。</p> <p>イ 園や学校での遊びや行事を通して、季節により自然や人々の生活に変化のあることに気づく。</p> <p>ウ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</p>



1・2年	3・4年	5・6年
<p>ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。</p> <p>イ 自分の健康に目を向けた生活を意識し、生活上必要な習慣や態度を身につける。</p>	<p>ア 命を見つめることを通して、生きていることのすばらしさや生命の神秘・大切さに気づき、すべての生命を大切にしようとする。</p> <p>イ 健康な生活を送るために欠かせない生活習慣の大切さがわかり、自分の生活をよりよいものにしようとする。</p>	<p>ア 自分の命が周りの人々との関わりの中で育まれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命をいつくしむ心をもつ。</p> <p>イ 健康増進の仕組みを理解し、自分の生活を見直して、よりよい生活環境を創造しようとする。</p>
<p>ア 具体的な手がかりをもとに、自分の成長を実感としてとらえる。</p> <p>イ 自分の成長の背後には、多くの人々の支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつ。</p> <p>ウ 自分の成長の喜びを感じるとともに自分のよさに気づき、願いや夢をもって生活しようとする。</p>	<p>ア 生きがいをもって生活している身近な人々の活動や願いを知る。</p> <p>イ 自分自身に目を向け、自分のよさに気づき、よりよい未来に向かって意欲的に生活しようとする。</p>	<p>ア 自分たちの生活との関わりから、生きがいをもって生活している人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える。</p> <p>イ 成長の足跡を振り返り、これからの自分の生き方について考え、自己をより高めていこうとする。</p>
<p>ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。</p> <p>イ 地域や学校の人々と、助け合いながら一緒に生活しようとする。</p> <p>ウ 学校の中で気持ちよく生活をするための、きまりやマナーを守ろうとする。</p>	<p>ア ともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。</p> <p>イ 身近な高齢者、年少者、障害者等様々な人が生活しやすいように、身近なところに配慮や工夫があることに気づき、自分にもできる活動を実践しようとする。</p>	<p>ア 様々な人がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。</p> <p>イ 日々の生活は人々の支えや助けによって成り立っていることに気づき、共生社会を実現するために自分にもできる活動を進んで実践しようとする。</p>
<p>ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。</p> <p>イ 危険な場所や災害時などにおいて、その場に応じた判断ができ、自分で安全に行動しようとする。</p>		
<p>ア 地域のものや人、行事等に関わり、そのよさに気づく。</p> <p>イ 公共物や行事等に従事する人々の役割がわかり、適切に接することができる。</p> <p>ウ みんなのものという意識をもって、ルールや安全について考えながら公共物を利用できる。</p>	<p>ア 地域の身近な歴史、伝統、文化、生活、産業に関心を持ち、自分たちの生活とのつながりを考え、そのよさに気づく。</p> <p>イ 地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。</p> <p>ウ 自分も地域社会の一員であることに気づき、地域の文化や生活を守るために自分にはできることは何かを考えて実行しようとする。</p>	<p>ア 地域の歴史、伝統、文化、生活、産業などの特色に気づき、郷土を愛する心が育つ。</p> <p>イ 地域を支える人々の働きや活動の様子を知り、地域社会の現状や問題点を理解する。</p> <p>ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活等を守るとともに、よりよい社会を創っていくための方法を考え、実行しようとする。</p>
<p>ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。</p> <p>イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気づく。</p> <p>ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりすることができる。</p>	<p>ア 身近な自然に進んで関わり、自然の大切さに気づく。</p> <p>イ 身近な自然と自分たちの生活とには深い関わりがあることがわかり、私たちを取り巻く環境の現状や問題点に気づく。</p>	<p>ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め、自然を大切にしようとする。</p> <p>イ 自然と自分たちの生活との関わりについて理解を深め、人と自然との共存を図る取組について考え、よりよい環境の創造を目指して主体的に実践しようとする。</p>

教科につながる内容系列表

領域	幼稚園	1・2年	3・4年	5・6年	指導要領の領域	目標	教科
数量形	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で数の必要性や便利さに気づき、身近なものを数えたり、比べたり、分けたりする。</li> <li>記号としての数字に関心をもち、使ってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。</li> <li>ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の表し方についての理解を用いる能力を伸ばす</li> <li>加法及び減法の計算が確実にし、それらを適切に用いる。</li> <li>乗法についての理解を深め、確実にできるようにし、それを用いる能力を伸ばす。</li> <li>除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。</li> <li>そろばんによる数の表し方、そろばんを用いて簡単な加減法の計算ができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数の性質についての理解を深める。</li> <li>記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め、それを計算などに有効に用いることができるようにする。</li> <li>小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。</li> <li>分数についての理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。</li> <li>概数についての理解を深める。</li> </ul>	数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。</li> </ul>	算数
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物の量を比べたり、自分なりに測ったりする中で、量への感覚を豊かにする。</li> <li>大小、多少、長短など、量に関する言葉があることを知り、生活の中で使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの長さを比較することなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。</li> <li>長さについて理解し、簡単な場合について、長さの測定ができるようにする。</li> <li>日常生活の中で時刻をよむことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さなどについて、およその測定したり、目的に応じて単位や計器を使って測定したりできるようにする。</li> <li>面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求められることができるようにする</li> <li>角の大きさについて理解し、それを測定することができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な平面図形の面積が計算で求められることの理解を深め、面積を求められることができるようにする。</li> <li>身近にある図形について、その概形をとらえ、およその面積などを求めることができるようにする。</li> <li>体積の意味について理解し、簡単な場合について、体積を求められることができるようにする。</li> <li>異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解し、それを用いることができるようにする。</li> </ul>	量と測定		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物の色や形に興味をもち、分けたり集めたりして遊ぶ。</li> <li>物には形や位置があることに興味をもつとともに、それらに適した言葉を意識し、必要に応じて使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な図形について理解の基礎となる経験を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な平面図形についての理解を深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察できるようにする。</li> </ul>	図形		
言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の名前など、生活や遊びの中で必要なことを文字や記号で書き表そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的を考えながら、書く。</li> <li>書こうとする題材に必要な事柄を集める。</li> <li>自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考える。</li> <li>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書く。</li> <li>文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、適切に選択したりする。</li> <li>書く必要のある事柄を収集し、自分の考えが明確になるようにしながら、段落と段落との続き方に注意して書く。</li> <li>文章のよいところを見つけたら、読み返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。</li> <li>全体を見通して、書く必要のある事柄を整理する。</li> <li>自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考える。</li> <li>事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。</li> <li>表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。</li> </ul>	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</li> </ul>	国語
	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や短い文章など、話の内容がわかり、進んで読もうとする。</li> <li>文字への関心を深め、絵本や短い文章などを自分で読んでみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>易しい読み物に興味をもち、読む。</li> <li>時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。</li> <li>場面の様子などについて、想像を広げながら読む。</li> <li>語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな読み物に興味をもち、読む。</li> <li>目的に応じて、中心となる文章を正しく読む。</li> <li>場面の移り変わりや情景を、読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。</li> <li>目的に応じて内容を大きく取り上げたりしながら文章を読む。</li> <li>書かれている内容の中心や場面の様子がよくわかるように声に出して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読む。</li> <li>目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる。</li> <li>登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む。</li> <li>書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく。</li> <li>必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する。</li> </ul>	読むこと		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現したり分からないことを尋ねたりする。</li> <li>・日常のあいさつ、伝言、質問、応答、報告など日常生活に必要な言葉を適切に使う。</li> <li>・友だちと話し合うことに興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。</li> <li>・大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞く。</li> <li>・身近な事柄について、話題に沿って、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい事を選び、自分の目的に応じた適切な言葉遣いで話す。</li> <li>・話の中心に気を付けて聞き、互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。</li> <li>・話し手の意図を考えながら話の内容を聞く。</li> <li>・自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。</li> </ul>	話すこと・聞くこと		
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。</li> <li>・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</li> <li>・音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて演奏できるようにする。</li> <li>・楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。</li> <li>・歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。</li> <li>・音楽をつくって表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。</li> <li>・曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。</li> <li>・歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。</li> <li>・音楽をつくって表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。</li> <li>・曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。</li> <li>・歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。</li> <li>・音楽をつくって表現できるようにする。</li> </ul>	表現	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</li> <li>・感じたところ、考えたことなどを音や動きなど表現したり、自由にかいたり、つくったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム、旋律及び速さに気を付けて聴く、楽曲の気分を感じ取って聴く、楽器の音色に気を付けて聴くなど音楽を聴いてそのよさや楽しさを感じ取るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想の変化を感じ取って聴く、主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に特徴に気を付けて聴くなど音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を全体的に味わって聴くこと、主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかわりに気を付けて聴くこと、楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの音や声の重なりによる響きを味わって聴くなど音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。</li> </ul>	鑑賞		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。</li> <li>・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料をもとにして、楽しい造形活動をするようにする。</li> <li>・感じたことや想像したことなどを絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や場所をもとにして、楽しい造形活動をするようにする。</li> <li>・見たこと、感じたこと、想像したいものをつくったりするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や場所などの特徴をもとに工夫して、楽しい造形活動をするようにする。</li> <li>・見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。</li> </ul>	表現	表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの作品の形や色、表し方の面白さなどに気付くなどして、見ることに興味をもつようにする。また、身近な材料に触れ、その感じについて話したり、友人の作品の表したかった気持ちを聞いたりするなどしてかいたり、つくったりしたのを見ることに興味をもつようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの作品のよさや面白さなどについていろいろな表し方や材料を用いて表現したり、興味をもって見る、また親しみのある作品のよさや面白さなどに興味をもって見るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの作品や表し方の変化などに興味をもって見るとともに、我が国や外国の親しみのある美術、暮らしの中の作品などを鑑賞し、それらのよさや美しさに親しむようにする。</li> </ul>	鑑賞		
身体運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</li> <li>・進んで戸外で遊ぶ。</li> <li>・遊びの中で水に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走・跳の運動遊び、力試しの運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び、用具を操作する運動遊び、水遊び及び表現リズム遊びについて、仲間との競争、いろいろな課題への取組などを楽しく行うとともに、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができるようになる。</li> <li>・順番やきまりを守って仲間や運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けたり、水遊びの心得を守ったりすることができるようにする。</li> <li>・競争や運動の仕方を知り、活動を工夫することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走・跳の運動、力試しの運動、器械・器具を使つての運動、用具を操作する運動及び浮く・泳ぐ運動について、仲間との競争、いろいろな課題への取組などを楽しく行うとともに、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きができるようになる。</li> <li>・順番やきまりを守って仲間や運動をしたり、運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けたり、泳ぐ運動の心得を守ったりすることができるようにする。</li> <li>・競争や運動の仕方の課題をもち、運動の楽しさを求めて活動を工夫することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現及びフォークダンスについて、身近な生活の中から題材を選んで動きに変化と起伏を付けて表現したり、地域の踊りや世界の踊りを身に付けたりして、みんなで踊るを楽しむことができるようにする。また、友達やグループの表現や動きのよさが分かるようにする。</li> <li>・互いのよさを認め合い、協力して練習や発表ができるようにする。</li> <li>・自分やグループの特徴を生かした表現や踊りに取り組んだり、練習や発表の仕方を工夫したりすることができるようにする。</li> </ul>	表現運動	心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼遊びなどいろいろなルールのある遊びに興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールゲーム及び鬼遊びについて、易しい遊び方を身に付け、みんなでゲームが楽しくできるようにする。</li> <li>・規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。</li> <li>・ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム及びベースボール型ゲームについて、友達と規則を工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。</li> <li>・規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。</li> <li>・チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、競争したり、記録を高めたりすることができるようにする。</li> <li>・互いに協力して安全に練習や競争ができるようにするとともに、競争では、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。</li> <li>・自己の能力に適した課題を決め、課題の解決の仕方を工夫することができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以下略</p>	基本の運動・陸上・水泳運動・器械・陸上・水泳運動・体づくり運動		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームに適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、簡単な作戦を生かしてゲームができるようにする。</li> <li>・互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。</li> <li>・自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以下略</p>	ボール運動・ゲーム				
領域	幼稚園	1・2年	3・4年	5・6年	指導要領の領域	目標	教科

注 ・内容系列作成にあたり、小学校の学習指導要領の領域の順序を一部変更している。

・小学校指導要領の教科内容は、表の都合上一部記入を省略している。

#### 4 幼稚園の保育に関する基本的な考え方

「たっぷりと自分を生きる子」の育成をめざした幼小7ヵ年の教育課程の編成に取り組むにあたって、園生活の経験・体験を通して楽しみ、生き生きと躍動する幼児の姿、そして、遊びながらの学びを大切に、その学びが、小学校生活の中でいかされることが7ヵ年の接続につながると考える。

そのためには、日々の保育の活動内容から、どのような学びがあるか、それが小学校にどのようにつながっていくかを分析していく必要があると考えた。その目安として次のような視点で保育を見ていこうと取り組んだ。

幼稚園の遊びは総合的な遊びであることから、生活探求コースとしての「みなぎのコース」の内容としての生命・健康、自己・成長、人間関係、学校や園での生活・遊び、地域生活、自然環境という6つの領域の視点から遊びを見ていこうとした。「みなぎのコース」は、別述したように、現在の幼稚園教育要領の5領域と小学校学習指導要領の生活科・総合的な学習との関連について検討しているものである。だが、これだけでは幼稚園の活動内容の視点としては不十分ではないかという疑問も出てきた。つまり、言語、数量形などの学びも園生活では大切にしておき、その内容もきちんと位置づける必要性を感じた。そこで、「教科に発展していく内容」として言語、数量形、表現、身体運動という4つの領域の視点からも見ていこうとした。

6つの領域の視点については「みなぎのコース」の中で詳しく記述しているので、ここでは4つの領域についてふれることとする。幼稚園は生活・遊びであり、小学校は教科の部分であるため、幼稚園の4つの領域と小学校の教科領域のつながりが一致しないこともある。「言語」については経験したことや考えたことなど自分なりの言葉で表現し、相手の話言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚を育てる。「数量形」では、日常生活の遊びの中から必要を感じて数を数えたり、量を比べたり、様々な形を組み合わせていたりするなど数量や図形に関心をもつ。「表現」は、日々の生活の中での心の動きを自分の声や体の動き、素材となるものを通してイメージを広げ、感じたこと、考えたことなどを表現する力を養う。「身体運動」については、戸外での遊具を使っての遊びや集団遊び(鬼ごっこなど)などの体を使っての遊びを中心に自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。このような園での遊びの内容のうち、小学校の教科につながっていく内容をより明確になるようにしたものが「教科につながる内容系列表」(p10~13)である。1年保育5歳児のありのままの姿を大切にしながら、その時期にふさわしくたっぷりと遊ぶ生きた経験活動にしていくために、みなぎのコースの6つの領域と新たな4つの領域を合わせた、10の領域の視点から学び・育ちをとらえ、環境構成・保育支援を工夫し深まりのある内容にしていこうとした。

学びのある経験活動をする中で、小学校へどうつないでいくかも課題となった。小学校化にならないように、幼稚園の遊びからどんなつなぎ方ができるか、今までははっきりさせてこなかった。幼稚園から小学校へのつなぎ方は複雑であり、横の線でスムーズにつながるものではない。幼稚園の遊びは様々な線があり、その線がからみ合って総合的な遊びとなっている。幼稚園として小学校へのつなぎ方をはっきりさせる必要がある。そこで今回は、つなぎ方の例として、①1つの遊びでも違った活動では、育ってる中身が違う、その間にあるのは何かを探る ②まったく違ういくつかの遊びであるが結果は同じであることを明らかにする ③ねらいを1つしか求めていなかったが結果的にはたくさんの経験要素を含んでいることを明らかにする、の3点にまとめることとした。この3点についての具体的例は、以下に実践事例として述べる。

このような見方をしていく中で、子どもたちの遊びからのねらい、活動、環境構成を見ていく二週毎の指導計画を作成し、保育後には子どもたちの活動内容を振り返り、先に挙げた10の視点から見

直した。子どもたちの興味関心をより高め意欲をもって活動できるように、行動の一面だけを見るのではなく行動の背景を探り子どもの思いを大切にしながら、好きな遊びや意図的な活動のねらい達成に向け、環境構成・支援を工夫し取り組んだ。なお、p26 から提示した各月毎の表は、このような、「計画」・「保育の実際」・「幼児の姿の見取り」という一連の研究の流れ、及びその成果がわかるように示したものである。

保育を進めていく中で必ずしも、ねらいと達成される力が一致するとは限らない。ズレが生じたときは指導計画を修正していくようにした。修正改善の方法については、p19 に示した。

児童との交流的な活動の成果としては、なかよし班活動や学年交流を重ねることで幼児の学びは大きく、意欲が高まり活動内容が高度になってくることが挙げられる。1つの活動ができることに自信を持ち、次の活動へのステップアップにつながるように思われる。これは交流活動だけでなく園生活の中においても同じことが言える。今後も生きた活動内容、生かされる活動内容の追求をしていきたい。

### 【実践事例1】一つの遊びから見た時期による「学び・育ち」の違い

#### －「鬼遊び」の姿から－

##### 〈5月の遊び〉

- ・氷鬼ごっこが好きで、誰かがしようと遊び始めると「よして（入れて）」「いいよ」と集まってくる。鬼にタッチをされると「タッチされた」と泣き出す子が多く、数分も遊びが続かない。しかし、「もう一回しよう」と繰り返し遊びたい気持ちはある。
- ・かくれんぼも好み、3人ぐらいが集まると始まる。園舎の周りやウサギ小屋、植木などによくかくれる。園庭に「もういいかい」「もういいよ」の大きな声が響き渡ると、遊具で遊んでいた幼児や砂場にいた幼児も少しずつ「よせて」と言って集まってくる。中心となる幼児も出現し、「後、隠れている子はだれ?」「一番最初に見つかったん、だれ?」「じゃんけんやで」と会話をしながら進めていった。リーダーとなる幼児も、遊びの途中で嫌なことが起きると「もう、やめるわ」と遊びから抜け出してしまうことがあった。そんな時には、遊びは続かず中断してしまう。

##### 〈11月の遊び〉

6名が紙とマジックを持って園庭にでた。みんなで頭を寄せて何やら相談が始まった。

「何から遊ぶ?」

「氷鬼」

「うん」

「次は手つなぎ鬼」

「その次、かくれんぼな」

「それからサバイバル」

「増やし鬼もしたい」「最後は泥警な」

6つの遊びに挑戦しようということになる。紙にそれぞれが遊びを書き、鉄棒に貼り付けた。そして、1番の氷鬼から遊び始めた。一つ一つの遊びをクラスみんなで遊び、じっくりと遊んでいた。遊びの時間は時計で区切り、次の遊びへ移行していくこともあった。

### 【考察】

#### （5月の学び・育ちとその背景）

この時期の子どもたちは「鬼ごっこしよう」と数名で集まり、遊び始める。楽しそうであるが、実際には友だちにタッチをされて鬼になりたくないのである。『鬼遊び自体（逃げる楽しさ）への興味』が人一倍あるのである。だからタッチをされると、そのことが嫌でのがれようとしたり、悔しくて泣き出してしまいう現状である。

(1 1月の学び・育ちとその背景)

少人数で始めていた鬼遊びもクラス全員ですることが多くなった。自分たちで遊びのルールを決めてそのまわりをみんなで守ろうとするようになったり、トラブルが起きた時にはみんなが意見を出して再び遊びが続くようにもなったりしてきた。5月には「自分が鬼になりたくない」と言って泣いていた幼児も我慢をすることができるようになった。鬼遊びをしていく中で、『遊びにはルールがあり、そしてそのルールを守ることで遊びがスムーズに進んでいくこと』を学んでいった。

(5月から11月の姿の変容と背景)

本園では週1回「なかよし班活動」として小学生と一緒に遊ぶ機会がある。そのなかで幼児たちは小学生から『多くの種類の遊びの楽しさ』を教えてもらっているようであった。一方で9月頃から遊んだ後に、毎日、今日の遊んだことについてみんなで分かち合う時間をもつことにした。気づいたことやうれしかったこと、嫌なこと、こうしたらいいなと思ったこと、明日もしたいこと、頑張っていることなどを素直に話せるようにしていった。しだいに友だちの良い面が見えるようになり、別の遊びをしていても友だちのことをよく見ていて「〇〇ちゃん、今日の鬼ごっこの時にこけても泣かなかった。」と友だちのことを認める言葉が出るようになった。また、けがをした友だちのことを思いやり、今している遊びが楽しいからもっと続けるためにはどうしたらよいか考えたりすることもできるようになってきた。自分のことだけを考えていた幼児たちは『相手のことを思いやること』ができるようになった。このように、「多くの遊びの楽しさ」と「相手への思いやり」が身につけてきたことが、先に挙げた5月から11月への姿の変容である。

この事例のように、同じ遊びを継続しているように見える中でも、違う「学び・育ち」があることを教師は見取らなければならない。

【実践事例2】 同時期の異なる遊びに見られる「学び・育ち」の共通性

－「9月下旬の遊び」の姿から－

〈レストランごっこ〉

画用紙に『めにゅー』とだけ書いてテーブルの上に置いた。子どもたちはメニューを相談して毎日書き加えていく。

「私の好きなハンバーグ」

「スパゲティーのティーカいて」「うん、いいで」

「うどん作ったな」「おこさまメニュー」

「うらは、デザートにしよう」

「ジュース」「プリン」「オレンジジュースにしよう」「うん」

「コーラもする?」「わたし、かく」

覚えたての字ですばげていー、うどん、はんばあく、おれんじゅーすなどと書き込んでいった。幼児たちは作る人、運ぶ人、お客と役割を分担する。しかし、お客が思うように集まらず遊びが盛り上がり上がらないことがあった。そこで、教師は活動を取り上げ、他の子どもたちにお客になってもらうことを計画した。

「いらっしやいませ」「はい、何にしますか」

とメニューを見せる。A子は運ぶ人になりきった言葉遣いをしている。

「やきそばできる?」「ちょっと、時間がかかります」「なに?」

「まっといてな」

待ちくたびれたお客たちは「まだあ」「ここはおそいレストランやな」

「〇〇ちゃんのカレーライス、はやいな」

「あと、デザートは、何にしますか?」「プリンください」

「はい、わかりました」「いくらですか」「200えんです」

レジの係りの幼児もできて遊びが盛りあがる。

入口、出口、開店、閉店など画用紙に書いて貼り出し、保育室がレストランとなった。お客がいなくなると「お店がはじまりまーす」と大きな声でみんなに声をかける。

〈泥警ごっこ〉

泥棒と警察に分かれて捕まえる鬼ごっこである。捕まえられた泥棒は牢屋に入れられるが味方に助けられると又、外へ出られる。しかし、なかなか助けられない。

まずは味方にアピールをすることを知らせていった。

「たすけてよ」「〇〇ちゃんタッチしてよ」

でも、牢屋の前に警察の幼児がいるため、助けにいけない。それで、

「守り番やめようよ」「助けにいかれへん」「わかった」とみんなでルールを作っていた。

築山の泥棒の基地にも入ってこないように白いラインをひくことも話し合って決めた。

### 【考察】

この事例のように、異なる遊びをしているように見える中でも、同じ経験をし、同じ「学び・育ち」があることを教師は見取らなければならない。事例に挙げた2つの遊びにおける学び・育ちの共通点は『自分の考えを伝えたり友だちの意見を聞いたりして遊びを進めようとする』点にある。

最初は2、3人の遊びであったが、遊びの後の分かち合い等を通じて楽しさを伝え合い、「一緒にしたいなあ」「おもしろそうだなあ」という気持ちになっていったことが、これらの姿の背景にある。交友関係の深まりと共に、クラス全体で遊ぶ中で、遊びの決まりやイメージを共通理解できるようになった。さらに、そのことが継続して遊びを展開していく意欲にもつながっていったと考える。

### 【実践事例3】一つの遊びに含まれる「学び・育ち」の多様性

—「劇遊び」の姿から—

11月から12月にかけて次のようなねらいを挙げた。

- ・友だちと思いや考えを伝えあいながら楽しく遊ぶ。(11月1・2週)
  - ・友だちと考えたり工夫したりしながら目的をもって取り組む。(11月1・2週)
  - ・自分たちで遊びを進めていくことを楽しむ。(11月3・4週)
  - ・自分たちがしている遊びを友だちや家の人たちに見てもらい喜びを味わう(12月1・2週)
- このねらいを達成するため、『11ぴきのねこ』のお話をごっこ遊びとして採り上げた。

幼児たちは、毎日、ねこと魚に分かれてその場面にあう会話を楽しみながら遊ぶ。

みんなで声をそろえて言うところと一人でナレーションを言う場を設けると、恥ずかしがらずに表現ができた。

望遠鏡、さかな、島、を作り、表現する時にそれを使っていた。

積木で船を作り、上に旗を掲げ「船に乗って大きな魚を捕まえに行く」場面の表現をする。

表1 「11ぴきのねこ」の劇遊びの展開

学び・育ち 幼児の実際の姿	言語	数・量・形	表現	身体運動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「11ぴきのねこ」の絵本を見る</li> <li>・暗闇の中でみんなが魚を食べた場面の面白さを話し合う。</li> <li>・双眼鏡を作る。</li> <li>・ラップの芯やトイレトーパーの芯にテープや紙を貼る。首からぶらさげて遊ぶ。</li> <li>・積木を舟に見たて組み立てる。</li> <li>・船上に国旗を挙げる。</li> <li>・「ねこ」役になる。</li> <li>・物語の筋に基づき「魚」や「ねこ」役の動きをする。</li> <li>・演技の仕方を自分たちで考え出す。</li> <li>・背景を作る。 ダンボールに絵具で色を塗る。 木・湖など</li> <li>・道具を作る。 色を塗る。 魚を製作する。</li> <li>・子守り歌をうたう。 全員で歌う。</li> <li>・ナレーションや役に応じた「言葉」を考える。</li> <li>・自分たちでせりふを考えて話す。</li> <li>・役を代わり合って遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に親しみ興味をもって聞いた。</li> <li>・お話が好きになった。</li> <li>・ストーリーを理解しながら繰り返し遊んだ。</li> <li>・自分の役割分担を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積木の数の加減により舟の大きさや形を工夫する。</li> <li>・獲物を手に入れて喜び勇んで順序よく島に帰る。</li> <li>・「ねこ」役の人数を数える。</li> <li>・「ねこ」が魚を捕まえる道具を数えるために数の対応に気づいた。</li> <li>・立体的な物を構成した喜びを得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を想像し興味のある所を友だちと遊ぶ。</li> <li>・「ねこ」と「魚」になって身体で表現することを楽しんだ。</li> <li>・イメージをふくらませ、いろいろな表現をした。</li> <li>・おおきな画用紙やダンボールで作ったり描いたりした。</li> <li>・話の筋に合ったイメージの曲を選ぶ。</li> <li>・曲の特徴から、歌い方を工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の中で泳ぐ「魚」になってジャンプすることを楽しんだ。</li> <li>・積木の舟での活動では、段の上へ上がる活動を喜んだ。</li> </ul>

【考察】

教師は、子どもたちの考えに共感し、クラス全体へ広げていくことを心がけた。この活動をする中で幼児は、お話に十分興味を持ち、登場するものや内容を理解できていた。また、自分の考えたイメージを言葉や動きなどで表現し、演じる楽しさを味わうことができた。上記に挙げたねらいを達成することができた。

一方で、表1に示したように、ねらいに関わること以外の「学び・育ち」も見られた。これらは、一つの遊びに含まれる「学び・育ち」の多様性を示すものである。教師はねらいに向けて環境構成や援助をしていくが、幼児は工夫をしながら主体的に遊びを進める中で、ねらいを越えて様々なことを学んでいることがわかる。



## (1) 指導計画の改善

### 【改善例1】10月の指導計画

〈改善点〉－「ねらい」の改善－

「ねらい」の項目に次の2点を加える。

- ・のびのびと身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・友だちとルール決め、力を合わせて遊びを進めていく。

〈改善の理由〉

10月は園周辺の木々が色づき始め、どんぐりの実が落ち始める。そのどんぐりや木の葉を使っての遊びをクラスみんなで考え、2年生のしていた遊びを参考に新しい遊びを考え出すこともできた。また、友だちと相談しながら遊ぼうとすることができるようになってきた。このように、子どもたちは、自然物を使って遊ぶことに興味や関心をもった。これらの遊びを展開しながら、遊びを進めていくと教師は予想をしていたが、実際には、活動的なドッジボールや、今までとは違うルールでの新しい手つなぎ鬼などの、刺激のある遊びも展開した。また、自分の力に挑戦しようとなわとびに挑戦し、跳ぶ回数が増え、喜びも倍増した。それが次第に自信となり、他の遊びにも頑張ろうとする姿が見られた。体を十分に動かすのに適しているこの10月には、これら園児の実態から考えて、体を動かす遊びの中に含まれているねらいを加える必要がある。

### 【改善例2】12月1～2週の指導計画

〈改善点〉－「幼児の生活（幼児の実際の姿）」「環境構成のポイント」の改善－

次のような活動も「幼児の生活」に表れるようにする。

- ・サバイバルや高鬼をする。
- ・サッカーをする。

そのために「環境構成のポイント」として、次の内容を加える。

- ・幼児が戸外で遊べるように新しい集団遊びを教師が仕掛ける。

〈改善の理由〉

12月のねらいは、『寒さに負けずに戸外で元気よく遊ぶ』としているが、実際には寒い日が続き、保育室で遊ぶことが多かった。11月より遊んできた「11ぴきのねこ」のお話ごっこをしたり、すごろく遊びをしたり、また、発表会のために用意していた木琴にも興味をもち、戸外へ出ることが少なかった。そこで、寒い日にできた氷を取り入れて冬の自然に興味をもたせたり、身体が温まる集団遊びに誘ったり、また、新しい集団遊びを仕掛けたりして幼児の関心を戸外へ向けるように、ねらいに沿った幼児の遊びの姿が増えるよう環境構成を工夫することが望ましい。

### 【改善例3】6月の指導計画

〈改善点〉

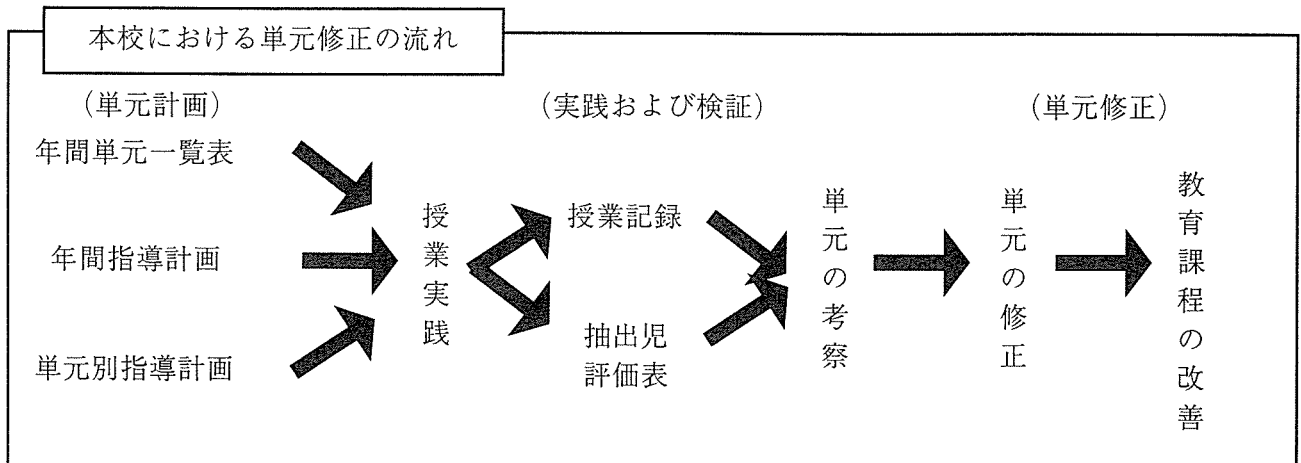
なし

〈その理由〉

6月はねらいに沿って、砂・水・泥などの感触を味わうことが十分にでき、また、5、6人の友だちと考えてたっぷりと遊ぶこともできた。さらに、小学校との合同運動会を計画・実施するなかで、小学生のなかへ入って一緒に活動することが多くあった。運動会では、成長の過程を保護者の方やお客様に観てもらおうという満足感を得ることもできた。以上のことから、環境構成と遊びの活動内容が一致し、ねらいが達成できたため、指導計画の改善は必要なかったと考える。

## 5 小学校単元修正の基本的な考え方

本校における単元修正については次のような流れになっている。



### （1） 単元計画及び単元の立ち上げ

この段階では、「みなぎのコース」内容系列表をもとに、1年間子どもたちとともに活動しながら何を子どもたちにふれさせていくのか、何を学ばせていくのかについての計画を立て、単元ごとに単元別指導計画を作成する。「みなぎのコース」は、活動主義の学習である。つまり、子どもたちが望んで熱中する活動を進めていく中で、多くの学びを子どもたちが身につけていくという学習である。そこで、単元計画の段階では、子どもたちが「よし、やってやろう。やってみよう。」という活動の材や活動内容を探し、子どもたちに内発的動機付けを行っていく必要がある。そこには、指導者として「みなぎのコース」内容系列表との関係やその活動のねらいをしっかりと押さえておくことはいうまでもない。単元別指導計画の経験活動の項目には、子どもの活動が明確に表される表現をすることが原則となる。そのことにより、その活動を通して達成される「みなぎのコース」内容系列表の内容や、その活動のねらいが見えてくることになるのである。

本校では、「みなぎのコース」の単元の立ち上げに際して、次の5つの条件が満たされるよう検討を行う。

- ① 「よし、みんなでそうしよう。」といった子どもの興味や関心がある単元であるか。
- ② 連続的・持続的に探求活動が続いていく単元であるか。
- ③ 人との関わりをふんだんに盛り込んだ単元であるか。
- ④ 体験的活動がふんだんに入った単元であるか。
- ⑤ 幼小・異学年との関わりがある単元であるか。

### （2） 単元の実施と検証及び教育課程の改善

単元修正とは、具体的には単元別指導計画の修正のことである。

単元修正については、単元の実施中にも絶えず行われていく。実施している単元がよいものかどうかという評価のものさしは、活動の中で見せる子どもの姿であることはいうまでもない。本校では、そのものさしとして、次の5点を検討材料としている。

- ① ひと・もの・ことに対して子どもたちの興味・関心が高まったかどうか。
- ② 子どもたちに知的好奇心がついてきたかどうか。
- ③ 調べていこう・関わっていこうという姿勢が子どもたちに強くみられるようになってきたか。
- ④ 自分から進んで課題に対して取り組みを進め、力が必要なときは他の人の協力を求め、課題に対して立ち向かっていこうとする力が子どもたちについてきたかどうか。
- ⑤ 自己肯定感・信頼感が身に付き、臆せず表現する力が子どもたちについてきたか。

特に、単元を通して子どもの変容を明らかにするために、各クラスとも3名の抽出児を決めて記

録をとり、その評価の材料としていく。各クラスでの抽出児については、「みなぎのコース」の中で、積極的に活動を行い学びの足跡がしっかり残していける児童と、活動の中で多くの配慮を要し児童自身では活動が進みにくい児童と、いずれにも属さない児童をそれぞれ1名選んだ。その児童の姿が単元評価のもととなる。

公開授業をはじめ、部会内での授業検討会では、授業記録とともに抽出児評価表を記録として残し、単元修正の資料として活用している。具体的な修正の手順は、上述のとおりである。

尚、単元指導計画の修正は、以下に5年生の例を提示している。修正箇所については、★印を単元別指導計画表に記入し、その根拠も明確にしている。

以上の活動をもとにして、最終的な単元修正を行い、次年度に向けた資料単元を作成してきた。そして、この過程での内容系列表の見直しも図っている。

以下に5年生での修正例を示す。

## 単元修正例

### 第5学年

単元名 口吉川っ子の元気づくりに挑戦しよう

(9月～3月)

#### 1 単元設定の趣旨

本単元は、「自分たちで全校生の元気づくりの遊具を作りたい」という5年生児童の願いをもとに設定したものであり、自分たちの体や体力をしっかりと見つけ、健康な生き方をするための素地づくりができる。と同時に、体力測定(元気度チェック)をする、遊具を作る、といったアクティブな単元構成は、児童が新鮮な気持ちで学習を進めていくものと考えられる。特に、活動的な児童が中心となって活動をリードしてくれること、普段あまり体を動かさない児童にとっても新しい刺激になることが期待できる。

人と関わるという視点では、自分やクラスの友だちについてしっかりと見つめること、その特性を見出すことを大切にす。さらに、他学年児童に向かって呼びかけたり、説明したり、全校生を動かす企画を立てたり、実行したりという働きかけを体験することで高学年としての自分を再確認し、失敗の中にも自信をつけていくことに意義があると考え。また、自分の個性(特性)を生かした生き方をしておられる先輩や生涯を健康に過ごそうと体力づくりを続けておられる地域の方の存在に気づくことは、憧れや尊敬の念を発展させ、自分の生き方や健康についてより良い方向を探し出そうとする力につながる。

#### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 自分の命が周りの人々との関わりの中で育まれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命をいつくしむ心をもつ。
- 生 イ 健康増進の仕組みを理解し、自分の生活を見直して、よりよい生活環境を創造しようとする。
- 成 ア 自分たちの生活との関わりから、生きがいをもって生活している人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える。
- 成 イ 成長の足跡をふりかえり、これからの自分の生き方について考え、自己をより高めていこうとする。

#### 3 目標

- ・自分や友だちの体力の特性を調べることを通して、体の仕組みや成長、健康には生活の仕方が大きく関わることを知るとともに、健康に過ごすために生活を見直し、改善しようとする。(生一ア、イ)
- ・全校生につけたい体力を見極め、体力増進をめざす中で、元気づくりの遊具を作ったり、「元気度アップ運動会」を開いたりするといった全校生に働きかける活動を、友だちと協力しながらやりとげることができる。(生一イ、成一イ)
- ・各家庭の健康料理を調べる中で、家庭での健康の工夫を知り、自分の命や健康が周囲の人に支えられていたことに気づくとともに、食生活からも、自分や家族、地域の健康づくりに努めようとする。(生一ア、成一イ、地一ウ)
- ・自分の個性(特性)を生かして生活しておられる人から話を聞いて生き方に学んだり、お世話になった感謝の気持ちを伝えたりしながら、自分の成長や将来について考えることができる。(成一ア)

## 4 展開

### <主な経験活動>

ア 元気度チェックをしよう

< 8時間 >

### <具体的な経験活動>

- ①クラス版元気度チェックの計画を立て、準備をする。
- ②協力し合い、自分たちの力で元気度チェックをする。
- ③全国平均と比較して、自分の体力やクラス全体の傾向をつかむ。
  - ・優れている力
  - ・劣っている力
- ④健康増進や阻害の原因を考え、生活の中で努力することを話し合う。

### <具体的な目標>

- 今までの経験や知識から体力チェックの方法を考えようとする。
- チェックに必要な材料や道具を集めたり、方法を調べたりして、正しいチェック実施のために進んで活動する。
- 体格や体力を調べるいろいろな方法や体を動かす筋肉や骨の役割がわかり、自分の体の特性を大切にしようとする。
- 体や心の健康には、生活の仕方が大きく関わっていることに気づき、自分の生活を見直し、改善しようとする。

イ 口吉川っ子に必要な体力を見つけよう。★1

< 6時間 >

- ①全校生版元気度チェックの計画を立て、全校生に参加の働きかけをする。
- ②全校生版元気度チェックをする。(課外)
- ③学年データを全国平均と比べながら、口吉川っ子に必要な体力を見つける。

- 参加の呼びかけや学年に合わせたチェック方法を工夫しようとする。
- 参加者に合わせた接し方をしながら、正確なチェックや記録ができる。
- 集めたデータから、口吉川っ子に必要な体力を見つけることができる。
- 学年ごとや学校全体の体力の傾向を正しくつかみ、全校生の体力増進に努めようとする。

ウ 元気づくり遊具を作ろう

< 9時間 >

- ①必要な体力をつける方法や道具を調べ、試す。(＋課外)
- ②スーパーとびなわ作りの計画を立てる。
- ③材料を集め、自分用のとびなわを作る。
- ④全校生用の遊具を作る。
  - ・とびなわ、竹ぼっくり
- ⑤遊具使用のルールを決め、設置する。

- 体力増進に効果的な運動や道具について自分なりに調べ、生活に取り入れようとする。
- グループの友だちと協力し、意欲的に計画を立てたり、遊具作りをしたりする。
- 地域の竹細工名人に教えてもらい、身近にある竹の特性を生かしながら、丈夫で安全な遊具作りをして、みんなの元気づくり役に役立てようとする。

エ 全校生に元気づくりの会員証を渡そう ★2

< 2時間 >

- ①会員証の作り方を相談する。
- ②分担して、各学年の会員証を作る。
- ③作った会員証を渡し、遊具の使い方を説明する。(課外)

- 自作の遊具に誇りを持ち、全校生に大切に活用してもらうための方法を工夫することができる。
- 友だちと協力しながら、相手が喜んでくれる会員証を作り、確実に渡すことができる。
- 担当した学年の児童に合わせて、会員証や遊具の使い方を説明し、全校生の健康づくりを効果的に進めようとする。

オ 「なわとび世界チャンピオン」に全校生で教えてもらおう ★3

< 5時間 >

- ①「ようこそ世界チャンピオン」の会の計画を立てる。
- ②係ごとに準備をする。
  - ・司会 ・ポスター作り
  - ・チラシ作りなど
- ③「ようこそ世界チャンピオン」の会を開く。
- ④チャンピオンと交流する。(課外)

- なわとびチャンピオンの存在を知り、直接教えてもらうことで、自分たちの健康づくりに生かそうとする。
- 係に分かれて準備を進めながら、全校生が楽しく会に参加できるよう工夫することができる。
- チラシやポスター、直接の声かけなどで、自分から地域の人に関わったり、健康づくりの活動を広めたりすることができる。
- 自作の遊具のよさに気づいてもらうために、参加者に活用してもらう方法を考えようとする。
- 子ども時代からがんばってこられた先輩の話を聞き、その生き方を考えることで、自分の特性を見つめたり、運動に意欲をもったりできる。

カ 元気度アップをたしかめよう

< 3時間 >

- ①第2回クラス版元気度チェックをする。
- ②前回のデータと比べ、自分やクラス全体の体力の伸びを見つける。

- 正確な体力の測定がスムーズにできるよう、自分の役割を果たしたり、グループごとに協力したりできる。
- 自分やクラス全体の体力が向上していることから、なわとびや運動を続けた成果であることに気づき、さらに体力増進のための努力を続けたり、工夫したりしようとする。

キ 健康メニューでお祝いパーティを開こう

< 6時間 >

- ①「わが家のおすすめ健康メニュー」を調べ、パーティの計画を立てる。
- ②お祝いパーティを開き、「おすすめメニュー」自慢をする。
- ③健康レシピ集を作り、いろいろなメニューを家族に紹介する。(＋課外)

- 健康メニューを調べることで、親や家族が食事に心を配り、自分たちの健康づくりをしていてくれることに気づき、感謝の気持ちをもつ。
- 健康メニューを自分で作り、そのよさをみんなに紹介したり、友だちのメニューから健康増進の工夫を見つけたりして、認め合うことができる。
- 今までの活動でがんばったことやよかったことをふりかえり、喜び合う。
- よいと思ったメニューを、家族に紹介したり、作ったりして、自分の食生活をより健康的なものにしようとする。

ク 「元気度アップ運動会」で6年生を送ろう

< 4時間 >

- ①「元気度アップ運動会」の計画を立てる。
  - ・6年生に感謝を表す
  - ・なかよし班対抗
  - ・元気づくり遊具使用
- ②役割ごとに「元気度アップ運動会」の準備をする。
- ③「元気度アップ運動会」を開く。(課外)

- ねらいに合わせて、自分たちが作った遊具を活用できる内容を工夫し、運動会開会に積極的に取り組もうとする。
- 運動会を成功させるための自分の役割を選び、友だちと協力して準備を進め、6年生や下級生に喜んでもらうとする。
- 6年生を送る在校生代表として、全校生の動きを考えて行動する大変さを味わいながら、運動会をやりとげた達成感をもつとともに、最高学年進級への自信と意欲をもつことができる。

## <支援上の留意点>

- 体力チェックなどの測定や分析に関しては、正確さが大切であることを、過去のデータや他との比較を通して、繰り返し知らせ、正確で公正な活動を意識づける。
- 製作活動では、作る児童・使う児童の安全意識の定着を図るために道具・材料の扱い方、仕上げには、特に注意を払っていきう言葉を掛けるとともに、使用前の点検を十分にします。

## 5 単元修正に関わる活動の実際

この単元の取組は、昼休みに遊具を使って楽しそうに遊ぶ他学年児童の姿を見て「おもしろそうや」「あんな遊具を作ったらみんなが元気になるし、喜んでくれる」という言葉がきっかけだった。薬草図鑑を完成させることで終えた前単元との連続性を持ち、健康に関わる学習を進めたいという全員の思いが一致し、「口吉川っ子の元気づくりに挑戦しよう」を成立させたものである。

単元構想の段階では、子どもたちの思いを生かし、主な経験活動として「ア クラス版元気度チェック、全校生版元気度チェック」を設定し、個々の体力を測定した時点で、作りたい遊具を調べ、すぐに遊具作りに取りかかる計画にしていた。ところが、チェック実施の途中で測定方法が一定でなかったり、クラスの傾向をつかむために子どもたちが集めてきたデータを集計する時点で、不正確なデータが混じっていることがわかったりした。このままでは、この活動があまり深まりのないものになってしまうだろう、じっくりと体力について比較、分析し、本校児童に不足している体力や十分に備えている体力を見極めてから、本当に役立つ遊具、全校生の体力づくりに必要な物を製作する方が子どもたちの学びをより価値あるものにするだろうと思い、子どもたちに提案してみることにした。この教師の投げかけによって、子どもたちも自分たちの取ったデータを改めて見直し始め、K男のように「〇〇のチェックは、やり方の違う時があったかもしれません。」と言いに来た児童もあった。

そして、再び子どもたちと話し合い、元気度チェックのデータから体力の傾向を的確にとらえるために、具体的経験活動としての「口吉川っ子に必要な体力を見つけよう」を設定し、活動に入った。それによって、本校児童に乏しい体力として瞬発力、全身の筋力を高めるという課題が明確になり、それを解消するための方法として、子どもたちは、なわとびに目を向けていった。

そこで、私は、以前から運動の苦手な数名の児童に出合わせたいと思っていた「スーパーとびなわ」という手製とびなわを投げかけていくことにした。教室で初めてこのとびなわを紹介した時、あやとびを一度も跳んだことのなかったM男がなわを手にし、数回の練習であやとびが跳べたのである。周りの児童からもワーッと歓声が上がった。この活動をきっかけに、子どもたちは、自分たちでも「スーパーとびなわ」作りをしたい、みんなでがんばってみよう、とはりきり始めた。

竹細工に堪能なH子の祖父に教えてもらいながら、材料の竹を家の周りで集め、切る、ゆでるなど自分たちの手で下処理をして、製作していった。自然豊かな口吉川地域ならではの取組ができたのである。

一生懸命に竹のこぎりで長さを揃えて切るみんなの中で、「次は、…するんやろ。」と友だちにつぶやきながら、生き生きと作業する抽出児Aの姿が目立っていた。子どもたちは、使ったことのない電気ドリルで細い竹に穴を開けたり、何度も校務員さんに尋ねに行ったり…と、休み時間も忘れてこの活動に没頭していた。

自分用のなわができあがり、試し跳びをしようと校庭へ飛び出す姿、「跳べたよ。」と教室に駆け上がり小躍りする姿から、この経験活動は、子どもたちに、協力して作る喜びと自分の力の向上に気づく喜びを味わわせることができるものだったと感じた。子どもたちは、自分が味わったなわとびの楽しさ、上達の喜びを全校生にも、と全校生用のとびなわ作りに向けて思いを強めていった。

このような取組をする中で、元気度チェックを受けていない児童が各学年数名ほどいる。また、高学

年の中には、測定に抵抗を感じる児童もいるという問題点が出てきた。

子どもたちは、この課題をどうしたらよいのかを考えながら、何度も担当学年の教室に呼びかけに行った後、どうしたら受けてもらえるかを全員で話し合うことにした。「(元気づくりの) 会員証を作って、受けた子に渡そう」「会員証がある子は、ぼくらの作った遊具を使えることにしよう。」と、次々に意見が生まれ、その結果、ウの活動の延長として、新しい経験活動「全校生に元気づくりの会員証を渡そう」を展開することになった。

自分の担当学年へ出かけ、デジタルカメラで一人ずつ顔写真を撮る。印刷した写真を台紙に貼り、ラミネーターを通す。パンチで穴を開け、ゴムを通す等、この自分たちのアイデアから生まれた活動を入れることによって、5年生の子どもたちは、自分たちが作った遊具を全校生に喜んで使ってもらえるという達成感を味わい、他学年児童は、自分も元気づくりの一員として体力づくりをしているという連帯感を味わうことにつながった。また、休み時間を惜しまず、友だちと声を掛け合って写真を撮りに行く、学年担任の先生から名簿をもらってきて、チェックを受けてない子を調べ、その子に「全校生のデータを取ることが大切だから…」と頼みに行く、何度も話し合いを重ねて、もう一度元気度チェックの時間を取ろうと決める等、活動の中で見えてきた子どもたちの姿からも、さらに大きな成果を挙げたということが言える。

このような子どもたちの姿を見、いよいよ、子ども時代からがんばってこられた先輩に出会わせる時期が来たことを感じた。本物の人の生き方に出会わせることで、子どもたちが感動を受け、心に刻むことができる、直接教えてもらうことで、子どもたちの活動がいつそう高まると考えたからである。

本物に出会わせるこの活動は、構想段階では、主な経験活動「ア 元気度チェックをしよう」の中で、具体的な経験活動として位置づけていたが、新たに「オ『なわとび世界チャンピオン』に全校生で教えてもらおう」として、主な経験活動に設定した。

世界で唯一の人に出会えるこのチャンスに心躍らせた子どもたちは、全校生に楽しみながら参加してもらおう、チャンピオンに自作のスーパーとびなわを試してもらおう、地域の人たちにも呼びかけ、一緒に参加してもらおう、と意気揚々と相談、能動的に取組を進めていった。

作ったポスターは、校内以外にも、地域の公民館、掲示板、商店、コンビニ、郵便局など考えつく場所に持って行ってお願いし、掲示の許可をもらった。普段、クラスでもあまり口数が多くない子たちが、2人で「どう言う?」「どっちが頼む?」と頭を寄せ合いながらポスターを抱えて出かけて行く様子も見られた。チラシも、校内用のほかに地域用を作り、帰り道に小学生のいない家庭にも配布していった。中には、20枚位持ち帰り、配りきった児童もいた。

当日、保護者の方々に混じって、初老の女性が来られ、「〇〇ちゃんが、『来てね。』って言ってくれたから…」と話して下さったことが、クラスの児童にも大変印象的だったようだ。また、今年校区内に移転された小規模作業所「ジャガイモの家」の方々が、学校まで歩いて来て下さり、チャンピオンの妙技に歓声を上げておられたことも有り難かった。

こうして子どもたちが、地域とも関わりながら、本物の技の迫力、すばらしさを心に刻んだことはもちろん、チャンピオンのお話の中から、その生き方を知り、自分のこれからは思いをめぐらす児童もいた。

今回の単元における修正、主として、子どもの興味、関心や思いをベースにしながら、主な経験活動の順序を変えていくこと、また、より価値あるものに出会わせようと教師が投げかけていくこと、特に、本物の人との出会いは、子どもたちの自己成長にとっては、非常に大きな価値があり、学びがいつそう深いものになった例である。

## 6 7ヶ年の教育課程の編成とその内容

### (1) 幼稚園の指導計画及び幼児の学び・育ち

本幼稚園では、以下のように指導計画を作成し、活動の足跡を整理した。

○指導計画の内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の日々の生活の連続性であるとか、季節の変化等を考慮しながら、幼児の興味や関心、5歳児の発達の実態等に応じ設定したものである。

○幼児の実際の姿の欄は、以上のような計画の下、幼児が園生活で友だちや教師とともに生み出した具体的な活動である。

○幼児の学び・育ちの欄は、幼児が環境に関わって様々な体験を積み重ねる中で培ってきた生きる力の基礎となる心情、意欲、態度等を10領域の視点から整理したものである。

### 幼稚園月別指導計画

( 4 月 ) (第1～2週間)

(第3～4・5週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式に喜んで参加する。</li> <li>・自分の好きな遊びを十分に楽しむ。</li> <li>・春の自然に親しみ、周りの様子に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で友だちと身体を十分に動かして遊ぶ。</li> <li>・自然などの事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</li> <li>・花の名前に気づいたり、小虫をさわって友だちと遊んだりする。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張や不安を抱えている子どもには、一人一人笑顔で温かく迎え、喜びを感じとれるようにする。</li> <li>・教師から大きな声であいさつし、しっかりあいさつをするように求める。</li> <li>・一人一人の様子を見守り、個に応じたことばかけを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の草花や虫に関する絵本や図鑑などを目につきやすいところに置いておく。</li> <li>・草花摘みや虫探しなど、春の自然にふれる機会を大切に</li> <li>・チューリップの花びらなどを遊びに取り入れ、春らしさが感じられるようにする。</li> </ul>
	幼 児 の 実 際 の 姿	砂遊び ままごと遊び スケートー 固定遊具で遊ぶ……>	ジャンケン列車 ドンジャン 新聞紙で遊ぶ 花びら・草花で遊ぶ(たんぼぼ) 氷鬼……>      かくれんぼ……>
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと役割を話し合う。遊びの中にルールや約束があることを知る。</li> <li>・いろいろな遊具に興味をもって、使うようになる。</li> <li>・春の草花を使って遊ぼうとする。</li> <li>・ジャンケンで勝負を決める楽しみに気づく。</li> <li>・ルールを守って楽しく遊ぶ。</li> <li>・園周辺にあるものに気づく。</li> <li>・先生や友だちの名前を知る。</li> <li>・人数と長さの対応に気づく。</li> <li>・1枚の新聞紙から変化をさせて遊ぶ。</li> <li>・知っている歌を歌う。のびのびと表現して遊ぶ。</li> <li>・バランス感覚を楽しむ。</li> <li>・ブランコのゆれやスベリ台のスピード感を楽しむ。</li> </ul>	
	自己・成長		
	人間関係		
	学校・園での生活・遊び		
	地域生活		
	自然環境		
	言語		
	数量形		
	表現		
身体運動			



( 5 月 ) (第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導	ね ら い	・園や学校での遊びや行事を通して、季節により自然の変化のあることに気づく。 ・春の自然物や小虫と遊んだり、こいのぼりを作ったりする。 ・友だちと関わりをもちながら十分楽しんで遊ぶ。	・のびのびと体を動かして遊ぶことを楽しみ、開放感を味わったり自分の力を試したりする。 ・公共物を利用したり、行事に参加したりすることを通して、それに従事する人々がいることに気づく。
		環境 構 成 の ト	・晴れの日には戸外で体を十分に動かせるように、全員で行う活動計画をする。 ・テントウムシ、マルムシ、くまん蜂など春の小虫に目を向けさせながら、その様子に気づく。 ・小学生と一緒にこいのぼりを作ることでふれあいの機会を多くもつ。
幼 児 の 実 際 の 姿		<p style="text-align: center;">砂遊び</p> こいのぼりを作ろう(1・2年生) サッカー……> ドッジボール……> かけっこ……> シャボン玉 かぶとを折る ダンボール箱で遊ぶ テントウムシ・マルムシと遊ぶ。 リレー フープ……> お母さんの顔を描く 遠足に行く<宝塚ファミリーランド> (1・2年生)	
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	・戸外で元気よく、友だちと関わって遊ぶようになる。	
	自己・成長		
	人間関係	・小学生と話をしながら作っていくことを喜ぶ。	
	学校・園での生活・遊び	・仲の良い友だちと一緒に遊びを進めていく。	・ルールを守りながら遊ぶ。
	地域生活	・園外へ出かけ、地域の人々とあいさつをすることができる。	・公共の施設でのきまりを知り、守る。
	自然環境	・砂の感触を十分に味わう。 ・シャボン玉のできる様子や色に気づく。	
	言語	・遊びの中で「寄せて」と言えるようになる。	
	数量形	・三角形の形を知る。	
表現	・いろいろなものになって遊ぶことを楽しむ。		
身体運動	・友だちと競走することを楽しむ。 ・ボールを手で投げたり、蹴ったりすることを楽しむ。		

( 6 月 ) (第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導	ね ら い	・砂・水・泥などの感触を味わいながら楽しく遊ぶ。 ・自分の思ったことを伝えたり、友だちの話を聞いたりして楽しく遊ぶ。 ・梅雨期の自然の様子や動植物の様子に関心をもつ。	・いろいろな遊びを通して自分なりのめあてをもって遊ぶ。 ・思いや考えを伝え合いながら友だちと楽しく遊ぶ。 ・友だちと関わって好きな遊びを楽しむ。
		環境 構 成 の ト	・小学校との合同の運動会にむけて、挑戦したり試したり考えたりして遊べるようにする。 ・泥・水遊びをする時に、水の流れる様子確かめて工夫し、いろいろな素材を水に流して遊べるようにする。 ・小学校の校庭での練習で配置や距離を理解し、活動ができるように支援をする。目印となるものや木などで指示し、その子に応じて支援をする。
幼 児 の 実 際 の 姿		<p>砂遊び……&gt; 泥・水・田んぼで遊ぶ……&gt; 魚つりごっこ</p> 玉入れ 運動会競技 かけっこ フープ 開閉会式 なわとび……> 綱引き 1・2年生と合同練習 表現 お父さんの顔を描く ダンス「勇気100%」 玉入れ お料理作り(ホットケーキ)	
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康		
	自己・成長	・自分で目標を決めて遊びに挑戦をする。	
	人間関係	・友だちと相談して自分の役割を決める。	
	学校・園での生活・遊び	・友だちにほめてもらい、がんばろうとする。	
	地域生活	・みんなで力を合わせて競技を楽しむ。	
	自然環境	・泥の感触を身体全体で味わう。・水や砂の変化に気づく。・シャワーや水に慣れて水遊びを十分に楽しむ。	
	言語		
	数量形	・数を数える。(1つ、2つ…) ・数の大小から勝敗を知る。 ・順番を知り、並ぶことができる。	
表現	・得点につながることに気づく。		
身体運動	・自分の感じたことを身体で表現する。・曲のリズムを感じ楽しむ。・友だちと協力して1つの形に表現する。		
		・力いっぱい、ゴールをめざしてまっすぐ走る。	

( 7 月 ) (第1~2週間)

(第3~4・5週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の遊びを十分に楽しむ。</li> <li>・プール遊びを楽しみ、水に親しんだり友だちとふれあったりする。</li> <li>・気の合った友だちとグループを作り一緒に楽しむ。</li> <li>・野菜の世話をし、成長を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと関わりながら自分なりのめあてをもち、試したり工夫したりする。</li> <li>・夏の自然に親しみ、自然と触れ合う中でいろいろな事象に興味や関心をもつ。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水や泥に抵抗がある子には徐々に慣れるようにし、できるようになったことに対しては共感し、がんばりを認めて、次への意欲づけにする。</li> <li>・脱いだ服や汚れた服などの始末がしやすいように手順を知らせたり、服を椅子に置きシートの上で着がえることを知らせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが感じたり、気づいたりしたことに共感し、充実感が味わえるようにする。</li> <li>・異年齢児や地域の人々と交流をし、楽しめるように環境づくりをしておく。</li> <li>・水に対して抵抗のある子どもには汽車ごっこや貝拾いなどをして楽しませ、水に慣れさせる。</li> </ul>
	幼 児 の 実 際 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>プール遊び……&gt;</li> <li>水遊び 魚つりごっこ……&gt;</li> <li>わらべ歌(おちゃをのみにきてください)</li> <li>虫さがし……&gt;</li> <li>笹かざり</li> <li>うんてい……&gt;</li> <li>鉄棒……&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドッジボール……&gt;</li> <li>しゃぼん玉……&gt;</li> <li>しっぽとり</li> <li>いすとりゲーム(カレーライス)</li> <li>氷鬼……&gt;</li> <li>お店ごっこ</li> <li>サッカー</li> <li>野菜スタンプ</li> </ul>
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バッタを捕まえて飼育をし、生命を大切にすることを理解する。</li> </ul>	
	自己・成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の決めた課題に向けてがんばろうとする。</li> </ul>	
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな歌声を聞くことを楽しむ。 ・友だちと一緒に話をしながら遊びを進める。</li> </ul>	
	学校・園での生活・遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笹をきれいに飾り、願いごとをして七夕まつりを楽しむ。</li> </ul>	
	地域生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と歌を唄ったりきれいな歌声を聞いたりすることを楽しむ。 ・異年齢の子どもと水遊びを楽しむ。</li> </ul>	
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石のくっつきに気づく。 ・野菜の中身に興味をもつ。</li> </ul>	
	言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの言葉を聞いてすばやく行動する。 ・はんこ遊びの楽しさに気づく。</li> </ul>	
	数量形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水遊びで水の中で、10数えることができる。 ・三角、四角を知る。</li> </ul>	
表現			
身体運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の中に顔をつけることができる。 ・体が水に浮かぶ。何度も繰り返して遊び、上達を喜ぶ。</li> </ul>		

( 9 月 ) (第1~2週間)

(第3~4・5週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒にルールを考えたり、守ったりしながら自分たちで遊びを進め、十分楽しんで遊ぶ。</li> <li>・自分も地域社会の一人として行事に参加し、喜びを味わう。</li> <li>・バッタやコオロギなどを捕ったり飼育したりして秋の虫への興味や関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で友だちや先生とのふれあいを楽しみ、自分の力を十分に発揮する。</li> <li>・友だちと力をあわせて目的に向かって取り組む。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝顔やサルビアの花柄から色が出ることに気づかせ、遊びが広がるようにする。</li> <li>・種取りや虫探しなど興味をもてるように網や虫ケースを用意しておく。また、疑問に思ったことがすぐに調べられるように図鑑や絵本を見やすい所に置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レストランごっこを中心に学級活動しながら遊びを広げていく。</li> <li>・コミュニケーションが取れるように作る人とお客との設定をし、関わりあって遊べる場を作る。</li> </ul>
	幼 児 の 実 際 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の敬老会に参加 (花笠音頭)</li> <li>鬼ごっこ(泥警)</li> <li>虫とり……&gt;</li> <li>お化けやしき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>くじ引きごっこ(くじびき、景品づくり)……&gt;</li> <li>レストランごっこ……&gt;</li> <li>(メニュー、かんばん、招待状、お金づくり)</li> <li>お料理(シチュー)</li> </ul>
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニワトリの死に直面し、悲しい気持ちを体験する。 ・自分の感情を他者にわかるように表す。</li> </ul>	
	自己・成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちでルールを決めて遊ぶ。</li> </ul>	
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びが楽しめるように工夫する。</li> </ul>	
	学校・園での生活・遊び		
	地域生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喜んで地域の行事に参加する。 ・地域の授産施設の方々との交流を楽しむ。</li> </ul>	
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫探しをして種類や飼育の仕方などに興味をもつようになる。</li> </ul>	
	言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えたり友だちの意見を聞いたりして遊びを進めようとする。</li> </ul>	
	数量形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数に興味をもたせ、遊びの中へ取り入れることで楽しく遊ぶ。 ・商売やお釣りのしくみを知る。</li> </ul>	
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと曲に合わせて楽しく踊る。</li> </ul>		
身体運動			

( 10 月 ) (第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足での経験やどんぐりの生まれた自然の世界からイメージを広げて遊ぶ。</li> <li>・秋の自然に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</li> <li>・友だちと遊びのイメージを共有し、考えを受け入れ遊びを続けることを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然の中で遊びながら、身近な季節の変化することに気づく。</li> <li>・友だちと考えやイメージを出し合いながら遊ぶ。</li> <li>・2年生の遊びを取り入れたり、友だちと考えたりしながら遊びを作ったり考えたりする。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内を散索したり、園外の散歩に出かけたりして子どもたちが秋の草花や虫などと、じっくりと関わって遊べるよう、ゆったりとした場や時間を確保する。</li> <li>・自分たちでいろいろな遊びを考えて発展できるように、遊具や用具を使いやすく配置したり準備したりしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物を使って自分たちで作ったもので遊べるように木の実や木の葉など材料を準備しておく。</li> <li>・遊びに必要なものや作りたいものが作れるように材料や素材は用意しておく。</li> </ul>
	幼 児 の 実 際 の 姿	なわとび……> どんぐり拾い                      どんぐりで遊ぶ……> ヨーヨーすくい……> まとあて……> トランプ遊び 遠足(水族園)	手つなぎ鬼……>                      なかあてドッジボール 木の葉で遊ぶ……>  ことば遊び……> さつまいも掘り
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康		
	自己・成長	・遊びの中で我慢することができる。	
	人間関係	・友だちと相談をして遊びを工夫する。                      ・お客の喜ぶような遊びを考える。(2年生)	
	学校・園での生活・遊び	・遊びのルールを友だちに伝える。	
	地域生活	・地域にある他の園の友だちと一緒に行動することを喜ぶ。	
	自然環境	・自然物を使って遊ぶ。	
	言語	・ことばの数を数える。	
	数量形	・数の順序を知る。	
表現	・みんなで力を合わせて大きな木を作る。		
身体運動	・いろいろななわを使っての遊びに挑戦する。                      ・ボール遊びをし、投げることを楽しむ。		

( 11 月 ) (第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと思いや考えを伝え合いながら楽しく遊ぶ。</li> <li>・友だちと関わりを深めながら、お互いの考えやイメージを出し合って遊ぶ。</li> <li>・友だちと考えたり工夫したりしながら目的をもって取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで遊びを進めていくことを楽しむ。</li> <li>・お話を使うものを考えたり、作ったりする。</li> <li>・友だちと一緒に落ち葉や木の実など使って遊ぶ。</li> <li>・秋の自然に親しみ、その美しさや変化の様子に気づく。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでいろいろな活動に取り組む中で友だちとの関わりが深まる姿を大切に、その時間も十分に取る。</li> <li>・楽器や曲を用意し、自由に遊べるようにしておく。</li> <li>・自分の思いが出せているかどうか見守り、一人一人の工夫したところや挑戦しているところをみんなに知らせ、友だちとのつながりが深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びが楽しくなるためにはどうしたらよいかを子どもたち同士で考える姿を大切に、必要な時に声をかけ、自分たちで遊びを進めていけるようにする。</li> <li>・みんなで相談をしながら遊び、力を合せる場を作る。</li> <li>・内容や進め方を友だち同士で話し合ったり、工夫したりして同じ目的に向かってイメージを共有していくことの楽しさが味わえるようにする。</li> </ul>
	幼 児 の 実 際 の 姿	サバイバル鬼ごっこ……> 泥だんごづくり……>  お話ごっこ……> (11びきのねこ) なわとび遊び……> 楽器で遊ぶ……>	木の葉・木の実で遊ぶ……> はっぱのプール                      とび箱……>  木琴で遊ぶ……>
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康		
	自己・成長	・友だちのがんばりを認め合うことができる。	
	人間関係	・自分たちで遊びのルールを作る。                      ・道具の出し入れや準備を力を合わせてすることができる。	
	学校・園での生活・遊び	・グループに分かれて、ルールを守って遊べるようになる。	
	地域生活		
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園周辺の秋の自然の変化に気づく。</li> <li>・いろいろな葉や実を使って飾りを作ることを楽しむ。                      ・さつまいもの収穫をする。</li> </ul>	
	言語	・せりふを言い、お話を作っていくことを楽しむ。	
	数量形	・木の葉の形がいろいろあることに気づく。	
表現	・小道具を作って楽しくお話ごっこができるようになる。                      ・楽器を触っているいろいろな音を出して遊ぶ。		
身体運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝ち負けを認めることができる。</li> <li>・なわとびをよく操作したり、動きに合わせて身体を動かしたりして楽しく遊ぶ。</li> </ul>		

( 12 月 )

(第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導	ね ら い	・寒さに負けず、戸外で元氣よく遊ぶ。 ・冬の自然現象に興味をもち、取り入れて遊ぶ。 ・集団遊びを楽しみ、氷や雪に気づき関心をもつ。 ・自分たちがしている遊びを友だちや家の人に見てもらい喜びを味わう。	・年末の社会現象と日本古来の風習に関心をもつ。 ・自分たちで遊びを考えていく楽しさやおもしろさを感じ取る。 ・友だちのよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	・子どもたち一人一人の思いを大切にしながら小道具作りのアイデアを生かしていき、友だち同士が互いに認め合える場にしていく。 ・保護者の方に頑張ってきた様子を知らせ、認めてもらえるように伝える。 ・サンタクロスにプレゼントがもらえるように、手紙を書いたり、袋を作ったりして期待をもたせる。	・拾った木の実や木の葉を分類しておき、リース作りに工夫できるようにする。 ・冬の現象に気づくようにタライや容器に水を張っておく。 ・鬼ごっこやボール遊びができるようにライン引きやボールを用意しておく。
	幼 児 の 実 際 の 姿	「11びきのねこ」の劇をする。 とび箱、なわとび、長縄とび……>    泥だんご……>  氷で遊ぶ……> サンタさんへ(手紙を書く、プレゼント用袋作り) クリスマスリース作り すごろく 木琴で遊ぶ……>	(1年生と一緒に) 木の葉や木の実で遊ぶ……> お料理作り  あやとり……> こま……>
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	・友だちができたことを一緒に喜んだり、なわとびを数えたりすることができる。 ・みんなで考えを出し合ってルールを作り、それを守って遊ぶ。 ・発表会でお客様に観てもらうことを喜ぶ。 ・遊びの中で冬の自然現象に興味をもつようになる。 ・友だちとの会話を楽しむ。 ・いろいろな形の容器に氷を作って遊ぶ。 ・みんなで音を合わせることを実感し、演奏する。 ・道具を使い、役を代わり合っごっこ遊びを楽しむ。 ・歌を歌いながら長なわとびをして楽しむ。	・自分のしたいことを工夫して1年生と共に作りあげていくことを楽しむ。 ・材料を丁寧に切り、みんなでお料理を作ることを楽しむ。 ・感触を楽しむ。 ・音階を知る。
	自己・成長		
	人間関係		
	学校・園での生活・遊び		
	地域生活		
	自然環境		
	言語		
	数量形		
表現			
身体運動			

( 1 月 )

(第 1~2 週間)

(第 3~4・5 週間)

指 導	ね ら い	・お正月遊びに興味をもち、友だちと誘い合いながら遊ぶ。 ・身近な物や遊具に興味をもって、楽しく安心して遊びや生活をする。	・一人一人がめあてをもって取り組み、自分の力を発揮していく。 ・冬の自然に興味や関心をもち、積極的に関わる。
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	・休みに経験したことを伝えたいと思う子どもたちの、それぞれの気持ちを十分にうけとめられるように話を聞き合う時間や場をもつ。 ・お正月遊びに取り組み様子を見守りながら、遊具を豊富に準備しておく。	・子ども一人一人に向かって取り組む姿を大切に受け止める。また、友だち同士で教え合ったり工夫したりしていく姿を大切にしておく。 ・お互いに刺激し合い高度な遊びにしよう工夫したり友だちと一緒に考えてあげるようにする。
	幼 児 の 実 際 の 姿	こま、かるた……> あやとり……>  サバイバル 泥警 かげふみ、高鬼……> 書初め(名前)    水で遊ぶ……>	はねつき 凧作り、 凧あげ  ドッジボール
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康	・地震の話から自然の恐ろしさや命の大切さに気づく。 ・自分なりのはっきりしためあてをもって遊ぶようになる。 ・十分に力を発揮しながら遊ぶようになる。 ・遊びのルールを決めて遊ぶ。 ・影のできる様子に気づき、友だちと遊ぶ。・氷の様子と気温の変化に気づく。・風の強さや向きを考えて遊ぶ。 ・自分の名前や友だちの名前に興味をもつ。                                  ・文字に興味をもつ。 ・数を順番に並べる。 ・グループの分け方を工夫することができる。                                  ・戸外で体を動かして仲間と遊びを楽しむ。	
	自己・成長		
	人間関係		
	学校・園での生活・遊び		
	地域生活		
	自然環境		
	言語		
	数量形		
表現			
身体運動			

( 2 月 ) (第1~2週間)

(第3~4・5週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会に向けて友だちと協力し、充実感を味わう。</li> <li>寒さに負けずに十分に体を動かし、ルールのある遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたり、工夫して楽しく作る。</li> <li>一人一人ががんばっているところ認め、自分の課題をもって挑戦できるようにし、やり遂げた満足感が十分に味わえるようにする。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>氷作りを試したり、材料や用具を子どもたちと相談したりしながら容器や色水などを用意する。</li> <li>こままわしの技術が上達したら、技を見せる場をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇に必要なものを使いやすいように整理しておく。</li> <li>数や図形、文字に関心があるのでひらがなスタンプや文字カードなどを置いておく。</li> </ul>
幼 児 の 実 際 の 姿	こま・あやとり……> 節分遊び(鬼の面作り、豆まき) 劇に使う道具作り(大道具、小道具)……> 劇ごっこ(シンデレラ)……>	氷で遊ぶ……> サバイバル  役を代わり合って遊ぶ ドッジボール  リレー	
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康		
	自己・成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生にむかって期待をもち、楽しみにしながら1日入学を体験する。</li> </ul>	
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに工夫したり協力したりして遊ぶ</li> </ul>	
	学校・園での生活・遊び		
	地域生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>節分にちなんだ本を読んだり、鬼について話し合い良いこと悪いことを考える。</li> </ul>	
	自然環境		
	言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えた言や体で表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や物語に親しみ、イメージを広げて遊ぶ。</li> </ul>
	数量形		
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話の役になって遊ぶ。</li> </ul>		
身体運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で鬼ごっこなど走りまわって遊ぶ。</li> </ul>		

( 3 月 ) (第1~2週間)

(第3~4・5週間)

指 導 計 画	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の力を十分に発揮し、積極的に遊びを進める。</li> <li>修了に向けて友だちと出し合って自信をもって行動する</li> <li>春の訪れに気づき、身近な自然に興味や関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに向かって自主的に自分たちの生活を進めていこうとする。</li> <li>就学への期待をもち、最後の園生活を楽しむ。</li> <li>身近な春の自然や生活の変化に気づく。</li> </ul>
	環 境 構 成 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園生活の締めくくりの日であることを話し、今までがんばってきたことをお家の人やお客様に見ていただくとする気持ちをもてるようにしていく。</li> <li>生活発表会の余韻を楽しめるような時間や場をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校へ行き体験入学を経験し、入学を楽しめるようにする。</li> <li>科学的な目で春に気づくようにしていく。</li> <li>1年間の楽しかったことを思い出しながら成長を喜ぶ。</li> </ul>
幼 児 の 実 際 の 姿	ひな祭り会  修了式の準備……> (等身大の製作)  体験入学 地域の文化祭に参加 春の訪れを見つめる (花や木の芽を見る)	お別れ会  修了式	
幼 児 の 学 び ・ 育 ち	生命・健康		
	自己・成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了の喜びを感じ、自信をもって行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お家の人やお世話になった人々に感謝の気持ちをもつ。</li> </ul>
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと成長の喜びを味わう。</li> </ul>	
	学校・園での生活・遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での生活に興味や関心をもち入学への期待をふくらませる。</li> </ul>	
	地域生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了式について話し合い楽しみにまつ。</li> </ul>	
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>お世話になった人々へ感謝の気持ちを伝える。</li> <li>春の訪れに気づく。</li> </ul>	
	言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを話す。</li> </ul>	
	数量形		
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと協力して工夫して描いたり作ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを合わせて唄う。</li> </ul>	
身体運動			

(2) 小学校における「みなぎのコース」単元別指導計画

年間単元一覧表

	1 年	2 年
4 月	がっこうたんけんをしよう	はるのくらしをみつめよう
5 月	100にんのサインをあつめよう やまやかわであそぼう	あいがもさんを 自分たちの力でそだてよう
6 月	みんながのれるふねをつくろう	
7 月		なつまつりを楽しもう
9 月	むしランド・はなランドをつくろう	あいがもさんといっしょに かつどうしよう
10 月	へんしんしてあそぼう	あきをあじわおう
11 月	さよならあきパーティをしよう	
12 月	チューリップを プレゼントしよう	年こし大作せんをしよう
1 月	オペレッタにちょうせんしよう	あいがもさんのこれからを 考えよう
2 月	うらやまに きちをつくろう	
3 月	おもいでのパネルを つくろう	

	3 年	4 年	5 年	6 年
4 月				
5 月	□吉川町の ガイドさんになろう	ひょうたん笛で 地域に出かけよう	薬草マスター（達人） になろう	□吉川の世界マップを 作ろう
6 月	↓	↓	↓	↓
7 月				
9 月	□吉川の柿を使った 特産物を作ろう		□吉川っ子の 元気づくりに挑戦しよう	オリジナルな修学旅行を 創り出そう
10 月	↓	障害を持った人と もっと仲良くなろう	↓	↓
11 月				
12 月	↓	↓		↓
1 月	ふるさとカルタを つくろう	布のおもちゃを作って 出かけよう	子ども版「どこが危ない のマップ」を提案しよう	夢トライやるに 挑戦しよう
2 月	↓	↓	↓ ↓	↓
3 月	↓	↓		↓

## 年間指導計画

	1 年	2 年
4 月	○学校探検をして学校マップをつくろう	○くらしの中の「春」を見つけよう ○きょ年の「春」と比べよう
5 月	○100にんのサインをもらおう ○書いてもらったサインを飾ろう ○裏山で遊ぼう ○池や川へ探検に行こう	○あいがもさんについて調べよう ○あいがもさんを迎えるための準備をしよう
6 月	○みんながのれる船を作ろう	○あいがもさんをむかえよう ○あいがもさんのピンチを救おう
7 月	○船を浮かべて遊ぼう	○田んぼで活躍するあいがもさんを応援しよう ○あいがもさんのことを周りの人に知らせよう ○口吉川の「夏まつり」について調べよう ○口吉川の「夏まつり」で踊るみなぎの音頭の練習をしよう
9 月	○虫ランド・花ランドを作ろう ○ランドで、昆虫や花を育てよう ○ランドの看板を作ろう	○口吉川の「夏まつり」に参加しよう
10 月	○変身ごっこで自分になりたいものを見つけよう ○変身ごっこをしよう	○大きくなったあいがもさんともっとなかよくなろう
11 月	○チューリップを植える花壇を耕そう ○チューリップを植えて、大切に育てよう	○「秋」の木の実ははっぱであそぼう ○あいがも音頭を作っておどろよう ○あいがも米の収穫をおいおいしよう ○「秋」の美味しい料理をいただこう
12 月	○遊び道具を作って秋パーティーのお店を出そう ○白菜と柿を使って秋パーティーを開こう	○あいがもランドをひらこう ○年越しについて話し合おう ○名人にしめ縄の作り方を教わろう ○年越しのお手伝い大作戦をしよう
1 月	○オベレッタを完成させて幼稚園の友だちに見てもらおう	
2 月	○オベレッタをデイサービスセンターでひろうしよう ○裏山に自分たちの基地を作ろう ○基地で遊ぼう	○あいがもさんのこれからを話し合おう
3 月	○1年間の成長を確かめよう ○思い出パネルを作ろう ○チューリップをプレゼントしよう	○あいがもさんありがとう・さようならパーティをしよう



	3 年	4 年	5 年	6 年
4 月	○口吉川の町を知ろう	○ひょうたん名人に会おう	○薬草調べをしよう	○捨てられている地域のゴミを集めよう
5 月	○楽しいガイドマップを作ろう	○ひょうたん栽培にとりかかろう	○地域の薬草マスターを見つけ、教えてもらおう	○口吉川環境マップを作ろう
6 月	○おすすめスポットへ案内しよう	○ひょうたんを育てよう	○薬草を役立てよう	○ゴミの行方からゴミを減らす運動をしよう
7 月			○薬草図鑑を作ろう	
9 月	○口吉川の柿調べをしよう	○ひょうたん笛を作ろう	○元気度チェックをしよう	○修学旅行のオリジナルコースを作ろう
10 月	○しぶ柿を甘柿にしよう ○柿ジャムを作ろう	○ひょうたん笛で、お年寄りと交流しよう	○口吉川っ子に必要な体力を見つけよう ○元気づくり遊具を作ろう	○修学旅行で歴史・人・ことの出会いをしよう ○修学旅行体験記を作ろう ○旅行会社の方にガイドマップを見ていただく
11 月	○柿新聞を作ろう	○障害を持った人に会った経験を話し合おう ○Aさんと出会い、仲良くなる ○Aさんともっと仲良くなる	○全校生に元気づくりの会員証を渡そう ○「なわとび世界チャンピオン」に全校生で教えてもらおう	○修学旅行の報告会をしよう
12 月		○日常的なボランティアをしよう	○元気度アップをたしかめよう ○健康メニューでお祝いパーティを開こう	
1 月	○カルタ作りの計画を立てよう	○布のおもちゃに出会おう	○「どこが危ないのマップ」をわたしたちの目で見直そう	○自分の将来の夢を話し合おう
2 月	○カルタ作りをしよう	○布のおもちゃを作ろう	○子ども版マップを作って、提案しよう ○「元気度アップ運動会」で6年生を送ろう	○生きがいをもって生活されている方に出会い、話を聞こう
3 月	○カルタ会をしよう	○布のおもちゃを持って、幼稚園・保育園に出かけよう	○「とび出しぼうや」を作って、地域で使ってもらおう	○オリジナルな卒業論文を完成しよう

# 第1学年

## 単元名 がっこうたんけんをしよう

( 4月)

### 1 単元設定の趣旨

小学校に入学してきた児童は、これから始まる生活の中で出会うはずの人々や施設について様々な期待や不安を抱いている。入学式の翌日からこの単元を立ち上げることは、子どもたちの興味・関心を「探検」という魅力的な言葉によって、活動へと結びつけることができる単元である。

この単元は、これからお世話になる人々や施設を自分たちの目で確かめていく活動である。子どもたちが自由に学校内を動くことによって、子どもたちの不安は軽減される。学校生活の不安を軽減し、活動的な学習に期待を膨らませる大変重要な単元であると考ええる。また、これまでの生活にはない不思議な「もの・こと・ひと」を見つけ、自分なりの方法でその不思議を解決していく活動こそ、問題解決学習の第1歩としてふさわしい単元である。

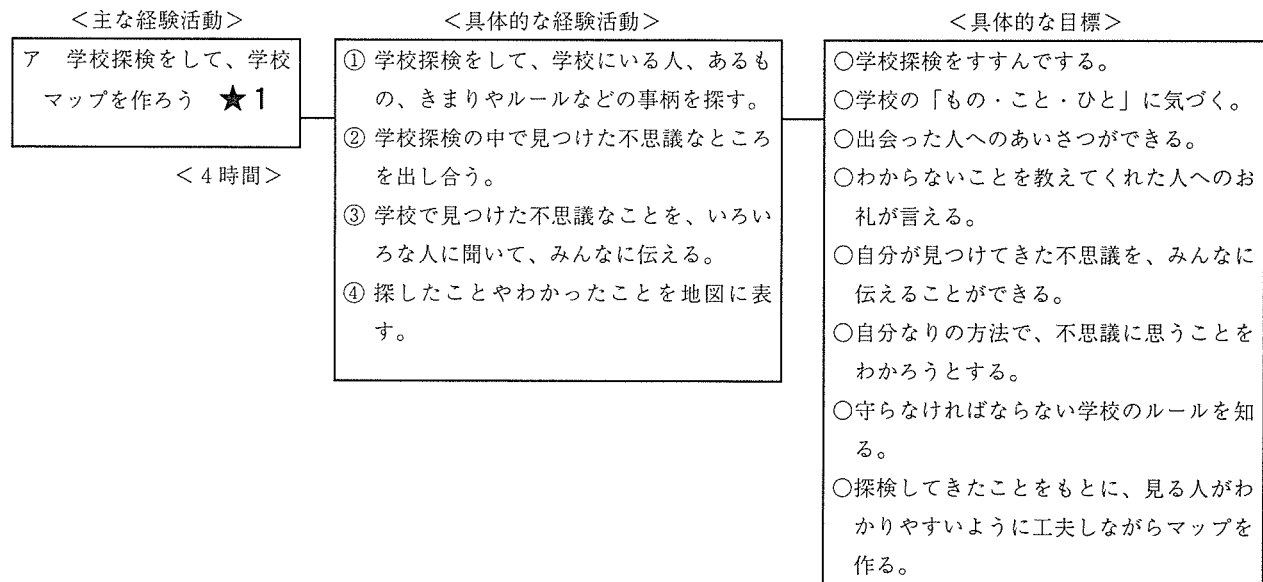
### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア 身近な人々との交流を楽しむことによって、いろいろな人たちに対する優しさや愛情ある関わりを知っていく。
- 学 ア 身近なものや遊具に興味をもって、楽しく安心して遊びや生活をする。
- 学 イ 園や学校、通学路の様子がわかり、きまりを守って登下校ができ、安全に気をつけて行動しようとする。

### 3 目標

- ・学校で働く人や他学年の児童との会話を楽しむとともに、人に対してのやさしさや、わからないことを教えてもらったときの感謝の気持ちをもつことができる。(人—ア)
- ・学校探検の活動に意欲的に取り組み、考えたり工夫したりしながらマップを作ったり、学校の不思議な「もの・こと・ひと」を自分なりに解明しようとする。(学—ア)
- ・学校の様子がわかり、きまりを守って楽しく生活していこうとする気持ちをもつことができる。(学—イ)

### 4 展開



< 4時間 >

#### <支援上の留意点>

- 小学校に入学して2日目からの活動であることを考慮して、業間休みに入る少し前から活動を始めることで、他学年の学習の妨げにならないように配慮する。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・主な経験活動を「学校探検をしよう」から「学校探検をして学校マップを作ろう」に変更した。当初、話し合い活動を行う中で活動のまとめをすることを考えていたが、子どもたちが活動によって自分たちの学びを確かめていくために、マップ作りを取り入れた活動に変更した。子どもたちがより活動的に取り組み、それぞれの学びを視覚的に確かめる活動へと修正を加えた。

単元名 100にんのサインをあつめよう

( 4月)

1 単元設定の趣旨

小学校に入学して、期待を膨らませる子どもたちにとっては、なかよし班が始まる4月は、どんなお兄さん・お姉さんと一緒に班になるんだろうという期待や不安は大きい。入学期の子どもたちにとって、学校で働く人やたくさんの上級生と接することができるこの単元は、自分たちの力で人と関係を作っていくためのよい機会となる。

この単元では、自己成長力を強めていく上で重要な、自ら進んで活動していったり、いろいろな人と関わっていったりという力を発揮していく単元である。また、人と関わる上で基本となる、あいさつの仕方やお礼の言い方など、マナーの学習になったり、小学校入門期での一人一人のひらがな認識・数認識を確かめたりすることもできる。一方、他学年の児童にとっても、1年生の名前や顔を覚えたり、会話をしたりするきっかけとなる単元でもある。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

人 イ 先生や友だちと一緒にふれあっていく楽しさや、おもしろさを感じられるようになる。

人 ウ 楽しく安心して遊びや生活ができるように、先生や友だちと関わりながら、きまりやマナーがあることを知る。

3 目標

・先生や他学年の児童と会話をしたり、サインを集めたりすることを通して、多くの人と関わっていく楽しさやおもしろさを味わうことができる。(人ーイ)

・人と接するとき重要なあいさつやお礼などのマナーを学ぶ。(人ーウ)

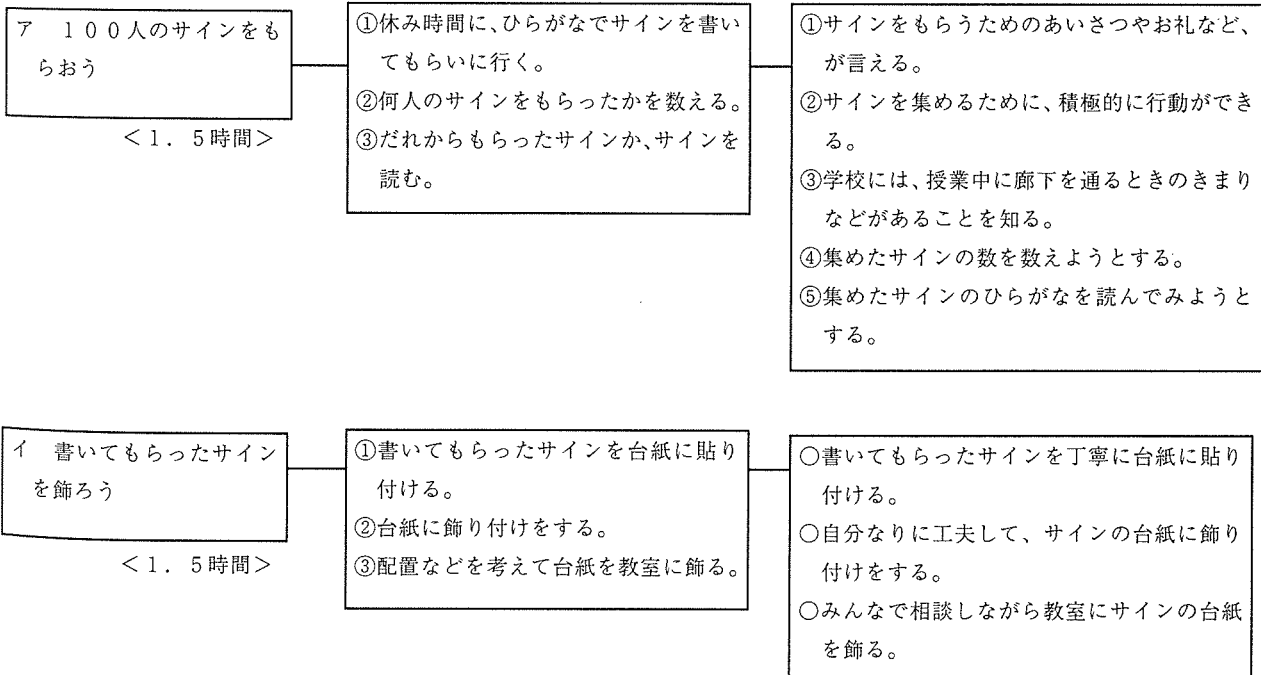
★1

4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>



<支援上の留意点>

○職員や全校生には、ひらがなでサインを書いてもらえるように、あらかじめ依頼しておく。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・目標「学校には様々なきまりがあることに気づく。」を削除した。これは、入学2日目からの単元「がっこうたんけんをしよう」の単元の中で、この単元でねらう学校のきまりについての内容は達成できると考えられるためである。扱おうとしていた内容は、授業時間と休み時間の区別、授業中の廊下の通り方等であった。

単元名 やまやかかわであそぼう

( 5月)

1 単元設定の趣旨

4月当初から、登下校の道でいろいろな自然のものを拾っては遊びながら帰ったり、学校におみやげとして持って来たりしていた子どもたちにとって、身の回りにある豊かな自然は遊びの宝庫であるといえる。農村地域に育った子どもたちにとって、目の前にあるものすべてが遊びに変わると言っても過言ではない。

この単元は、そんな子どもたちに、豊かな口吉川の自然を友だちとともに満喫することをねらっている。学校のすぐ裏には山があり、近くには川や池がある。豊かな自然に恵まれた条件を生かし、それらの場所に行き、自然のものを使ったいろいろな遊びを友だちと一緒に楽しむことにより、学校の周りの自然により親しむことができる。また、学校の周りを探検したり、これから1年間の自然を扱った単元の活動場所を自分たちの目で確かめたりすることもできる。さらに、移動中や活動する際に自分の身の安全を守ることを学ぶこともできる単元である。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

学 イ 危険な場所や災害時などにおいて、その場に応じた判断ができ、自分で安全に行動しようとする。

自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。

自 ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

3 目標

- ・学校を離れて校外活動に行くときに、危険なことや場所がわかり、その場に応じた判断をしながら、自分の身の安全を守ることができる。(学一イ)
- ・身近な自然の中で遊ぶを通して、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくことができる。(自一ア)
- ・自然の中での遊びを通して、学校の周りの自然に対して親しみをもつことができる。(自一ア)
- ・自然物を使いながら工夫して遊ぶことができる。(自一ウ)

4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア 裏山で遊ぼう

<4時間>

- ①裏山へ行き、がけや枯れ枝、草などを使って遊ぶ。
- ②自然の中で見つけた宝物をもって帰り、宝物自慢をする。

- 身近な自然を使って、工夫しながら遊ぶ。
- 友だちと関わり合いながら楽しく遊ぶ。
- 遊んだり、校外に出たりする際に、危険なことや場所がわかる。
- 活動中に、自分で判断しながら自分や友だちの安全に気をつけた行動ができる。
- 自然の宝物を見つけることができる。
- 時間を忘れ夢中になって遊ぶなど、春の自然のすばらしさを味わうことができる。
- 友だちのいいところをたくさん見つけることができる。

イ 池や川へ探検に行こう

< 4 時間 >

①春の自然物を使った遊びの中で、自分が遊びたいものを見つける。

②池や川に行って、自分の遊びたいものを探したり、作ったりして遊ぶ。

★1

○これまでの体験や聞いてきた話、本の情報などの中から、自分がしたい遊びを決めることができる。

○見つけた情報をもとにして、自然の中でそれを見つけ、楽しく遊ぶことができる。

○遊んだり、校外に出たりする際に、危険なことや場所がわかる。

○自分で判断しながら自分や友だちの安全を守ることができる。

○友だちと一緒に楽しく遊ぶ。

○春の自然物を使いながら、自分なりに工夫して遊ぶ。

< 支援上の留意点 >

○まだ入学当初で、図書室の使い方にもなれていないので、学校の図書室や幼稚園の蔵書から子どもたちの活動の資料になるものについては、あらかじめ教師で用意しておくことが望ましい。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・川で遊ぶ活動を「みんながのれるふねをつくろう」からこの単元に移動した。川で自然を使った遊びをする活動は、当初船を作る際の、興味・関心を高める活動の中で行うことを計画していた。しかし、口吉川の自然を満喫するためにも、同じ活動をまとめて単元構成した方が、子どもの意識にそったものであるとの考えから、修正を行った。

単元名 みんながのれるふねをつくろう

( 6 月～ 7 月 )

### 1 単元設定の趣旨

幼稚園での木工遊びを思い出しながら、「みんなが乗れる船を作りたい。」という子どもたちの意見から生まれたこの単元は、保育での活動をよりダイナミックに発展させ、本物に近いものを創り出す喜びや、全員が共同で作業しながら活動を楽しむといった多くの魅力がある。

この単元では、船のイメージを広げていくために自分なりの情報媒体から情報を集めるという学びや、大きなものを製作したり、慣れない道具を使ったりしていく過程で、いろいろな人との関わりが期待できる。また、作った船が浮かぶか浮かばないかということで、活動の成功・失敗が1年生にとってもはっきりしているため、沈んだ場合の失敗体験をもとにさらに課題を解決していくための活動を工夫することができる。

### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。

人 イ 地域や学校の人々と、助け合いながら一緒に生活しようとする。

学 ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。

### 3 目標

・自分たちの活動を助けてくれる人々や、船を浮かべる活動を手伝ってくれる家族の人々に対して感謝の気持ちをもって接することができる。(人—ア)

・班で船を製作する過程において、友だちのいいところを見つけることにより、みんなで助け合って活動することができる。(人—イ)

・船を製作する活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫したりして活動を進める。また、船が浮かばなかったときにみんなで相談しながら船を改良し、完成した船で楽しく遊ぶことができる。(学—ア)

## 4 展開

<主な経験活動>	<具体的な経験活動>	<具体的な目標>
<p>ア みんながのれる船を作ろう</p> <p>&lt;10時間&gt; &lt;図工2時間&gt;</p>	<p>①みんなで、どんな船を作るかを考える。 ★1</p> <p>②船を作る。 ・船を作る。 ・色をつける。</p> <p>③船を浮かべてみる。</p> <p>④船に水がたくさん入ってくる原因を考え浮かぶ船にするために改良する。</p>	<p>○自分なりの方法で、船の情報を集めることができる。</p> <p>○みんなが乗れる船のイメージを持つことができる。</p> <p>○船のイメージを本などで調べる。</p> <p>○図書室などの使い方がわかる。</p> <p>○ゲストティーチャーの大工さんに道具の使い方を教えていただきながら、正しく道具を使う。</p> <p>○みんなで協力しながら製作活動をする。</p> <p>○友だちのいいところを見つけることができる。</p> <p>○船が沈んだ失敗体験をしたときは、水がたくさんはいつてくる原因を考え、沈まない船を作るための工夫をする。</p>
<p>イ 舟を浮かべて遊ぼう</p> <p>&lt;5時間&gt; &lt;音楽4時間&gt; &lt;国語1時間&gt;</p>	<p>①自分たちが使うプールの掃除をする。</p> <p>②進水パーティーの計画を立てる。 ・テーマソング ・料理</p> <p>③家族の人に招待状を出す。</p> <p>④進水パーティーをする。</p> <p>⑤活動を手伝ってくれた方にお礼をする。</p>	<p>○6年生の指導を受けながら、自分たちが使うプール掃除を意欲的に行う。</p> <p>○招待する人を意識しながら、進水パーティーの計画を立てる。</p> <p>○みんなと協力しながら、招待状を作る。</p> <p>○進水パーティーを楽しむ。</p> <p>○活動を手伝っていただいた方々へのお礼状に、自分なりの感謝の気持ちを書き表す。</p>

### <支援上の留意点>

○水泳指導でプール使用期間中は、衛生上船を浮かべることができないので、水泳指導開始前か後に船をプールに浮かべる活動を行うことが望ましい。

### 【単元修正の内容とその理由】

★1・・・具体的な経験活動の時間を5時間から1時間に削減した。当初船のイメージを考えるために、「作りたい船を考える・設計図を作る・粘土で模型を作る・本で調べる・みんなで話し合う（5時間）」という活動を計画していた。しかし、「みなぎのコース」全体の時間数を考慮し、さらに活動をしながらかのこについて考えていく子どもたちの実態（発達段階）を考えると、船を作りながら船のイメージを広げていくほうがイメージしやすく、広がりやすいとの反省から単元を修正した。本で調べる活動については、単元を実施していても、船を作る活動中に子どもたちが行うことができ、情報収集の仕方を学ぶことができた。1時間に削減しても、5時間分の学びの保障ができるとの考えからの修正である。

## 単元名 むしランド・はなランドをつくろう

（9月～11月）

### 1 単元設定の趣旨

1学期に作った船を解体するか利用するか話し合いの中で、残して活動に使いたいと願う子どもたち。また、夏の虫を船を使って飼育したいと持ってくる子どももいた。そこで、1学期に作った船を飼育・栽培小屋に使い単元を立ち上げることにした。

低学年の「みなぎのコース」の中で、飼育・栽培活動は、大きな位置を占める内容であり、自分たちが愛着をもっている船を使っている活動は、子どもたちの興味・関心が高い中で展開され、効果的な学びが期待できる。クラス全員が入れる小屋を作ることにより、ダイナミックに昆虫や花を育てることもできる。飼育・栽培活動を通して、命についてしっかりと見つめさせることができる単元である。

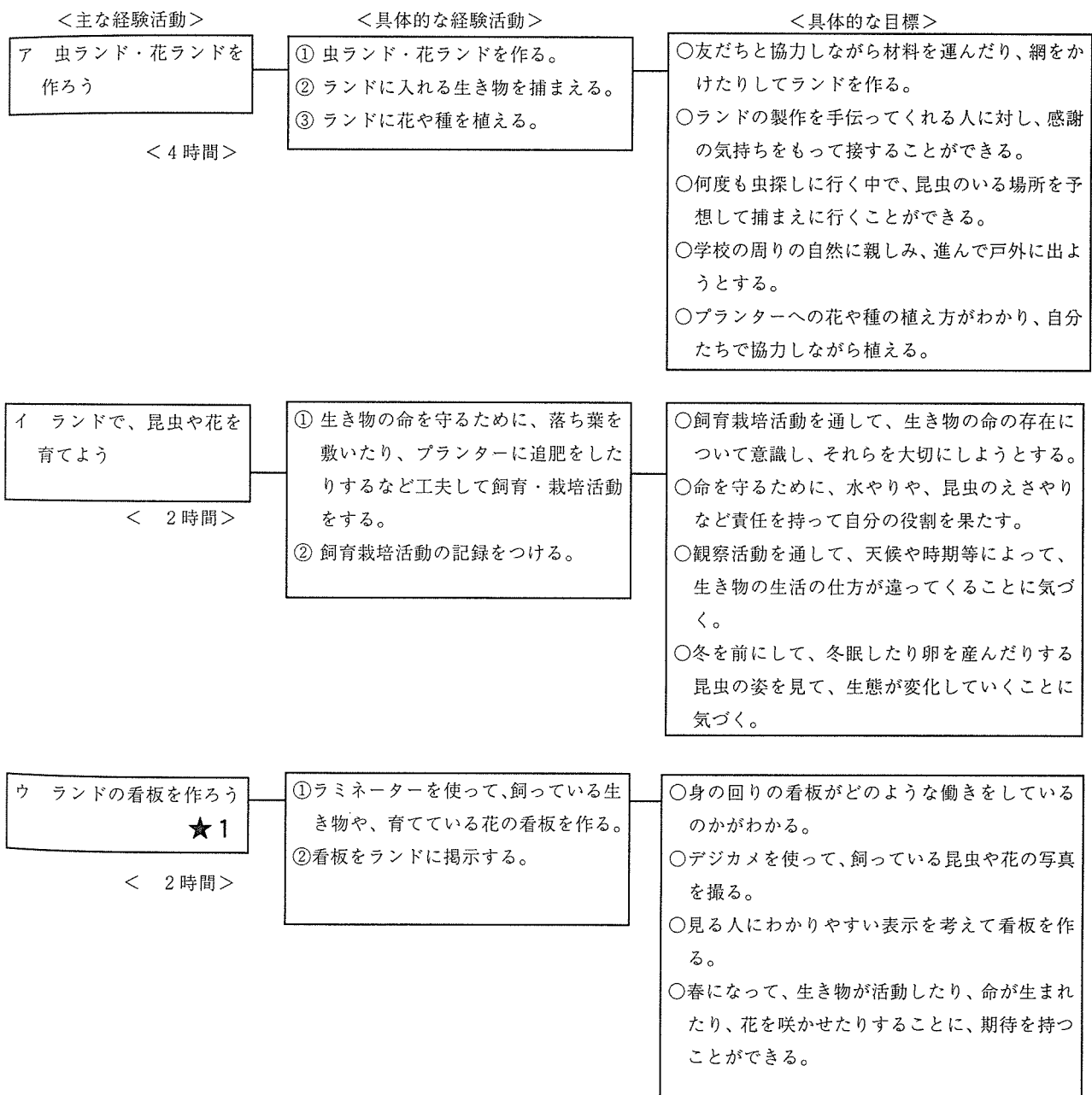
## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。
- 自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。
- 自 ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

## 3 目標

- ・身近な昆虫や草花の飼育栽培活動を通して、それらの命の存在や成長していることに気づき、大切にすることができる。  
(生一ア)
- ・身近な自然に親しむ中で、口吉川の豊かな自然やすばらしさに気づくとともに、親しみをもって自然の中で活動しようとする。  
(自一ア)
- ・自分なりの願いをもって飼育栽培活動に関わったり、それらを育てる自然環境と関わったりしながら、工夫して活動を展開することができる。(自一ウ)

## 4 展開



<支援上の留意点>

○生き物の命を扱う単元であるが、冬にかけての飼育栽培活動になるため、単元のねらいを生き物がみられなくなる時期で終局させる。そして、後の「チューリップを育てよう」や、2年生になってからの春を扱う単元の中で一緒に扱っていくこととする。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・主な経験活動を「ランドの観察記録をまとめよう」から、「ランドの看板を作ろう」に変更。ランドの生き物や生き物の卵、花や種は冬を越して春に再び子どもたちの目の前に多くの命を現す。また、花を送るという単元にも発展していく。子どもたちの意識を長期間継続させるためにも、看板を作って自分たちを含め多くの人々に意識づけることができる活動に変更した。

単元名    へんしんしてあそぼう

( 10月～11月)

1 単元設定の趣旨

秋の不思議の1つとして、これまで緑色だった葉が色づき始めることや、落葉することがあげられる。これら自然の不思議の1つである葉を扱うことで、子どもたちが自然の神秘を感じ取ることができる。

この単元は、自分が変身したいものを写真等で観察し、色づいた葉の使い方や配置の仕方を工夫しながらそのものになりきって校庭で遊ぶことをねらっている。単に作ることを楽しむだけでなく、より本物に近い変身を実践させることもねらっている。体験を通して、時期による葉の色づき方の変化や、葉の大きさ・形・やわらかさの違いなどの気づきを深めることができる単元でもある。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。
- 自 イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気づく。
- 自 ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

3 目標

- ・身近な自然に関わる中で、落葉や紅葉といった葉の変化がわかり、自然の美しさや不思議さを感じることができる。(自一ア)
- ・落葉や紅葉といった葉の変化を見ることにより、四季の変化を感じることができる。(自一イ)
- ・自分なりのこだわりを持って、葉を集めたり配置したりするなど、自分の遊びや活動を楽しむことができる。(自一ウ)

4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア 変身ごっこで自分がなりたいものを見つけよう

<3時間>

①木の葉を使った変身ごっこで、自分がなりたいものを決める。  
②裏山などで、変身に必要なものを集める。

○図鑑等も参考にしながら変身ごっこで何になるかを決める。  
○写真や図鑑からのイメージをもとにして、本物に近い変身をしたいという願いを持って葉を探ってくる。(色、大きさ、量など)  
○身近な自然の秋を見つけ、紅葉の美しさやどんぐりがいっぱい落ちていることへの感動などの豊かな自然に気づく。

イ 変身ごっこをしよう

<4時間>

<図工4時間>

<国語1時間>

①自分がなりたいものを工夫して作る。  
②変身したものになりきって、校庭で変身ごっこをする。

○変身や遊びを楽しむために、進んで考えたり、試したり、工夫して製作する。  
○日常生活の中でも、使えるものがないかと意識し、新たな材料を積極的に製作活動に取り入れることができる。  
○時間の経過による自然の変化や季節の移り変わりがわかる。  
○友だちと協力しながら活動を進める。



<支援上の留意点>

○葉を貼り付ける素材には、粘着性等も考慮し、ビニールのゴミ袋を用意する。粘着材には、両面テープを使う。

単元名 チューリップをプレゼントしよう

( 11月・3月)

1 単元設定の趣旨

花ランドの活動をつづけてきた子どもたちは、自分たちの作った花をプレゼントしたいと言い始めた。卒業生と新入学生にプレゼントしたいということだった。小学校に入学してからこれまで、人からお世話をしてもらうことが多かった子どもたちが、人に喜んでもらうことをしたい、自分たちも人に何かをしたいという意欲が育ち始めたのである。

この単元では、自分たちが作ったり育てたりしたものを、プレゼントとして渡すために、春の時期に咲く植物を選び育てていく活動を展開する。花壇に植えた球根を守るために、全校生にPRしたり、花壇が踏まれないようにいろいろと工夫したりすることができる単元である。また、地域の花作りの名人を呼んだり、ラッピングをしている人に教えていただいたりと、人との出会いも盛り込まれている単元でもある。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。
- 成 イ 自分の成長の背後には、多くの人々の支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつ。
- 人 ウ 学校の中で気持ちよく生活をするための、きまりやマナーを守ろうとする。★2

3 目標

- ・ チューリップの栽培活動を通して、植物の命を大切にし、守り育てるためにいろいろな工夫をすることができる。(生一ア)
- ・ 学校生活の中で、いろいろな活動を通してお世話になった6年生に感謝の気持ちをもつとともに、卒業を祝う気持ちをプレゼントにして表す。(成一イ)
- ・ 学校の中で、みんながいやな気持ちをせずに生活するためには、ルールやきまりがあることがわかり、マナーを守ってもらうことを訴えるためには、自分たちも学校のルールやきまりを守っていく必要性に気づく。(人一ウ)★2

4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア チューリップを植える  
花壇を耕そう

< 3時間 >

- ①花壇を耕す。
- ②花作りの名人に、花を植えるときのアドバイスをいただく。
- ③チューリップを植えるために杭等の準備や、世話当番などを決める。

- 友だちと協力しながら、一生懸命に花壇を耕す。
- 地域の方と接するときのあいさつや言葉づかいが正しくできる。
- 花作り名人のよさに気づく。
- 花壇を踏まない等のルールを決めて、全校生に守ってもらうときに、自分たちも学校内の様々なルールやきまりを守っていく必要性に気づく。

イ チューリップを植えて、大切に育てよう

< 2時間 >

- ①チューリップの球根を植える。
- ②世話をする。
- ③花壇に足跡などが発見されたときには、どうしたらチューリップの命を守れるか話し合い、実行する。★1
  - ・ 全校生に訴える。
  - ・ 看板等を作る。

- 楽しんで球根植えの活動ができる。
- チューリップの命を守る大切さに気づく。
- チューリップの命を守り育てるために、日常の栽培・観察活動を継続的に行うことができる。
- 問題が発生したときには、命を守ることを意識しながら工夫した活動ができる。

ウ チューリップをプレゼントしよう。

< 2時間 >

- ①卒業式・入学式のプレゼント用のメッセージを書く。
- ②プレゼントのラッピングを地域の方から習う。
- ③ラッピングをして卒業式、入学式でチューリップをプレゼントする。(新入生への活動は4月に実施)

- 6年生にお世話になった1年間の活動や生活を振り返りながら、具体的に感謝の気持ちを表現する。
- 特技をもつ人の優れた技を知り、その人のすばらしさを感じる。
- 自分なりの表現で感謝の気持ちを表す。
- 入学してくる新入生の気持ちを思い出し、学校生活が希望で胸膨らむようなメッセージを書く。

<支援上の留意点>

○新入生への活動は4月になるので、新年度の担任と十分連絡を取って活動を実施する。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・球根を守るために訴えていく具体的な活動を追加。これは、実際に起こった事件から発生した活動ではあるが、子どもの足跡や、生き物の足跡を花壇の中に見つけることは多くある。課題解決学習に発展していく活動になった。
- ★2・・・★1の具体的な経験活動が増えたことにより、この単元に該当する内容および目標が追加された。全校生にルールを守ってもらうためには、自分たちも決められたルールやきまりを守っていかなければならないという意識が芽生え、この内容と目標を設定することとした。

単元名 さよならあきパーティーをしよう

(11月～12月)

### 1 単元設定の趣旨

この単元は、秋の自然物で遊ぶことの他に、季節の食べ物を味わうことにより、様々な季節の楽しみ方を子どもたちに感じさせることをねらった単元である。木の実などを使った遊び道具を作り、自分たちだけで遊ぶのではなく、幼稚園児とともに製作活動を展開していく。そのことにより、年上としての思いやりの心を育てることができるほか、今までしてもらうことが多い1年生が、誰かの世話をしてあげるといった責任感も育てることができる。さらに、保護者を招いてのお店を開くことで、人との対応をも学ぶことができる。

料理をすることについては、家族へのインタビューで情報収集をしながらメニューを決定していく。さらに、自分たちが考えた料理について、家族の意見を聞いたり、実際に家庭で一緒に作ったりする中で、家族とともに作っていく単元として発展していくことが考えられる。

### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。
- 人 ウ 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。
- 自 イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気づく。
- 自 ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

### 3 目標

- ・幼稚園児や家族など身近な人々とともに活動する中で、自分以外の人に思いやりの心を持って接することができる。(人—ア)
- ・紅葉の美しさや、自分たちの遊び場となる身近な自然の美しさやすばらしさに気づくとともに、身近な自然に親しみをもつ。
- ・秋の実を集める活動を通して、時期によって自然の姿が変わっていくことや、遊びや活動の形も変わってくることに気づくことができる。(自—イ)
- ・自分のこだわりを持って活動に取り組み、自分たちの活動をよりよくしていこうと友だちと協力しながら工夫することができる。(自—ウ)

## 4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア 遊び道具を作って秋パーティーのお店を出そう

< 9時間 >

- ①自分がしたい遊び道具を決める。
- ②遊び道具の材料を探しに行く。
- ③遊び道具を作る。
- ④幼稚園児に遊び道具の作り方を教え、一緒に遊ぶ。
- ⑤秋パーティーのお店を出す。
- ⑥保護者を招いて、お客さんとしてもてなす。

★1

- 本などから、秋パーティーの遊び道具を決める。
- 時期が変わると、落ちているものの種類や数が変わっていることに気づく。
- 紅葉などを見て、美しい自然の姿に気づく。
- 友だちと協力しながら、材料や数、大きさなど遊び道具を工夫して作る。
- 幼稚園児に対して、年上としての自覚を持ち、思いやりのある言動ができる。
- お客さんを意識しながら、看板などのお店作りができる。
- 楽しく売り手の立場を味わうことができる。
- 友だちや作った道具のいいところを見つけながら、お店を回る。
- 友だちが作った遊びを楽しむ。

イ 白菜と柿を使って秋パーティーを開こう

< 6時間 >

- ①白菜と柿を使った料理を、家族にインタビューをして決める。
- ②パーティーの準備をする。
  - ・ 出し物
  - ・ 掲示物
- ③白菜と柿を使った料理を保護者とともに作ってパーティーを楽しむ。

- インタビューしたことを正しくメモすることができる。
- 友だちにわかりやすく説明することができる。
- お客さんに喜んでもらうための工夫を考える。
- お客さんを意識した店作りに必要なものがわかる。
- お客さんのことを考えながら、心を込めてパーティーの準備をすることができる。
- 友だちと協力しながら楽しんで、パーティーの準備をする。
- 班で協力して料理を作ることができる。

<支援上の留意点>

- 保護者の負担を考え、秋の遊びを使った店と料理のパーティーは、同じ日に行う。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・全校生と保護者を招いての「さよなら秋パーティー」から、保護者のみを招いてのパーティーに変更した。これは、遊び道具を作る量が多く、子どもたちの活動の持続力や興味の継続等の負担を考え、子どもたちの意識と実際の作業負担を考えて全校生に対してのお店を取りやめた。

単元名 オペレッタにちょうせんしよう

( 1月)

### 1 単元設定の趣旨

1年生はこれまでに日常生活や学校の中で、いろいろな人のお世話になって生活してきた。それゆえに、自分たちが人に何かできたときには喜びと充実感を覚え、誰かに何かをしてあげたいという気持ちは、3学期に入りより強くなってきた。3学期のこの時期に、人に喜んでもらう体験をもとにして、自分の成長を振り返ることができることはとてもいい体験になると考える。

この単元は、オペレッタをすることで、人に喜んでもらえるという達成感を子ども自身ももつことにより、人に喜んでもらえるようになった自分の成長を振り返ることができる単元である。さらに、公共の施設を使う上でのマナーやルールについて考えることもできる。

### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

成 ア 具体的な手がかりをもとに、自分の成長を実感としてとらえる。

人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。

- 地 ア 地域の物や人、行事等に関わり、そのよさに気づく。
- 地 イ 公共物や行事等に従事する人々の役割がわかり、適切に接することができる。
- 地 ウ みんなのものという意識をもって、ルールや安全について考えながら公共物を利用できる。

### 3 目標

- ・これまで多くの人に助けられてきた自分たちが、人に喜んでもらえたという体験をもとにして、成長してきた自分たちを実感としてとらえることができる。(成—ア)
- ・デイサービスセンターに通う人々や幼稚園児との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりの心をもって接することができる。(人—ア)
- ・デイサービスセンターに通う人や幼稚園児・保育園児に関わったり、地域の文化祭に参加したりすることにより、そのよさに気づくことができる。(地—ア)
- ・公民館やデイサービスセンターに従事する人々の役割がわかり、正しく接することができる。(地—イ)
- ・みんなが使うことを意識しながら、ルール・マナー・安全について気をつけながら公共物を使うことができる。(地—ウ)

### 4 展開



<支援上の留意点>

○デイサービスセンターと隣接する公民館には、1月上旬に「校内書き初め大会」で、訪問をしている。この経験と、これまで子ども会の行事等で使用した経験も日記などで情報を集めながら、デイサービスセンター訪問時に公共施設の使い方として触れさせていきたい。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・デイサービスセンターの方に披露ができるかどうかのオーディションをかねてオペレッタを見てもらう活動を追加した。このことにより、デイサービスセンターで披露したいと願う子どもたちの意欲が高められることが期待できる。さらに、デイサービスセンターにこられる人たちへの表現の工夫をアドバイスしていただくことにより、表現の工夫に対するクラスの意識が共有化でき、相手意識を持ったオペレッタの練習が進められることが期待できる。

単元名 うらやまにきちをつくろう

( 1月～2月)

1 単元設定の趣旨

幼稚園児と一緒にたつぷりと秋の素材を使って遊んだ子どもたちにとって、季節の素材は、新しい遊びを作り出す絶好の素材となっている。冬の遊びでも、自然物を使って遊んだこれまでの体験を生かして、たつぷりと戸外で遊ばせたい。放課後遊びの中で、基地作りを楽しんでいる子どもたちもおり、基地作りは子どもたちにとって胸ときめく活動であるといえる。

この単元では、単に基地を作るだけに終わらずに、寒い冬でも基地で過ごしやすくするための工夫をしたり、基地を使って遊ぶ活動を考えたりと活動に広がりを持っている。また、冬芽や隠れている虫や卵などの存在を見つけることにより、自然の命の営みや神秘さについても触れさせていくことができる単元である。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 学 ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。
- 自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。
- 自 イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気づく。
- 自 ウ 自分なりの思いや願いをもって自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

3 目標

- ・冬の自然物を使った遊びに意欲的に取り組み、試したり工夫したりすることにより、楽しく遊ぶことができる。(学一ア)
- ・身近な自然に触れる中で、自然の不思議さや神秘さ、命の営みについて気づき、学校の周りの自然に親しみをもつことができる。(自一ア)
- ・基地作りの遊びを通して、気候によって遊びや生活の様式が変化することに気づく。(自一イ)
- ・自分なりの思いを持って自然と関わり、自分たちの遊びや生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。(自一ウ)

4 展開

<主な経験活動>

ア 裏山に自分たちの基地を作ろう

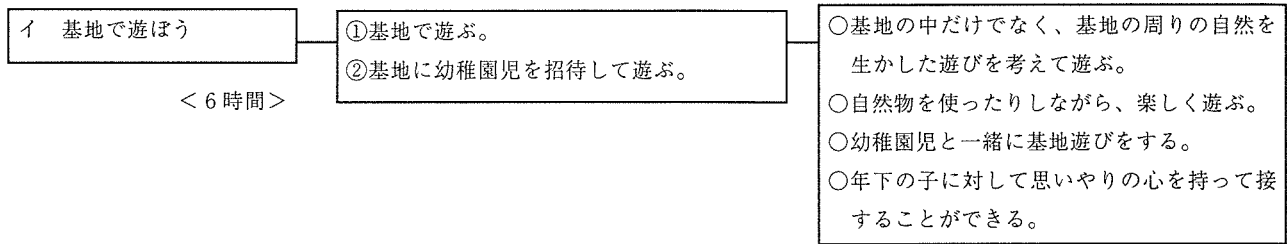
< 7時間>

<具体的な経験活動>

- ①裏山遊びをしながら、基地を作る場所を決め基地作りのために何が必要かを話し合う。
- ②寒くても過ごせる基地にするために、工夫をしながら基地を作る。

<具体的な目標>

- 裏山遊びを存分に楽しむ。
- 裏山遊びを通して、季節による自然の変化に気づく。
- みんなで話し合いをして、基地を作る場所を決める。
- 作りやすさや加工のしやすさ、集めやすさなどを考えながら、基地を作る材料を決める。
- 自然物やその他の材料を持ち寄り、工夫して基地を作り、活動を楽しむ。
- 冬にも命の営みが続いていることについて、冬芽や生き物の発見などを通して気づく。



< 支援上の留意点 >

○必要に応じ、冬芽に関する絵本などを読み、命の営みについて興味・関心をもたせていく。

単元名 おもいでのパネルをつくろう

( 3月 )

1 単元設定の趣旨

1年間で大きく成長してきた子どもたちであるが、自分の成長を実感する機会は少ない。一人一人が、自分の成長を周りの人々との関わりの中で実感することにより、人との関わりを見つめ直したり、多くの人に感謝の気持ちをもったり、将来の自分の夢を大きく膨らませることができる。この単元では、子どもたちの興味・関心を高めるために模造紙大のパネルを使い、活動を展開していく。

この単元では、「みなぎのコース」を中心に人との関わりの中で成長してきた自分自身のパネルを作る。年間の発育測定の結果や、「みなぎのコース」の写真や思い出、さらに家族などからのメッセージなど具体的なものを多く取り入れる。そうすることによって、人との関わりの中で成長してきた自分を振り返ることができる単元である。

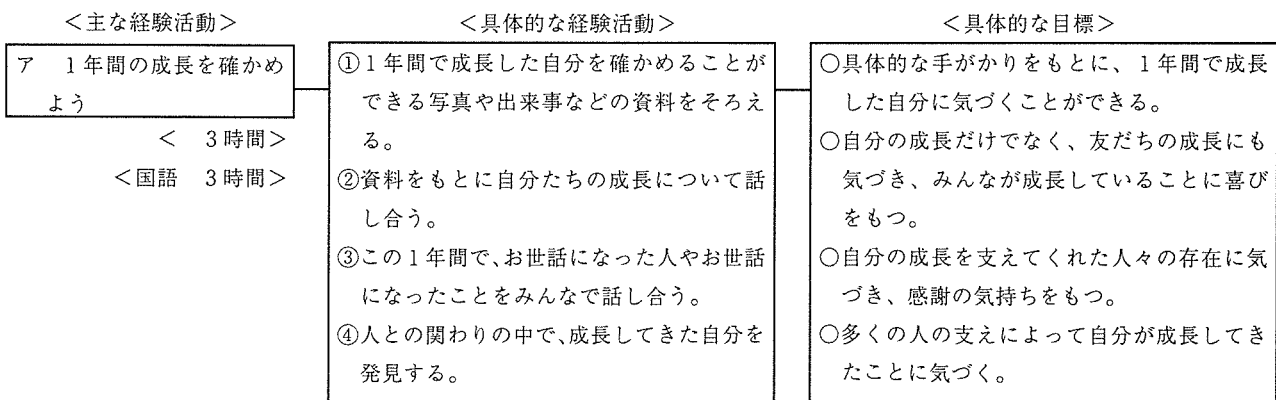
2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 ア 具体的な手がかりをもとに、自分の成長を実感としてとらえる。
- 成 イ 自分の成長の背後には、多くの人々の支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつ。
- 成 ウ 自分の成長の喜びを感じるとともに自分のよさに気づき、願いや夢をもって生活しようとする。

3 目標

- ・発育測定の結果やこれまでの活動での写真などをもとに、自分の成長を実感としてとらえ、喜びを感じることができる。(成-ア、成-ウ)
- ・自分の成長に関わりのあった人を思い出して書きあげること、自分の成長には多くの人々の支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつことができる。(成-イ)
- ・自分のよさに気づき、どんな2年生になりたいかを考え、願いや夢を持って過ごそうとすることができる。(成-ウ)

4 展開



イ 思い出パネルを作ろう

★1

< 2時間 >

図工 < 5時間 >

①思い出パネルを作る。

②校内に展示しているいろいろな人に自分たちの成長を披露する。

○自分ができるようになったこととお世話になった人のことを思い出してパネルに書く。  
○人との関わりの中で自分が育ってきたことがわかる。

○自分の成長に喜びを感じるとともに、どんな2年生になりたいかを考える。

○自分や友だちの成長に喜びを感じ、いろいろな人と喜びを分かち合う。

< 支援上の留意点 >

○パネル製作の最終段階には、保護者の方とともに制作する時間をとる。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・国語科からの発展としてのアルバムづくりをパネルづくりに変更。アルバムづくりは国語科の学習の中で3月に行う予定であり、人と関わる中で学んだ「みなぎのコース」を子どもたちにより意識させるために、人との関わりのみをあつかったパネルづくりの方が具体的であると考えた。また、パネルの大きさが、子どもたちの興味・関心を高めることにも着目した。

# 障害児学級

## 単元名 『三びきのやぎのがらがらどん』のげきをしよう。』

(11月～12月)

### 1 単元設定の趣旨

対象児は今、絵本への興味関心が高く音読の力も伸びてきている。構音障害を持つ対象児であるが、本単元は、相手を意識して読んだり台詞を言ったり、期待をもって取り組んでいける内容であり教科におけるねらいも含んでいる。総合的に取り組んでいくことで、対象児に様々な力をつけてくれると考えた。

### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

前期 自 ウ 自分の成長のよさを感じ、自分でできることは自分で取り組もうとする。

前期 人 イ 先生や友だちと一緒にふれあっていく楽しさや、おもしろさを感じられるようになる。

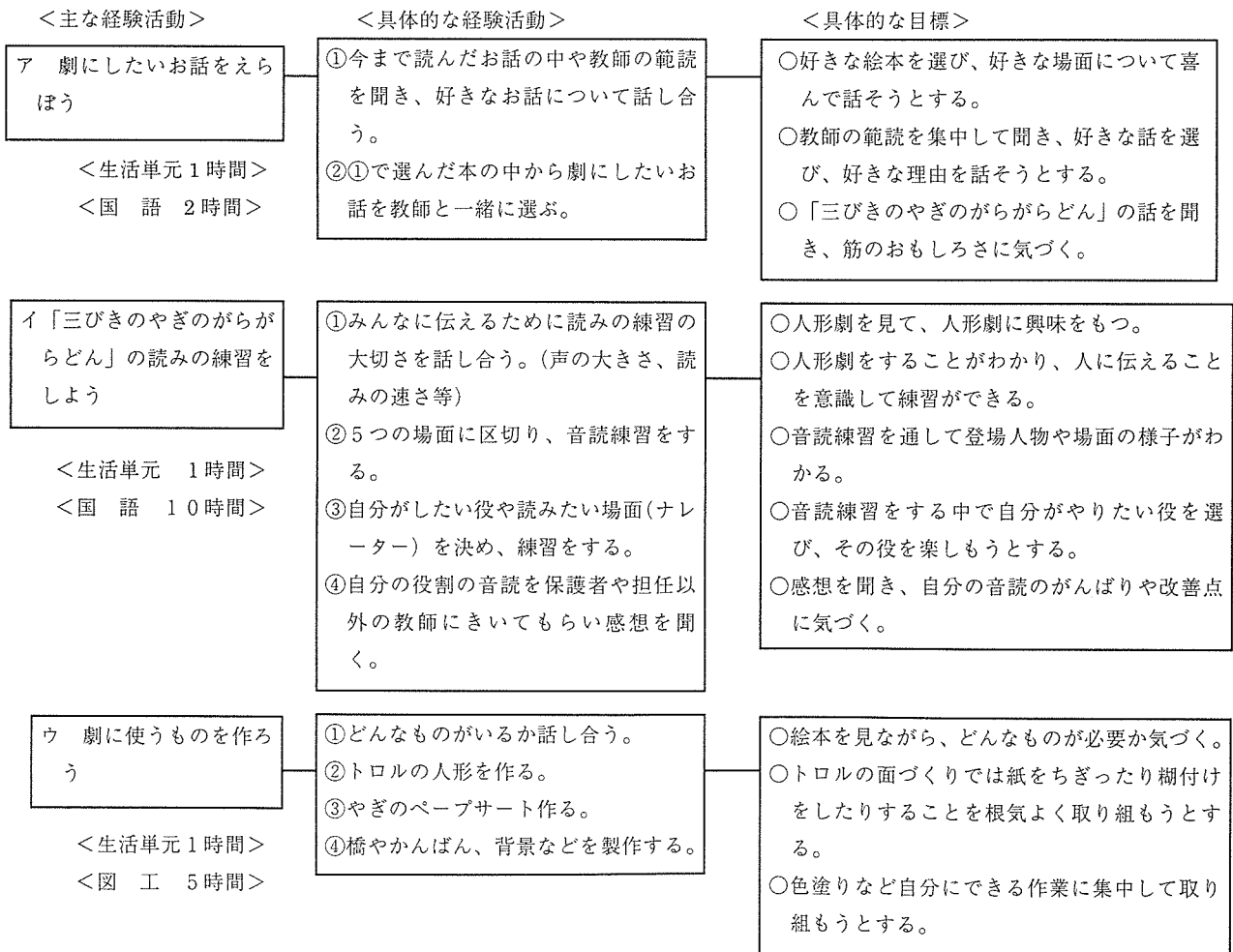
後期 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。

後期 学 ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。

### 3 目標

- ・人形劇の活動を通して自分でできることは自分で取り組もうとしたり、自分のがんばりに気づいたりできる。(前期 自—ウ)
- ・先生や友だちに人形劇を見てもらうことを楽しみにして、台詞を覚えたり、人形を作ったり動かしたりすることができる。  
(前期 人—イ)
- ・生活発表会に参加し、幼稚園や1年生の演技を見てそのがんばりに気づいたり、交流を深めたりできる。(後期 人—ア)
- ・みんなに楽しんでもらう劇にするため、お手紙を出したり、音楽をいれたり、あいさつを考えたりなど意欲をもって取り組むことができる。(後期 学—ア)

### 4 展開





エ 人形劇を仕上げよう

<生活単元 2時間>

<音楽 1時間>

<国語 3時間>

- ①台詞や効果音を録音する。
- ②録音したテープに合わせて人形を動かす。
- ③人形劇の録画ビデオを見て話し合った改善点をもとに、練習をする。
- ④もう一度、保護者や「じゃがいもの家」の人々に見てもらい感想を聞く。

- 自分の台詞を場面の様子に合わせて、はっきりした声で言おうとする。
- 場面の準備や人形の動かし方を工夫しようとする。
- 自分が演じた劇のできあがり喜び、さらに改善点を教師とともに考え練習に励もうとする。
- 感想を聞き、人形劇のできあがりとともに喜んでくれる人々の存在に気づく。

オ 生活発表会（幼稚園）で、劇を見てもらおう

<生活単元 2時間>

<国語 2時間>

- ①幼稚園の先生やみんなに生活発表会に向けてお手紙を書く。
- ②劇での挨拶の練習をする。
- ③劇を見てもらう。
- ④発表会の感想を話し合ったり文にまとめたりする。

- 幼稚園での発表に期待をもち、頑張ろうとする。
- 多くの人々の前で自分の思いを伝えることができる。
- 幼稚園の発表会で自分の役割を力いっぱい果たそうとする。
- 友だちや自分のがんばりに気づく。

<支援上の留意点>

- お話を選ぶ時や役割を決める時など、対象児が自己選択、自己決定できる場面を作り、教師の支援を得ながら、自ら取り組める機会をつくっていく。
- 園児との交流の場面では、対象児の生活年齢を大切に、自ら関わっていけるように支援をしていく。

## 第2学年

### 単元名 あいがもさんを自分たちの力でそだてよう

(4月～7月)

#### 1 単元設定の趣旨

2年生は、1年生での飼育活動において、生き物の命を途中で絶えさせてしまった経験から、今年は「自分たちの力で1年間続けて生き物を育てたい」という願いを強くもっていた。

あいがもをひなから育てていく活動は、児童にとって初めての経験であり、愛情をもって世話を続ける大切さを身をもって知ることにもつながり、価値あるものになると考える。あいがもを迎えるまでの調べ学習、準備物の用意に進んで取り組む中で、また、あいがもを迎えてから予想していなかった困難や葛藤に出会う中で「学び方」を身につけたり、「自己への気づき」「友だちとのよりよい関わり合い」「口吉川の人との交流」の場面も生じたりするであろう。その中で学びをさらに深めていくことも期待できる。

#### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

生 ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。

学 ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。

地 ウ みんなのものという意識をもって、ルールや安全について考えながら公共物を利用できる。

#### 3 目標

- ・あいがもの飼育活動を通して成長の様子に関心をもち、自分たちと同じように生命をもっていることに気づき、温かい気持ちで大切にすることができる。(生—ア)
- ・「あいがもを迎えるための準備」「あいがもを育てていく過程」において出てくる課題について、自分たちで話し合ったり、計画の立て直しをしたりしながら、様々な方法で解決・実現しようとする。(学—ア)
- ・みんなの所有物である飼育小屋を借り使用する際には、道筋を大切にしながら進めたり、ルールを考えながら大切に利用したりすることができる。(地—ウ)

#### 4 展開

<主な経験活動>

ア あいがもさんについて調べよう

<6時間>

<具体的な経験活動>

- ①知りたいことを図鑑・インターネット等を用いて調べ、出し合う。
- ②あいがもを飼育したことのある人にインタビューをして調べる。
- ③インタビューの仕方を「口吉川小学校調べ方読本」で確かめる。
- ④実際にインタビューをする。
  - ・直接出会って
  - ・ファックスを使って
  - ・手紙を出して など

<具体的な目標>

- 知りたいことを自分なりの方法で、進んで調べようとする。
- あいがもの特徴・飼い方等を知る。
- あいがもが米作りの際に人間のために役に立っていることに気づく。
- 「口吉川小学校調べ方読本」でインタビューの方法を確かめ、自信をもって取り組むことができる。
- 質問に答えてくださる他に、これから飼いはじめようとする自分たちを応援して下さっている思いにふれ、感謝の気持ちをもつとともに、あいがもを自分たちの力で育てていくという思いを新たにもつ。

イ あいがもさんを迎えるための準備をしよう

< 6時間 >  
< 図画工作科 2時間 >

- ①あいがもを迎えるための準備物について話し合う。
  - ・小屋・えさ・池・田んぼ・田んぼに行った時の別荘 等
- ②あいがもを迎えるための準備にとりかか
  - ・池作り
  - ・えさ植え
  - ・田んぼに行った時の別荘作り など
- ③小屋を使わせてもらえるか、校長先生・全校生に相談する。
- ④田んぼを使わせてもらえるか家の人に相談し、田植えに行く。

- いろいろな案が出てきた時には「あいがもにとって」必要かどうかという視点で考えることができる。
- あいがもの成長具合や特性を考え合わせながら準備物を用意していこうとする。
- あいがもの成長具合に合わせて用意しておくべき時期を見通すことができる。
- 友だちと協力しながら池作りやえさ植え、別荘作りに取り組むことができる。
- 途中、使わせてもらえないかもしれない状況に出合ってもあきらめずに計画の立て直しをしながら進めていこうとする。
- 小屋や田んぼの準備をマナーを守りながら進めていこうとする。

ウ あいがもさんをむかえよう

< 2時間 >

- ①あいがものひなを迎え、ふれあう。
- ②心をこめて、ひなを世話する方法を話し合う。

- 温かい気持ちであいがものひなを迎えることができる。
- あいがもに親しみ、自分にできる世話の仕方を選んで考えようとする。
- 継続的な世話に取り組む中で、あいがもの成長や変化に目を向けることができる。

エ あいがもさんのピンチを救おう

< 6時間 > ★1  
+ 常時活動へ

- ①ピンチを救うための方法を話し合う。
  - ・早急に小屋・田んぼを用意（成長が早い）
  - ・早急に池を用意（用意した容器をかじり壊すため）
  - ・野菜につく虫退治（無農薬栽培のため）
- ②マナーを守り、実行する。

- ピンチを救うためできる方法を進んで考えようとする。
- あいがもの成長やハプニングに合わせて、準備物を用意する時期の修正を行う必要があることを知る。
- 困難に出合っても、マナーを守りながら、より望ましいという方法で解決に向けて取り組んでいこうとする。

オ 田んぼで活躍するあいがもさんを応援しよう

< 6時間 >

- ①あいがもが活躍できるように水田の用意をする。
- ②あいがもを一輪車にのせて水田に連れて行き放す。
- ③あいがもの仕事ぶり（盛んに稲に根元をつつく・稲の間を泳ぎ回る）を見守る。

- 水田の準備に意欲的に取り組もうとする。
- あいがもを安全に移動できるように、協力しながら一輪車で運ぶことができる。
- あいがもの動きが稲の生長に役立つことを、間近で確かめることができる。
- あいがもの仕事ぶりを温かい気持ちで見守ることができる。

カ あいがもさんのことを周りの人に知らせよう

< 4時間 >

- ①知らせたいことのために必要なものを準備したり、作戦を立てたりする。
- ②〇〇に伝える機会をもつ。
  - ・全校朝会で
  - ・幼稚園に出かけて
  - ・社の森で行う活動時に（お家の人に）

- 「どうしたら伝わりやすいか」を考え、意欲的に取り組もうとする。
- 相手に応じ、分かりやすい方法や言葉づかいを用いて伝えようとする。
- 場所に応じ、声の大きさなどを工夫して伝えようとする。

<支援上の留意点>

- あいがもの飼育経験のある人に事前に連絡をとり、趣旨を伝えるとともに返事がいただけるように依頼しておく。
- ・地域であいがものを飼育されている〇〇さん
- ・王子動物園・山崎たまご牧場・社の森の飼育員さん、豊岡市立三江小学校5年生
- 「えさ植え」「田植え」時に、参加いただくGTとの打ち合わせを大切にする。
- 自分たちで用意できないと考えているものの確保への見直しをもっておく。
- あいがものひなを迎える時期について、飼い主との打ち合わせを大切にする。
- 田を貸してくださった人と田の状態について密に連絡を取り合い把握することを大切にする。
- 児童の計画に応じ、場の設定を保障する。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・飼育活動のため、予期しないこと（課題や困難）が発生する。それらを解決するにあたり、価値ある学びが期待できる活動となると判断し、時間数を当初の4時間から6時間に増やした。望ましい方法を話し合い、常時活動の中で実施し、また話し合うという繰り返し（1/3時間×6回分）の中で、たつぷりと活動することにもつながった。

単元名 はるのくらしをみつめよう

（4月）

1 単元設定の趣旨

4月、2年生は、進級した喜びに満ちあふれている。1年生を迎え、ひとつお兄さん、お姉さんになったという自信を胸に、2度目の春を迎えている。

そこで、「春のくらし」をテーマに、自然事象だけではなく社会事象との関わりを大切にできるような単元を成立させる。口吉川という地域をフィールドとした気づき、自己の成長に目を向けた気づきも期待できる。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

成 ア 具体的な手がかりをもとに、自分の成長を実感としてとらえる。

自 イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること

に気づく。

3 目標

・ 昨年の「春」の頃の自分をふり返り、1年の成長を実感としてとらえる。（成—ア）

・ 「春」を迎えることで、草花や木々の様子が変わったり、自分の生活が変わったりすることに気づく。（自—イ）

4 展開

<主な経験活動>

ア くらしの中の「春」を見つけよう

<2時間>  
→常時活動へ

<具体的な経験活動>

- ①学校の中・通学路・近所で「春」を見つけをする。
- ②くらし（衣・食・住・行事）の中から「春」を見つけをする。
- ③見つけた「春」をまとめ、発表する。  
※朝の会・情報カード・もちこみ・コーナー展示・マップ化等

<具体的な目標>

- 春になると草花や木々等に変化が現れることに関心を持ち、進んで「春」を見つけようとする。
- 地域の行事に目を向け、「春」に大切にされている催しがあることに気づく。
- 見つけた「春」を絵にかいたり、簡単な説明文をつけたりしてわかりやすく発表しようとする。

イ きょ年の「春」と比べよう

<2時間>

★1

- ①昨年の「春」を思い出し、比べて思ったことを話し合う。  
・ くり返されていること  
・ 変わっていること
- ②昨年の「春」の自分を思い出し、比べて思ったことを話し合う。  
・ 変わってきたこと・成長したこと

- 昨年の「春」と今年の「春」とを比べる活動に進んで取り組もうとする。
- 昨年の「春」の頃の自分と今の自分とを比べて一年の成長を実感としてとらえる。

<支援上の留意点>

- 常時に発表することができる場の設定を保障する。
- 成長を実感としてとらえられるような資料を用意しておく。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・単元構想では、主な経験活動として、1年生に見つけた「春」を伝えようという活動を入れていたが、子どもの意識のつながりから考えると寸断的であり、かつア③と重複するので削除した。

単元名 なつまつりを楽しもう

(7月)

1 単元設定の趣旨

2年生は、「はるのくらしをみつめよう」の単元で自然事象とともに社会事象への関わりを大切に学習に取り組んできた。8月が近づくとつれ夏祭りの準備にいそがしくなる地域の人の様子に興味をもっている児童も多い。

そこで、口吉川の「夏まつり」に焦点をあて夏まつりに寄せる人々の思いを調べたり、地域の一員として参加したりすることができる「なつまつりを楽しもう」の単元を成立させる。フィールドを地域とした連続した学習の中で生活に根ざした学習となることが期待できる。

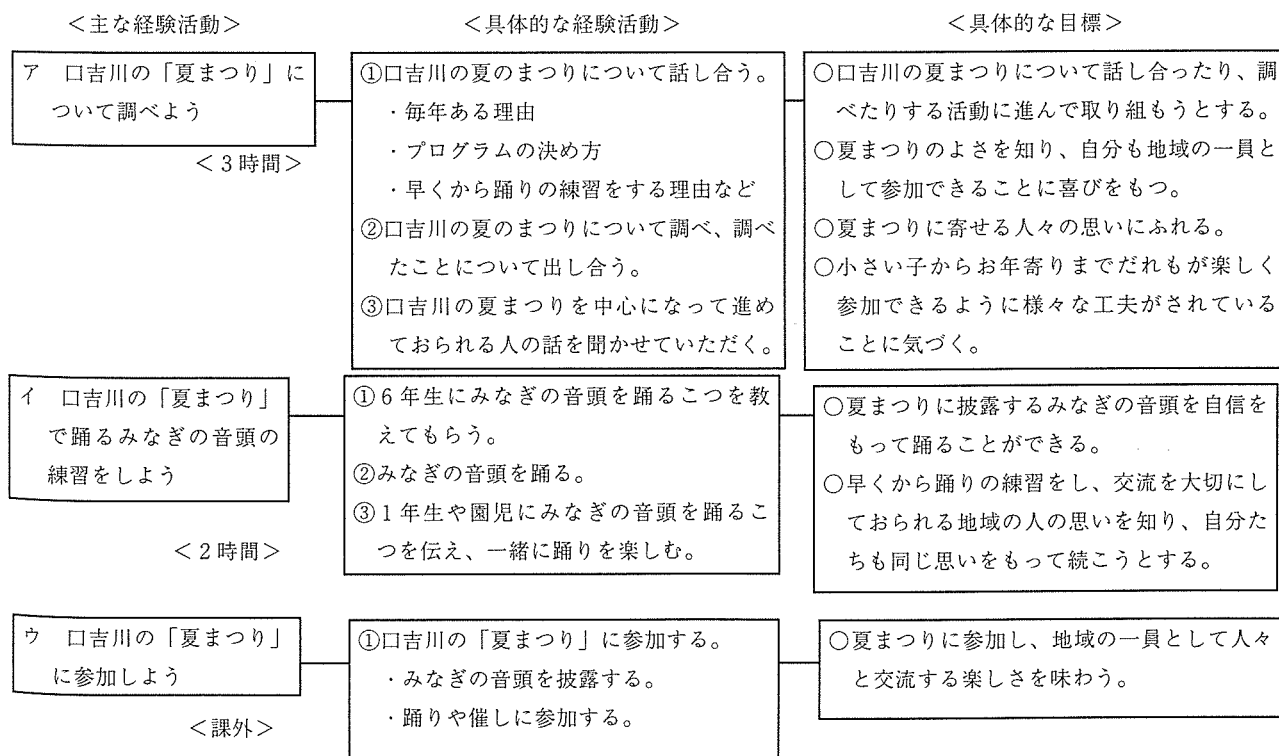
2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。
- イ 地域や学校の人々と、助け合いながら一緒に生活しようとする。
- 地 ア 地域のものや人、行事等に関わり、その良さに気づく。

3 目標

- ・「夏まつり」に寄せる人々の思いを知ったり、実際に「夏まつり」に参加したりする活動を通して、身近な人々との交流を深めることができる。(人ア・イ)
- ・毎年、変わらず「夏まつり」が大切に実施されていることや「夏まつり」をきっかけに地域の人々が結びついていることよさに気づく。(地ア)

4 展開



<支援上の留意点>

- 夏まつりを中心となり進めておられる人との事前の打ち合わせを大切にします。
- 幼稚園、1・6年担任との事前の打ち合わせを大切にします。
- 保護者とともに参加できるように、事前に依頼しておき、協力を得る。

単元名 あいがもさんといっしょにかつどうしよう

(9月～12月)

1 単元設定の趣旨

2年生は、1学期に『あいがもさんを自分たちの力でそだてよう』の単元の活動に意欲的に取り組んできた。地域の人のおかげもあり、あいがもとともにもち米作りの活動(仕事体験)に取り組む機会も得た。夏休みも自分たちの手で飼育活動を続け、「2学期になったらあいがもさんと一緒に〇〇をしよう」という思いで夏休みを過ごしていた児童も多くおり、あいがもとともに活動することは、あたりまえという雰囲気があった。

そこで、児童の願いを大切にするとともに、1学期からの学びの連続・発展を期待し「あいがもとともに」活動することのできる単元を成立させる。あいがもとの継続的な関わりをもつことで、児童は生命の不思議さ・成長の喜びをますます体感するとともに、愛情をもって世話を続ける大切さを感じるであろう。また、あいがもとともに生活を創りだしていく活動や仕事経験をする活動は、児童にとって魅力あるものとなるであろう。活動が進むにつれて、困難や葛藤に出会うことも予想される。新たな課題解決過程で「学び方の獲得」「自己への気づき」「友だちとのよりよい関わりあい」も期待できる。また「異年齢児童との交流場面」「様々な人との出会いの場面」から人と関わりながら学びを深めていくことも期待できる。

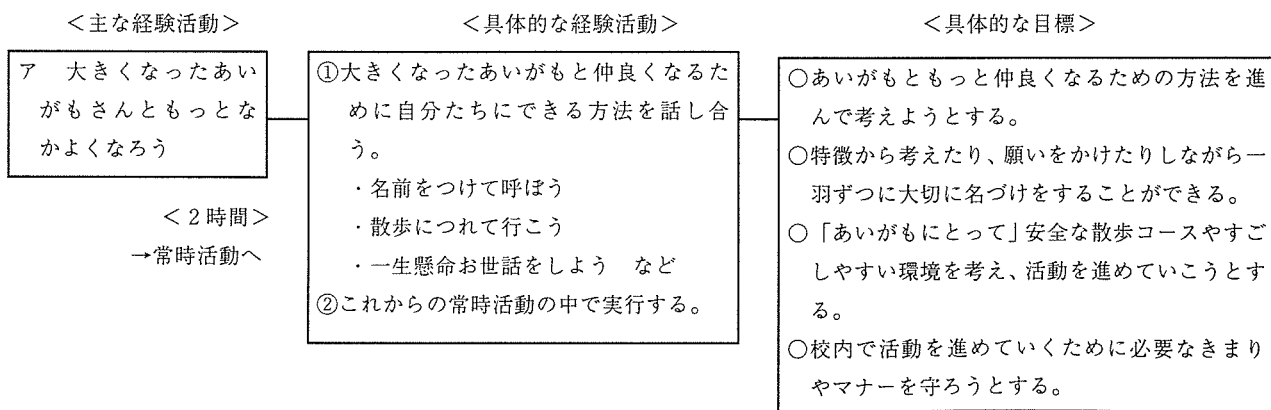
2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。
- 成 ウ 自分の成長の喜びを感じるとともに自分の良さに気づき、願いや夢をもって生活しようとする。
- 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって、自分以外の人々に思いやりをもって接する。
- 学 ア 様々な活動に意欲的に取り組み、考えたり試したり工夫して遊びや生活をしようとする。

3 目標

- ・飼育活動を継続することが、あいがもの成長に不可欠であることがわかり、よりすこしやさしい環境を創り出そうと意欲的に取り組もうとする。(生一ア)
- ・協力しながらあいがもの飼育活動を継続し、課題解決・願いの実現に向けて取り組んできた自分や友だちの良さに気づく。(成一ウ)
- ・「あいがも音頭を作っておどる」「あいがもランドをひらく」「もち米を収穫する」にあたり、身近な人の思いを受け入れたり、地域の先輩に学んだことを生かしたりして交流を深めながら、活動を進めていくことができる。(人一ア)
- ・「あいがも音頭を作っておどる」「あいがもランドをひらく」にあたり、出てくる課題について自分たちで話し合ったり、計画の立て直しをしたりしながら様々な方法で解決・実現しようとする。(学一ア)

4 展開



イ あいがも音頭を作  
っておどろう

< 8時間 >  
+ 図画工作科 4時間

- ① 「～音頭」の曲を聞いて、自分たちの「あいがも音頭」のイメージについて話し合う。
- ② 「みなぎの音頭」を作られたお兄さん・お姉さん（高1）に往復はがきを出し、大切にされてきたことを聞かせていただき、参考にする。
- ③ 「むらまつり」の替え歌として「あいがも音頭」をパート毎に作る。
  - ・必要があれば学校にある太鼓や鳴り物を借りる作戦を立て実行する。
  - ・パート毎に振り付けをする。
  - ・パート毎の歌と振り付けを見せ合い、よい所・こうしたらよくなる所を交流し合う。
- ④ 「あいがも音頭」を踊る時に着る衣装を作る。
- ⑤ 「あいがも音頭」を演奏する時に使う鳴り物を作る。
- ⑥ 「あいがも音頭」をみんなで踊る。
  - ・あいがもランドに招待した人たちに「あいがも音頭」を披露し、いっしょに踊る。
- ⑦ 「あいがも音頭」を作る時にお世話になったお兄さん・お姉さんにお礼の手紙を出す。

- 「あいがも音頭」の完成に向け進んで取り組もうとする。
- 往復はがきの使い方を知る。
- 往復はがきを大切に届けて下さる郵便局員さんの役割がわかり、感謝の気持ちを持ち接することができる。
- 「みなぎの音頭」を大切にされている先輩の思いに触れ続けようとする気持ちをもつ。
- 先輩に学んだことを生かし、友だちと協力しながら活動を進めていくことができる。
- 太鼓を借りる場合の筋道やマナーを考え実行する。
- あいがも一匹一匹に特徴等違いがあることを知り、取り入れようとする。
- お互いに良い所・こうしたらよくなる所を伝え合うことができる。
- 工夫を生かしながら衣装作りや鳴り物作りに取り組む。
- みんなで「あいがも音頭」を完成させた喜びを味わう。
- 相手に応じ、分かりやすい方法で「あいがも音頭」を伝えようとする。
- 感謝の気持ちを込めていねいな字で手紙を書くことができる。
- 言葉遣いに気をつけて書けているか等に気をつけて見直すことができる。

ウ あいがも米の収穫  
をおいおいしよう

< 6時間 >

- ① あいがもを連れて田んぼへ行き、稲刈りに挑戦する。
  - ・稲刈り名人のお話を聞かせていただく。
- ② 昔の方法を使って、もみすりをする。
- ③ あいがも米を使用した料理を作っていただき、収穫をお祝いする。

- あいがもが無事に田んぼへ行けるように心掛けながら協力して一輪車で運ぶことができる。
- 大切なことを落とさずに名人の話をお聞きとする。
- 興味をもって稲刈り・もみすりに取り組み、働くことの大変さとともに心地よさを体感する。
- あいがも米を使用した料理作りに意欲的に取り組もうとする。
- あいがものおかげでおいしいお米を使って料理ができたことに感謝し、いただくことができる。

エ あいがもランドを  
ひらこう

<14時間>  
+図画工作科

- ①招待したい人にあいがもランドを開くためのアンケートをしたり、取材をしたりする。
  - ②アンケートを集計し、あいがもランドを開く計画を立てる。
    - ・コーナーの内容
    - ・準備物
    - ・プログラム
    - ・お知らせの方法 等
  - ③あいがもランドを開く準備をする。
    - <各コーナーの準備>  
ふれあい、記念写真、散歩、クイズ、お絵かき、体重測定、説明コーナー
    - <全体の準備>  
門、旗、写真の展示
  - ④お互いのコーナーに招待し、良い所こうしたらよくなる所を交流し合う。
  - ⑤〇〇を招待してあいがもランドを開く。
    - ・1回目、園児と1年生
    - ・2回目、上学年
    - ・3回目、お家の方、園児と1年生
- ★1
- ⑥あいがもランドを開く活動を振り返り、カードに記入する。
  - ・心にのこったこと
  - ・自分のよかったところ
  - ・友だちのよかったところ

- あいがもランドを開くためにたくさんの人の意見を取り入れようと、意欲的に取り組む。
- アンケートの集約の仕方を知る。
- アンケートの意見の多さだけではなく、「あいがもにとって」適切かどうか・あいがもと仲良くなれたり、あいがものことを知ってもらえたりできるかなどの条件を考え合わせながらコーナーを決定しようとする。
- あいがもランドを開くための計画や準備に、友だちと協力しながら進んで取り組もうとする。
- 準備物のうち、学校にある物を使用させてもらう必要がある場合、筋道やマナーを考えながら実行する。
- 今までの飼育経験をいかしながら準備を進めていくことができる。
- お互いによい所・こうしたらよくなる所を伝え合うことができる。
- お客さんを招待してあいがもランドを開く活動に進んで取り組もうとする。
- 相手に応じ、分かりやすい方法や言葉遣い、ルールなどを用いて伝えようとする。
- 前回の反省を次回に生かしながら取り組もうとする。
- あいがもランドを開く活動に向けて取り組んできた自分や友だちの良さに気づく。

<支援上の留意点>

- 「～音頭」の曲を何曲かみつけておく。  
「みなぎの音頭」を作った先輩（高1）の連絡先を調べておく。
- 稲刈り名人として参加いただく人との事前の打ち合わせを大切にす。  
保護者にもお手伝いを依頼しておく。安全面に、十分に気をつけて取り組ませる。
- あいがもランドを開くにあたり、その趣旨等を保護者・幼稚園・各担任に事前に伝えておくことを大切にす。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・活動を繰り返すことで、招待する人が異なるといった「壁」にも反省点をいかしながら取り組み、学びの更新も見られた。その中で、「一回目は、反省もいっぱいあったので十分楽しめてない子もいるかもしれないから、もう一回来てもらいたい。」という声子どもたちから出た。そこで、3回目に招待する人をおうちの方のみと予定していたが、園児と1年生も加えた。結果、同じ相手を再度招くことで相手が前回より楽しんでいる姿を実際に目にする機会にもなり、前回と比べながらよくなったところなど、振り返ることもでき、自己の成長への気づきにつながった。

単元名 あきをあじわおう

(10月～11月)

### 1 単元設定の趣旨

豊かな自然に囲まれた農村地帯である口吉川には、秋になると直接関わる中で学びを深めていける学習材が豊富にある。そこで、秋の産物に関わる（作って遊ぶ、食する）活動にたっぷりひたることのできる「あきをあじわおう」の単元を成立させる。体験活動を大切にする学習を進める中で地域や自己への気づきを集積するとともに、生活に根ざした学習となることが期待で



きる。

## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって自分以外の人々に思いやりをもって接する。
- 自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみを持つ。
- ウ 自分なりの思いや願いを持って自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。

## 3 目標

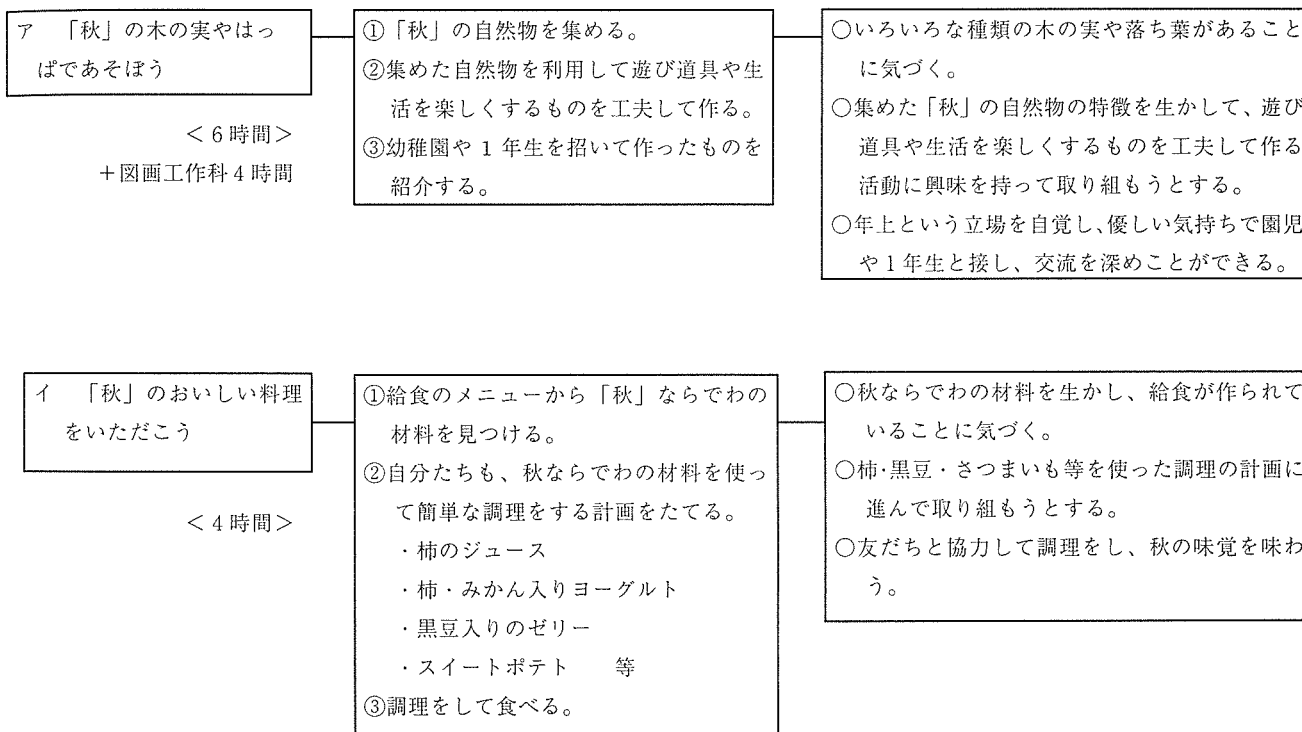
- ・ 秋の産物を利用した遊び道具等を紹介する活動を通して、1年生や園児との交流を深めることができる。(人ーア)
- ・ いろいろな種類の実や落ち葉を集める活動に進んで取り組む中で、身近な自然に親しみをもつ。(自ーア)
- ・ 秋の自然物の特徴を生かして、遊び道具や生活を楽しむものを工夫して作ったり、秋の材料を生かして調理をしたりすることができる。(自ーウ)

## 4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>



<支援上の留意点>

- 早くから「秋」の自然物を集めておくように伝えておく。
- 必要な道具等があれば、用意しておく。安全面に気をつけて使用させる。
- 幼稚園、1年担任との事前の打ち合わせを大切にする。
- 調理の際は、安全面と衛生面に気をつけて取り組ませる。

## 単元名 年こし大作せんをしよう

(12月～1月)

### 1 単元設定の趣旨

2年生児童は、「はるのくらしをみつめよう」「なつまつりを楽しもう」「あきをあじわおう」の単元で季節の移り変わりに焦点をあて、フィールドを地域とし、くらしの中に材を見つけ体験活動を大切にしながら連続した学習を重ねてきた。次の季節である冬には、年越しという大きな行事がある。

そこで、地域の名人に教わりながらしめなわ作りをしたり、家族の一員として年末の大掃除に取り組んだりすることができる単元「年こし大作せんをしよう」を成立させる。これまでの単元同様、体験活動を大切に生活に根ざした学習となることが期待できる。

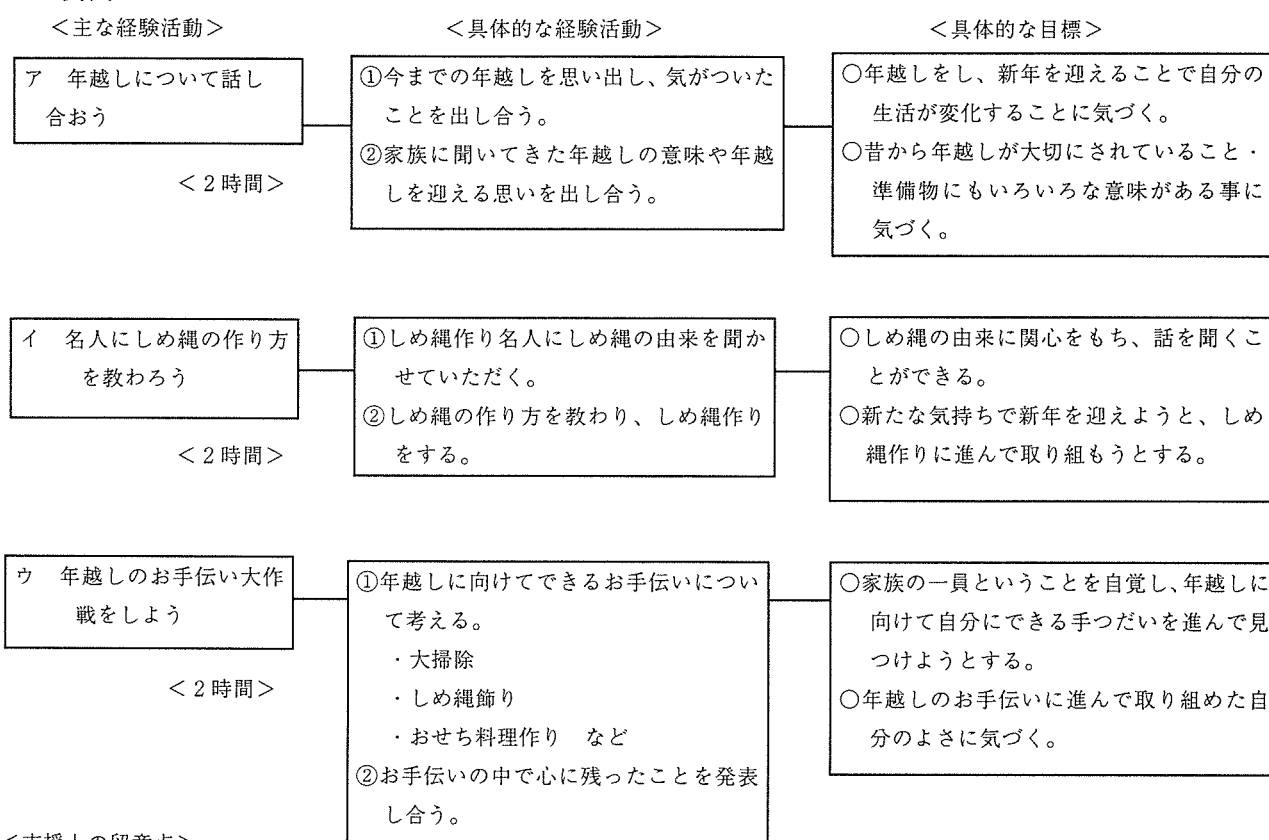
## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア 身近な人々との交流を深めることによって自分以外の人々に思いやりをもって接する。  
 地 ア 地域のものや人、行事等に関わり、そのよさに気づく。  
 自 イ 身近な自然を観察したり、地域の行事に関わる活動を行ったりして四季の変化や季節によって生活の様子が変わること  
 に気づく。

## 3 目標

- ・家族との交流を深めながら年越しのお手伝いに進んで参加する中で、家族の一員として取り組めた自分のよさに気づく。  
 (人―ア)
- ・名人にしめ縄の由来を聞いたり、作り方を教わったりする中で、新たな気持ちで年越しをし、新年を迎えようとする先人の  
 思いにふれ、そのよさに気づく。(地―ア)
- ・年越しをし、新年を迎えることで、自分の生活に変化があることに気づく。(自―イ)

## 4 展開



### <支援上の留意点>

- しめ縄作り名人との事前の打ち合わせを大切にする。
- 事前に「家族の一員として取り組める年越しのお手伝い」をさせてほしいことを保護者に伝え、協力を得る。

## 単元名 あいがもさんのこれからを考えよう

(1月～3月)

### 1 単元設定の趣旨

2年生は、年間を通してあいがもの飼育活動に意欲的に取り組んできた。あいがもとともに活動することは、児童にとって喜びであり、長期に渡る様々な活動を支える原動力となった。

3学期は思い出に残るようなあいがものお別れのイベント活動をしように考えている児童であるが、それ以上に関心をもっているのが、「あいがものこれから」である。

そこで、児童にとって切実な関心ごとである「あいがものこれから」についてを考えていけるような単元を成立させる。自分たちが愛情をもって育ててきたあいがもたちが、今後も無事に成長していける環境が校外にあるかどうかを探る活動を通じて様々な

困難や葛藤に出合うであろう。

その中で自分たちが納得できる条件と考え合わせながら、あいがもにとってより望ましい環境を見つけていく過程は、児童にとって価値のある体験になると考える。お別れのイベント活動では、今までの活動も振り返る中で「多くの人の支え」「自己成長」にも目を向けた気づきも期待できる。

## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 身近な動植物の飼育栽培活動を通して、それらの生命や成長に気づき、大切にすることができる。
- 成 イ 自分の成長の背後には、多くの人々の支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつ。
- 成 ウ 自分の成長の喜びを感じるとともに自分の良さに気づき、願いや夢をもって生活しようとする。
- 自 ア 身近な自然に関わる中で、自然の美しさ、不思議さ、すばらしさに気づくとともに郷土の身近な自然に親しみをもつ。

## 3 目標

- ・飼育活動を継続してきたことが、あいがもの生命をつなげ成長を支えてきたことに気づき、あいがものこれからについて意欲的に考えようとする。(生—ア・成—ウ)
- ・多くの人々の支えの中で、あいがもの成長とともに自分の成長があったことに気づき、感謝することができる。(生—ア)
- ・あいがもにとって住みやすい自然があるかどうかという視点で、郷土の身近な自然に目を向けようとする。(生—ア)

## 4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア あいがもさんのこれか  
らを話し合おう

<10時間>

- ①あいがもを今後どうしていきたいか意見を出し合い、より望ましい方法を探るために、話し合う。
- ②あいがもが住みやすい場所か実際に足を運び確かめる。
- ③あいがものこれからを決定する。

- あいがもが自分たちの手を離れても、無事に暮らしていけるかどうかを考え、意見を出すことができる。
- どの意見にも「あいがもにとって」よい点と心配な点があることに気づく。
- その中で「あいがもにとって」望ましい条件に合う、よりよい方法を考えていこうとする。
- 「あいがもにとって」住みやすいかを確かめるために現地に実際に足を運び、あいがものこれからについてを決定していくことができる。

イ あいがもさんありが  
と・さようならパーティ  
ーをしよう

<10時間>

- ①ありがとう・さようならパーティーを開く計画を立てる。
  - ・内容
  - ・準備物
  - ・招待する人
  - ・プログラム
  - ・お知らせの方法 など
- ②ありがとう・さようならパーティーの準備をする。
- ③〇〇を招待してありがとう・さようならパーティーを開く。
  - ・今までお世話になった人
  - ・これからお世話になる人
- ④ありがとう・さようならパーティーを開く活動を振り返り、カードに記入する。
  - ・心に残ったこと
  - ・自分に力がついたと思うところ

- パーティーの計画や準備に友だちと協力しながら進んで取り組もうとする。
- 今までの飼育経験や活動を振り返りながら準備を進めていくことができる。
- 準備を進めてく中で、たくさんの人にお世話になりながら活動が進んできたことに気づく。
- お客さんを招待してパーティーを開く活動に進んで取り組もうとする。
- パーティーを開く活動を振り返ることで、自分に力がついたと思うところを見つけることができる。

<支援上の留意点>

- 訪問させていただく場合、事前の打ち合わせを大切にす。
- 招待する人に、事前にパーティーの趣旨を伝えておく。

# 第3学年

## 単元名 口吉川町のガイドさんになろう

(4月～7月)

### 1 単元設定の趣旨

子どもたちは、探検が好きである。地域で日々生活していながらも、その生活圏は、学校と各地域の域を出ない。

そこで、この単元を設定することで、子どもたちにあらためて口吉川全域に目を向けさせ、そこに存在する施設、名所などを知り、それらがわたしたちの生活と深い関わりをもっていることに気づかせる。また、この活動を通して地域の人たちや親子のふれあいを深めることもできる。

### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

地 ア 地域の身近な歴史、伝統、文化、生活、産業に関心を持ち、自分たちの生活とのつながりを考え、そのよさに気づく。

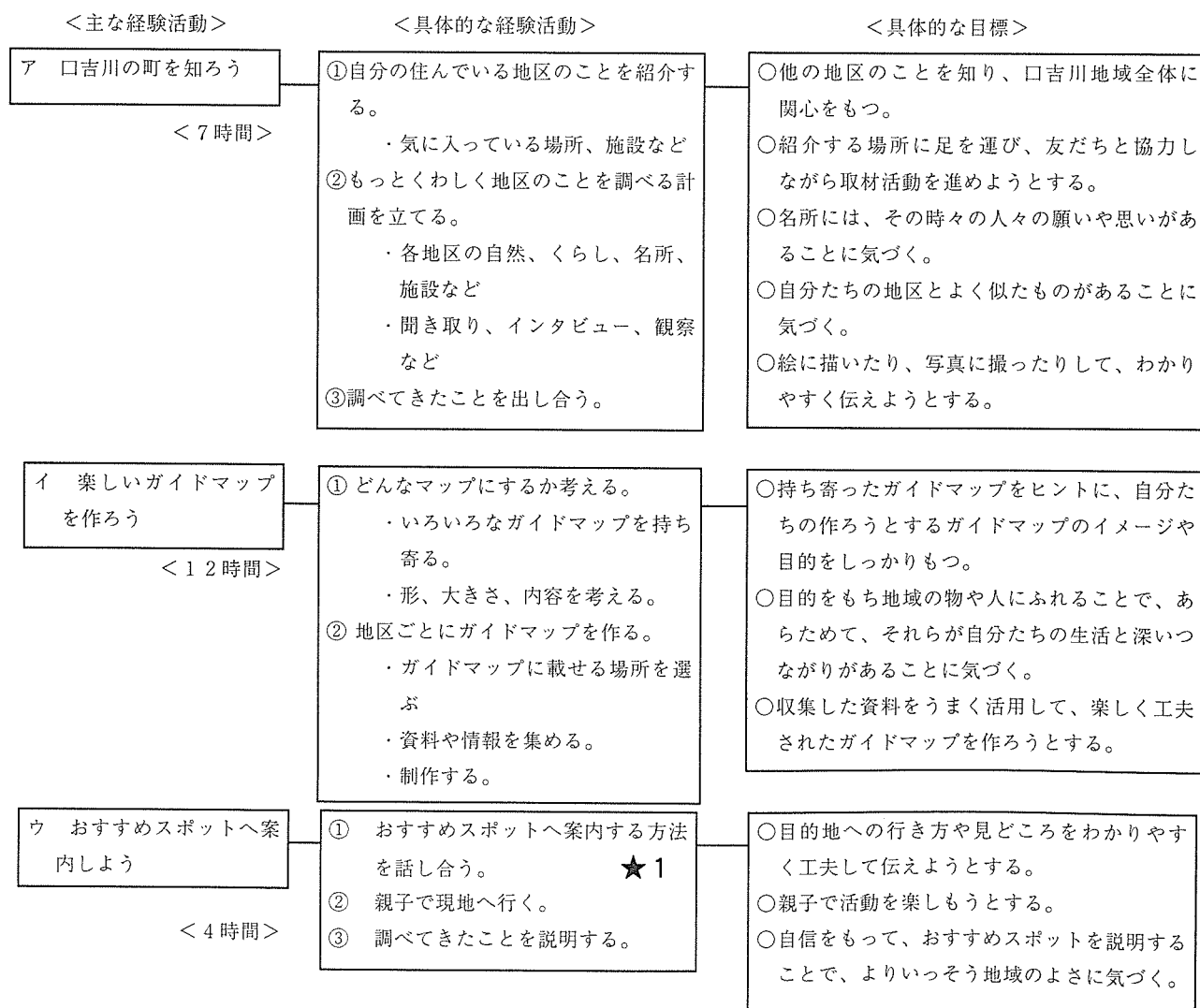
地 イ 地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。

人 ア とともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。

### 3 目標

- ・自分たちがよく行く場所について詳しく調べ、その場所が自分たちの生活と深い関わりをもっていることに気づく。(地—ア)
- ・地域の行事や文化的な活動には地域の人々の思いや願いがあることを知る。(地—イ)
- ・見学や訪問を通して身近な人々とふれあい、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接することができる。(人—ア)

### 4 展開



<支援上の留意点>

- ガイドマップ作りは、おすすめスポットへ案内するためのものであることを常に意識づけるよう支援をしていく。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・子どもたちのおすすめスポットの選択は指導者の思いとは少し異なっていた。

単元名 口吉川の柿を使った特産物をつくろう

(9月～12月)

1 単元設定の趣旨

口吉川の地には、ぶどうが実り、田や畑も豊かな実りの季節をむかえた。やがて、10月も半ば、さつまいもや山田錦の収穫が始まる。また、口吉川のあちこちに柿の実が色づき始める。自然豊かな口吉川、さつまいもや柿は子どもたちにとって最も身近で格好の教材だ。特に、柿の木はいたる所にあり、すぐ手に入り、地域の人の生活と深く結びついた食べ物である。柿を通して地域の自然の移り変わりや人々の心が見えてくる。だんだん食べなくなってきた柿、口吉川の大切な実りを何とか生かし、柿の木のあるふるさとに愛着をもたせたい。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

自 ア 身近な自然に進んで関わり、自然の大切さに気づく。

自 イ 身近な自然と自分たちの生活とは深い関わりがあることがわかり、私たちを取り巻く環境の現状や問題点に気づく。

地 ウ 自分も地域社会の一員であることに気づき、地域の文化や生活を守るために自分にできることは何かを考えて実行しようとする。

3 目標

- ・ 柿調べを通して地域の自然や生活に目を向け、自分たちの住む地域に愛着をもつ。(自一ア)
- ・ 柿に寄せる地域の人々の生活の知恵や願いを知ることができる。(自一イ)
- ・ 柿に関心を持ち、その特徴を生かした特産物づくりを工夫し、地域の生活に役立てようとする。(地一ウ)

4 展開

<主な経験活動>

ア 口吉川の柿調べをしよう

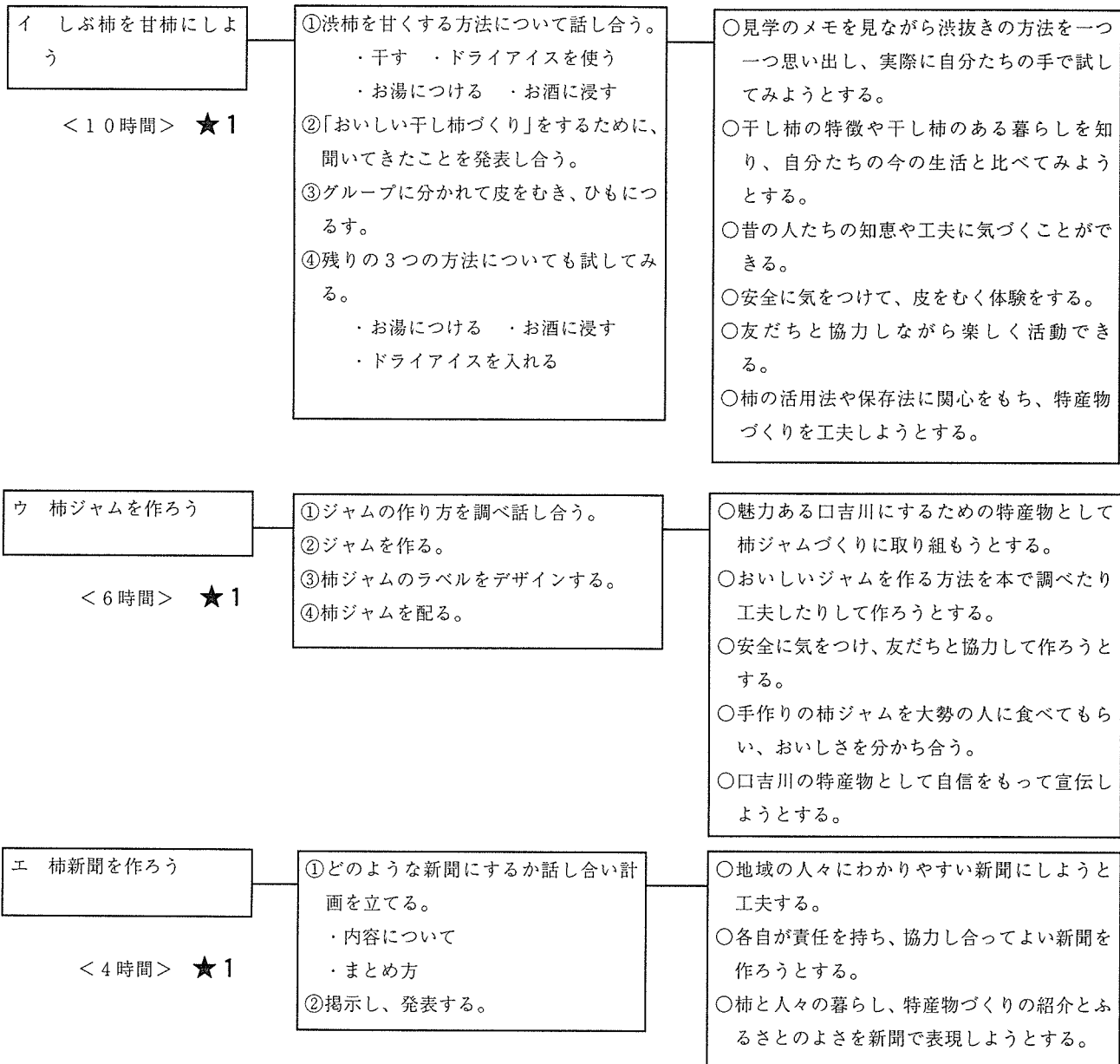
<12時間>

<具体的な経験活動>

- ① 口吉川になっている柿を集める。
- ② 集まった柿の種類や名前を調べる。
- ③ 今までの生活経験を生かして、甘いか渋いかを話し合う。
  - ・ 目で見て(形、色)
  - ・ 切ってみて(ごま、種)
  - ・ 食べてみる
- ④ 渋みや栄養について考える。
- ⑤ 地域の人から柿についてのいろいろな話を聞く。

<具体的な目標>

- 多くの柿がなる口吉川の自然の豊かさに気づき、自然を大切にしようとする。
- 自分たちの地域の柿に興味を持ち、さまざまな方法で名前を調べようとする。
- 柿についてのいろいろな疑問を、自分たちで調べ、解いていこうとする。
- 昔は、柿がいいおやつだったこと、渋柿を工夫して食べていたこと、柿の実の採り方など、柿の木と人々の暮らしが密着していたことを知る。
- 柿に寄せる地域の人々の思いや願いに気づく。



### < 支援上の留意点 >

○地域の人から柿によせる思いや活用の仕方を教えてもらい、それをもとに子どもたちが特産物づくりをしようとするように支援していく。

### 【単元修正の内容とその理由】

★1・・・主な経験活動のイ、ウ、エについては分担したり、同時進行できるものがあり時間短縮ができた。

## 単元名 ふるさとカルタを作ろう

(1月～3月)

### 1 単元設定の趣旨

3年生は、口吉川の町が好きである。自然豊かで実り多い口吉川、楽しい行事もいっぱいあり、これまでの学習を通して、ここに住んでおられる地域の方も愛着をもって暮らしておられることに気づいている。

この単元を設定することで、口吉川の昔に関心をもち、その上で、今の口吉川がどのように発展してきたかを学びとり、また、いろいろな行事、伝統、文化が人々の努力によって引き継がれてきていることにも気づく。そして、あらためて自分たちの郷土のよさや、そこに暮らすすべての人々の存在の大切さに気づくであろう。さらに、地域を支える人々の関わりから、地域を愛し、もっと発展させたいという思いにふれることで、自分も口吉川という地域を誇り、大切にしていこうとする心を培うことができる。

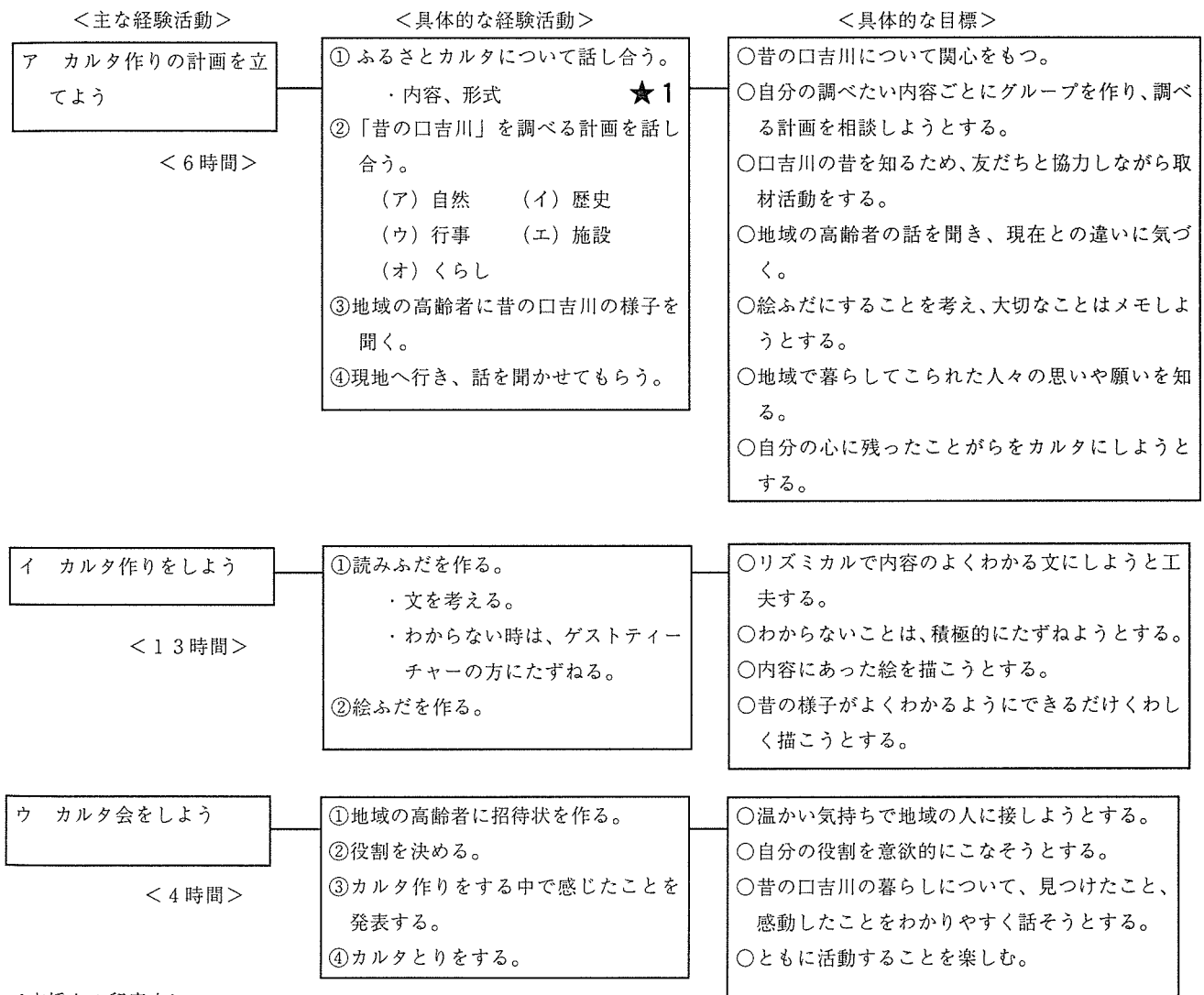
## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア ともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。
- 地 ア 地域の身近な歴史、伝統、文化、生活、産業に関心をもち、自分たちとのつながりを考え、そのよさに気づく。
- 地 イ 地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。
- 自 ア 身近な自然に進んで関わり、自然の大切さに気づく。

## 3 目標

- ・地域の高齢者の方とのふれあいを大切に、昔の口吉川の様子を知る。(人—ア)
- ・カルタ作りを通して地域の歴史、伝統、文化にふれ、それらが今の自分たちの生活に大いに関わっていることに気づき、大切にしていこうとする。(地—ア)
- ・昔の口吉川を調べる中で、地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。(地—イ)
- ・自然の移り変わりや守られてきた口吉川の自然について知り、大切にしようとする心を育てる。(自—ア)

## 4 展開



### <支援上の留意点>

○地域の人々からの聞き取りについては、教師が前もって連絡を取り、お願いしておく。また、絵ふだを作るにあたっては、話だけではイメージがわからないと思うので学級通信などで依頼して昔の様子がわかる写真や資料を借りておく。

### 【単元修正の内容とその理由】

★1・・・子どもたちは、ふるさとカルタを作るとなると、今現在の口吉川のカルタを作ろうとするが、昔の口吉川に視点をおくようにしたい。

## 第4学年

### 単元名 ひょうたん笛で地域に出かけよう

( 4月～9月)

#### 1 単元設定の趣旨

4年生理科でひょうたん観察の学習に取り組み始めたころ、児童の一人が、口吉川地域に、長年ひょうたん栽培、加工を趣味にしている方が住んでいるという情報を持ってきた。その方は多くの賞も受賞されており、ひょうたんを生きがいにされている。地域に目が向いているこの時期に、新たに趣味を通して生きがいを追求している方と出会うことは、これからの児童の成長に、大きな示唆を与えることになる。

この単元は、地域の事柄と関連させながらひょうたん加工に挑み、それを地域に何らかの形で還元できるように考えた。

#### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

成 ア 生きがいを持って生活している身近な人々の活動や願いを知る。

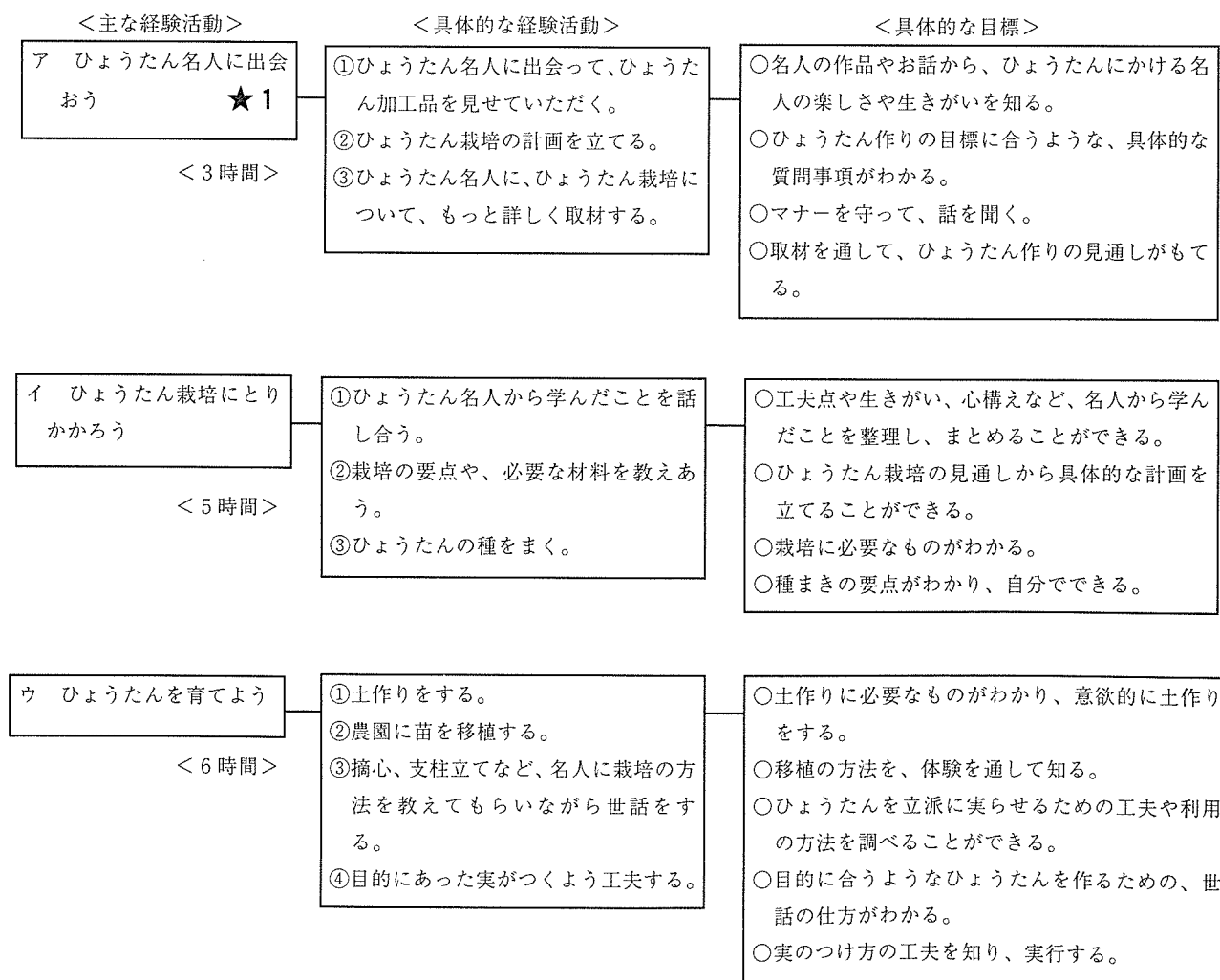
人 ア とともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。

#### 3 目標

・ひょうたん名人との出会いを通して、趣味を生きがいにすることのすばらしさを感じるとともに、目標をもって栽培する楽しさややりがいを体感させる。(成ーア)

・ひょうたん加工を通して地域の高齢者と交流し、多くの人とふれあい、思いやりの心をはぐくむ。(人ーイ)

#### 4 展開





エ ひょうたん笛を作ろう  
★2

< 5時間 >

- ひょうたんを収穫する。
- 水につけ、種取りをする。
- ひょうたん笛を作る。

- 目的に合った大きさのひょうたんを収穫する。
- 臭いがきついが、作業をいとわず、友だち同士協力し、丁寧にやり通す。
- 自分だけでなく、友だちもきれいに種がとれるよう協力して作業を進める。
- 名人の教えを理解し、丁寧に作り上げることができる。

オ ひょうたん笛で、お年寄りと交流しよう

< 5時間 >

- ①ひょうたん笛で地域の高齢者に演奏を聴いてもらうことを計画する。
- ②デイサービスセンターを訪問し、交流する。
- ③交流を通じた学びを発表し、まとめる。

- 作ったひょうたん笛で地域に積極的に出かけようと、意欲をもって計画する。
- 挨拶など、マナーを意識して交流する。
- ひょうたん笛の演奏を楽しく披露するとともに、高齢者と一緒に楽しく交流する。
- 高齢者の喜びや、生きがいを感じ取り、自分にこれからできることについての考えをもつ。

#### < 支援上の留意点 >

- ひょうたんを栽培、加工する過程を通して、ひょうたん名人や高齢者、ボランティアに携わる人々など、地域に住んでおられる様々な人と交流し、地域に目を向けさせていくとともに、生きがいをもって生活することの大切さをひょうたん名人から学ぶことに重点を置く。
- ひょうたんを加工するというだけでなくとらわれず、ひょうたん笛で地域の高齢者と交流することをねらう。
- 演奏を聴いてもらうという具体的な目標を設定し、それに向かって意欲を持続させる。

#### 【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・当初、理科教材から児童の関心を発展させようと思ったが、地域にひょうたん加工を趣味に全国的に活躍している人がいることから、その人に出会って、地域にも目を向けながらひょうたんへの関心を大きくする方向で学びを進めることにした。
- ★2・・・ひょうたんで何を作るかは児童に選択させようと思っていたが、高齢者との交流につなげるために、ひょうたん笛に題材を決めて、全員で1つのものを加工することにした。ただし、ひょうたんはたくさん実るので、その他については児童の興味に合わせ、個々に作品を作らせる。

## 単元名 障害をもった人とともに仲良くなろう

( 10月～12月 )

### 1 単元設定の趣旨

この地域には、デイサービスセンターや小規模授産施設がある。しかし、本学級の児童はこれまで障害をもった人と直接関わった経験が少ない。普段ふれあう機会の少ない方々と接することを通して、積極的に交流する気持ちを育てたい。そして障害者を支えるボランティアの方の生き方も学ばせたい。

本単元では、手話の技術を習得することも大切であるが、根本的に大事なものは、豊かな心と豊かな表現力である。ろうあ者と接することは、本学級の児童の情操教育にも大きな意義をもつ。さらには、ボランティアに携わる人たちの生き方にも触れ、自分も社会に役立つ人になろうという気持ちを芽生えさせることも可能な単元である。

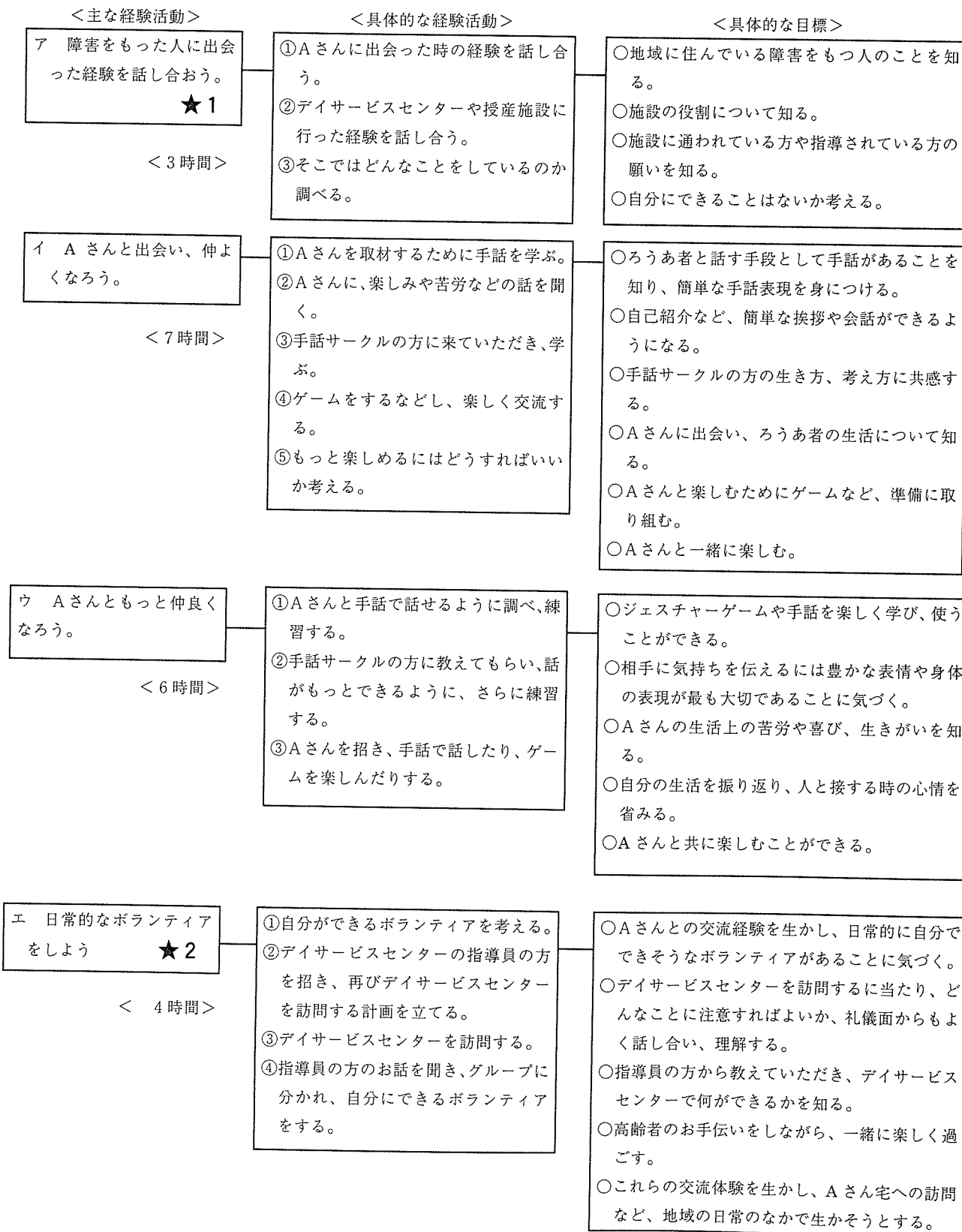
### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 ア 生きがいをもって生活している身近な人々の活動や願いを知る。
- 人 ア とともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、よりよい未来に向かって意欲的に生活しようとする。
- 人 イ 身近な高齢者、年少者、障害者等様々な人が生活しやすいように、身近なところに配慮や工夫があることに気づき、自分にもできる活動を実践しようとする。
- 地 イ 地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。

### 3 目標

- ・障害をもった人が生きがいをもって暮らしていることや、生きがいをもってボランティア活動に取り組んでいる人がいることを知り、人のよりよい生き方について考えさせる。(成ーア)
- ・相手の身になって行動したり、相手に自分の気持ちを伝えたりして表現力を身につける。(人ーア)
- ・社会には身体の不自由な人が気軽に出て行ける環境が整いつつあることに気づき、住みよい街にしていこうという意欲をもたせる。(人ーイ)
- ・ボランティアに自分から関わろうとする心情を芽生えさせる。(人ーイ)

### 4 展開



<支援上の留意点>

- 人同士が心の通い合った交流をするには、視線を合わせることや、自分の気持ちを豊かな表情で表現することがもっとも大切であることを、繰り返し伝え、手話表現のみにとらわれないようにする。
- 手話生活者の日常を知らせ、児童がどんなことに気をつけたら楽しく交流できるか考えさせる。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・ボランティアについて考えるところから導入しようとしたが、児童の関心が高まりにくかった。そこで、実際に障害者と出会った児童の体験を出し合い、どうすれば地域の障害者と、もっと接することができるかを考えさせていくことにした。
- ★2・・・最終小単元ではAさんとの交流会で締めくくろうと思っていたが、Aさんとの交流で芽生えた福祉の心を、今度は地域の日常の中で生かしたいと考えるようになった。そこで、ひょうたん笛で交流したことのあるデイサービスセンターへ再び出かけ、今度は自分たちにできるお手伝いを実践しながら交流させていただくことにした。Aさん宅への訪問は、放課後などを利用し、児童の希望に合わせて少人数で適宜取り組ませたい。

単元名 布のおもちゃを作って出かけよう

( 1月～3月)

1 単元設定の趣旨

児童は2学期に障害者と初めて深く交流する中で障害者を支えるボランティアの方々ともふれあい、生きがいをもってボランティア活動に取り組む姿から多くのことを学んだ。児童の心の中には、自分も地域社会の中で人に役立つ活動をしたいという気持ちが芽生えてきたようである。

そこで、楽しくやりがいをもってできる活動として、布のおもちゃ作りに挑ませたい。布のおもちゃは、目の不自由な人も楽しめるし、幼児の情操教育にも適した題材である。本学級の児童が布のおもちゃを手作りし、それを持って地域の幼稚園や保育所に出かけて幼児を楽しませてやることができれば、地域のためにも役立つことになる。幸い、地域には布のおもちゃ作りをされている方がいる。その方から布のおもちゃ作りを学び、思いや願いを感じることで、児童の将来に、大切な夢を与えることもできるであろう。

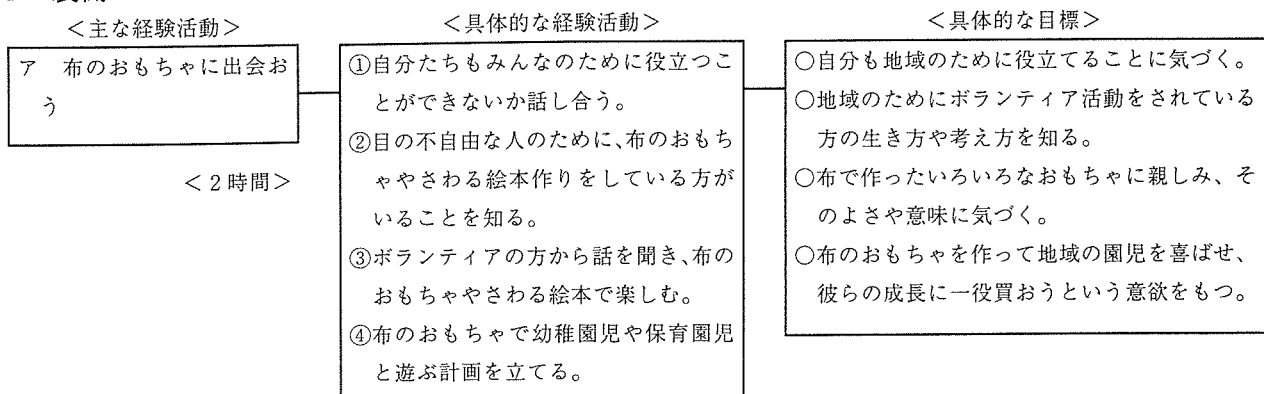
2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 人 ア とともに活動することを通して、すべての人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する。
- 人 イ 身近な高齢者、年少者、障害者等さまざまな人が生活しやすいように、身近なところに配慮や工夫があることに気づき、自分にもできる活動を実践しようとする。
- 地 イ 地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。

3 目標

- ・布のおもちゃを手作りし、地域の年少者と遊び、地域のために役立つ活動を通して、自分たちの住む地域を大切に思う気持ちを培う。(人－ア)
- ・さわる絵本など、身近なものにも年少者や障害者のことを考えた様々な工夫がされていることに気づく。(人－イ)
- ・布のおもちゃ作りのボランティアの方と出会い、ボランティア活動に携わる人の願いを知る。(地－イ)

4 展開



イ 布のおもちゃを作ろう

< 8時間 >

- ①どんな布のおもちゃにすれば、園児が興味をもつか話し合う。
- ②作るおもちゃを決め、グループ作りをする。
- ③ボランティア、保護者と一緒に布のおもちゃを作る。

- 相手の立場に立って、物事を考えられる。
- 貼る、握る、投げる、音が出るなど、布のおもちゃの特性を知り、作る見通しをもつ。
- 目標を決め、友達と共に成し遂げようとする。
- お世話になる方々に敬意をもち、進んで学ぶことができる。

ウ 布のおもちゃを持って、幼稚園・保育園に出かけよう

< 6時間 >

- ①完成した布のおもちゃで遊ぶ工夫をし、練習する。
- ②布のおもちゃを持って幼稚園に出かけ、一緒に遊ぶ。
- ③保育園に出かけ、一緒に遊ぶ。
- ④一緒に遊んで学んだことを出し合い、まとめる。

- 相手の気持ちを考えて言葉かけをしたり、一緒に楽しんだりすることができる。
- 年齢により、手の使い方や動作に違いがあることに気づく。
- 地域のために役立つことに自信をもち、これからもみんなのために動くことに意欲をもつ。

< 支援上の留意点 >

- 児童はまだミシン縫いなどの経験がない。布やフェルトを貼る方法もとり入れて工作的に作るなど、布のおもちゃ作りの世界に出会うことに主眼を置きたい。
- 布のおもちゃ作りでは、どうしても児童の力が及ばないところはボランティアの方、保護者等に手伝ってもらい、児童には手作りの喜びや、これをもとにして地域の幼児に楽しんでもらう期待感を味わわせたい。
- 布のおもちゃで地域の幼児と出会い、一緒に楽しみながら、みんなのために役立つ活動ができた喜びを味わわせるとともに、地域に一層愛着をもたせたい。

## 第5学年

### 単元名 薬草マスター（達人）になろう

（ 4月～7月）

#### 1 単元設定の趣旨

5年生児童は、「地域の薬草」について調べていきたいという願いをもっている。薬草さがし、家庭薬調べ、・・・と予想される本単元の学習活動は、周りを取り巻く豊かな自然、3世代同居家庭が多いという地域の特性を生かすにふさわしいものであり、「薬草図鑑作り」や「薬草の達人さがし」をする中で、調べ学習や藍染めなどの体験活動、地域の人からのアンケートや聞き取り活動を多く取り入れていくことができる。また、日本の薬草（健康観）と外国のものを比べるなど、視野の広い学習を展開できるものである。「薬草」を出発点にしたこの取組は、肥満やアトピー、虚弱などが気になる本学級の児童の実態に深く関わり、自分たちの食生活や生活習慣、環境を見つめ直しながら「自分の健康、家族の健康」につなげていくことができると考える。

#### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 生 ア 自分の命が周りの人々との関わりの中で育まれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命をいつくしむ心をもつ。
- 生 イ 健康増進の仕組みを理解し、自分の生活を見直して、よりよい生活環境を創造しようとする。
- 人 ア 様々な人がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。
- 地 ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活等を守るとともに、よりよい社会を創っていくための方法を考え、実行しようとする。
- 自 ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め、自然を大切にしようとする。

#### 3 目標

- ・薬草にはそれぞれに効用や注意があり、薬草を正しく用いることで、病気やけがを治したり健康な生活を送ったりするのに役立つこと、家族を含めた地域の人たちが健康を強く願って、昔から薬草を上手に利用して生活してきたことがわかる。（生一ア、人一ア）
- ・薬草（家庭薬）と医薬を比べ、薬草の特徴や日本（東洋）と西洋の健康観の違いに気づくとともに、健康増進の仕組みを知り、自分の食生活や生活習慣、環境を見つめ直そうとする。（生一イ）
- ・薬草を通して、地域の人たちや自然とふれあい、自分たちの生活を見つめ直す中で、そこに生活する人々や郷土を誇り、大切にしようとする気持ちをもつことができる。（人一ア、地一ア、自一ア）
- ・いろいろな方法で調べた薬草の効用や利用法などを、協力しながら工夫してまとめ、正確で使いやすい薬草図鑑を作ることで、お世話になった人たちの健康増進に役立てようとする。（地一ウ）

#### 4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア 薬草調べをしよう

< 6時間>

- ①身の回りの薬草に気づき、薬草の調べ方や調べる内容を話し合う。
- ②自分や家族の体で治したい所を意識しながら、どんな薬効のある薬草を調べるかを決める。
- ③グループで協力して薬草調べをする。

- 薬草を利用している人々の暮らしぶりや健康への願いを知り、薬草と病気、健康との関係に関心をもつ。
- 薬草には、それぞれに効用や注意があること、医薬とは大きな違いがあることに気づく。
- 自分や家族の体で治したい部位に着目し、調べたい薬草類を選んだり、友だちと協力して調べたりすることができる。
- 本やインターネットで、自分の調べたい情報を得ることができる。
- 多くの薬草が残っている口吉川の自然の豊かさに気づき、自然を大切にしていこうとする。

イ 地域の薬草マスターを見つけ、教えてもらおう

★1

< 10時間 >

- ①地域の人の薬草に対する思いを知るため、薬草アンケートについて話し合う。
- ②薬草アンケートを作り、地域の人にお願する。
- ③集めたアンケートを紹介し合い、地域での薬草についての意識や利用の様子を考える。
- ④薬酒作り名人のSさんに話を聞き、薬草を使ったお菓子作りを教わる。

- 地域の実態を知り、価値ある活動を展開するために、アンケート収集が効果的であると気づく。
- アンケートから、地域の人たちの薬草利用度や薬草への必要感、薬草利用法をつかむとともに、地域の人に親しみをもつ。
- Sさんの話を聞き、自分自身や家族の命、健康について考えようとする。
- 身近な自然の植物には様々な薬効があり、簡単に利用できることを知って、いろいろな薬草を使ってみようとする。

ウ 薬草を役立てよう

< 14時間 >

- ①自分の求める薬効に合わせて薬茶を調べ、自分たちで作ったり、飲んだりする。
- ②入浴剤として役立つ薬草を集め、加工し、試してみる。(＋課外)
- ③藍染めを使って自分だけのハンカチ作りをする。

- 時期や材料・作り方に留意して、作るお茶を決めることができる。
- 友だちと協力しながら、安全に効率的に材料集め・下準備・お茶作りをしようとする。
- お茶が広く普及している理由を知り、自分たちの健康に合ったお茶作りを工夫しようとする。
- グループで協力して入浴剤を作り、試した結果を伝え合うことができる。
- 藍染めが虫よけなどの効用をもつことを知り、先人の知恵に気づく。
- 薬草が、衣食住全体に関わって健康な生活を支えてきたことを再認識し、自分たちの生活に生かそうとする。

エ 薬草図鑑を作ろう

< 7時間 >

- ①サイズや内容項目など図鑑の形式を相談して決める。
- ②今まで調べたことをグループごとに原稿にまとめ、図鑑を作る。
- ③お世話になった人たちにお礼の手紙を書き、図鑑をプレゼントする。

- 形式や使い勝手など、使う人を意識して考え、よりよい図鑑に仕上げて地域の人々の健康づくりに役立とうとする。
- 薬草が、使い方によって命や健康に大きな影響を与えることをとらえ、利用法や利用上の注意を正しく伝えようとする。
- 校正や表紙作りなど、薬草ごとのグループで協力して仕上げるができる。
- 手紙を書く中で、感謝の気持ちとともに健康への願いを伝えようとする。

< 支援上の留意点 >

- 薬草を飲食用に用いる時は、危険が伴うことを十分に理解させ、誤った採集や調理を防ぐ。
- アンケート収集や聞き取りなどの活動で、地域の人との関わりをできるだけ多くもたせるとともに、地域の人々の協力や優しさに気づかせるよう言葉を掛けていく。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・当初、主な経験活動を「イ 薬草アンケートをとろう」「ウ 薬草を役立てよう」「エ 薬草図鑑を作ろう」としていたが、児童のアンケート活用の意欲づけや薬草マスターとの密な関わり、生き方に学ぶ学習への深まりを考慮し、イの主な経験活動として「地域の薬草マスターを見つけ、教えてもらおう」と修正した。

単元名 子ども版「どこが危ないのマップ」を提案しよう

(1月～2月)

1 単元設定の趣旨

5年生のこの時期は、最高学年としての生活を意識しながら、しなければならないこと、しておくほうがよいことを考えさせ、

個々が実践に向けて努力・活動することをねらうに適した時期と言える。また、子どもたちも、幼稚園児から5年生までの異年齢児童をまとめ、安全に登校させることに対するやりがい、自分の新しい力の発現への期待をもっている。今回完成させるマップの形や活動内容は、今の自分たちの考えをもとにし、地域を見つめ、地域の人との関わりを多くもつこと、学校全体に思いを寄せながら下級生に関わることなどのねらいの他に、自分を見つめ直したり、これからの自分をより高めていこうとしたりするねらいを達成できる単元となるだろう。

## 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 イ 成長の足跡をふりかえり、これからの自分の生き方について考え、自己をより高めていこうとする。
- 人 イ 日々の生活は人々の支えや助けによって成り立っていることに気づき、共生社会を実現するために自分にもできる活動を進んで実践しようとする。
- 地 イ 地域を支える人々の働きや活動の様子を知り、地域社会の現状や問題点を理解する。
- 地 ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活等を守るとともに、よりよい社会を創っていくための方法を考え、実行しようとする。

## 3 目標

- ・「どこが危ないのマップ」作りを通して、全園児・全校生がより安全で楽しい生活を創造するための方法を考え、進んで実行しようとする。(成一イ、地一イ)
- ・地域の人や先輩と関わりながら、地域の危険箇所を探したり、過去の事故などを調べたりしていく中で、多くの人たちが自分たちの安全な生活を支えてくれていることに気づき、安全な地域づくりのために自分たちにできることをめざそうとする。(人一イ、地一イ、ウ)

## 4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>

ア「どこが危ないのマップ」  
をわたしたちの目で見  
直そう

< 4時間>

- ①「どこが危ないのマップ」について、話し合う。
- ②PTAや地域の人に話を聞きに行く。  
(+課外)
- ③現場を見、確かめる。(課外)

- 最高学年になるという自覚をもち、登校班や地域の生活の安全を守るため力を合わせようとする。
- 資料や聞き取りから、地域の危険箇所や登校の問題点をつかむことができる。
- 地域の人からアドバイスを得る中で、自分たちの生活が地域の人々に守られていることに気づき、感謝の気持ちをもつ。

イ 子ども版マップを作っ  
て、提案しよう

< 4時間>

- ①自分たちの意見をマップにまとめる。
- ②PTA版マップに載せてもらうために、何を、どう伝えるか相談する。  
**★1**
- ③PTAへ提案する。

- 分かりやすさ、正確さなど、見る人を意識して、よりよいマップを作ろうとする。
- 今までに見つけ、考えたことをPTA版マップに記載してもらうために、特に大切なことをまとめ、その伝え方を考えることができる。
- 子ども代表という意識をもって、堂々と意見を言うとともに、大人の見解に自分の生活・態度を重ね合わせて聞き、安全に対する広い視野をもつことができる。

ウ「とび出しぼうや」を作  
って、地域で使ってもら  
おう

< 5時間>  
<図工4時間>

- ①これから自分たちにできることを話  
し合う。
- ②協力して、「とび出しぼうや」の看板  
を作る。
- ③「とび出しぼうや」を設置し、全校生  
に伝える。  
(+課外)

- 他学年に伝えたり、一緒に話し合ったりして、  
地域の安全を守るために自分たちにできること  
を考えようとする。
- 看板作りや設置を、楽しく協力しながらやり遂  
げる中で、標識には、危険回避のための工夫が  
凝らされていることに気づく。
- 大人と一緒に取り組んだことへの充実感をも  
ち、できあがるマップや看板を大切に思い、み  
んなで地域の安全を守ろうとする気持ちをも  
つ。

<支援上の留意点>

- 地域での聞き取りや危険箇所探しなど、自分たちで地域を移動する時には、特に交通や犯罪に気をつける自覚をもって活動さ  
せるとともに、教師の同行はもちろん、家庭にも協力を依頼し、安全な活動が確保できるようにする。
- 主な経験活動「イ 子ども版マップを作って、提案しよう」については、PTA版「どこが危ないのマップ」改定の時期に留  
意して活動計画を立てることが必要となるため、教師があらかじめ的確な情報をつかんでおく。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・「イ 子ども版マップを作って・・・」内の具体的経験活動②③は、当初、全校生、園児への提案を計画していたが、提  
案の対象をPTAにし、地域内全戸配布の「PTA版マップ」改定に働きかける活動へと修正することで、マップ作り  
に対する児童の意識高揚を図れると考えた。また、本単元全体の活動をダイナミックなものにすることができた。



## 第6学年

### 単元名 口吉川の環境マップを作ろう

(4月～7月)

#### 1 単元設定の趣旨

本年度は、栽培活動から自分たちの地域の環境について目が向き、「守ろう自分たちの町を」とテーマを置き、口吉川の自然の変化・口吉川の環境・福祉・特産物などを調べてみたいという思いが出てきた。それは、すばらしい自然環境の中で育ってきた6年生が、地元的环境について考えられるようになってきたためである。毎日の登下校中で気づいたゴミの多さから、自然がなくなりつつあるのではないかと、自分たちの町の自然を守らないといけないのではないかと、という思いや環境に対する関心が芽生えてきたためである。この時期、身近な自然に対する理解を深め、愛着を育て、自分でできる方法で、環境の保全に努めようとする態度を育てるのによりよい機会である。

そのため、口吉川の環境マップを作ることで、地域の環境問題が見えてくるとともに社会の環境問題について考えることができる。また、活動中に人との関わりがもてることから、日々の生活は、人々の支えや助けによって成り立っていることに気づき、自らよりよい環境の創造をめざし、主体的に実践しようとするのによりよい単元である。

#### 2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 ア 自分たちの生活との関わりから、生きがいをもって生活している人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える
- 地 イ 地域を支える人々の働きや活動の様子を知り、地域社会の現状や問題点を理解する。
- 地 ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活等を守るとともに、よりよい社会を創っていくための方法を考え、実行しようとする。
- 自 ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め、自然を大切にしようとする。
- 自 イ 自然と自分たちの生活との関わりについて理解を深め、人と自然との共存を図る取組について考え、よりよい環境の創造をめざして主体的に実践しようとする。

#### 3 目標

- ・口吉川的环境について、考えておられる地域の方々の生き方に学ぶことができる。(成一ア)
- ・自分たちでゴミを集める活動をすることで、地域社会の現状や問題点を理解し、自分にもできることを進んで実施しようとする。(地一イ・ウ)
- ・口吉川の自然に感謝し、地域の一員として、自然を大切にする自覚を高めることができる。(自一ア)
- ・口吉川的环境問題について自分の考えをもち、よりよい環境作りをめざして実践しようとする態度を育てることができる。(自一イ)

#### 4 展開

<主な経験活動>

ア 捨てられている地域のゴミを集めよう

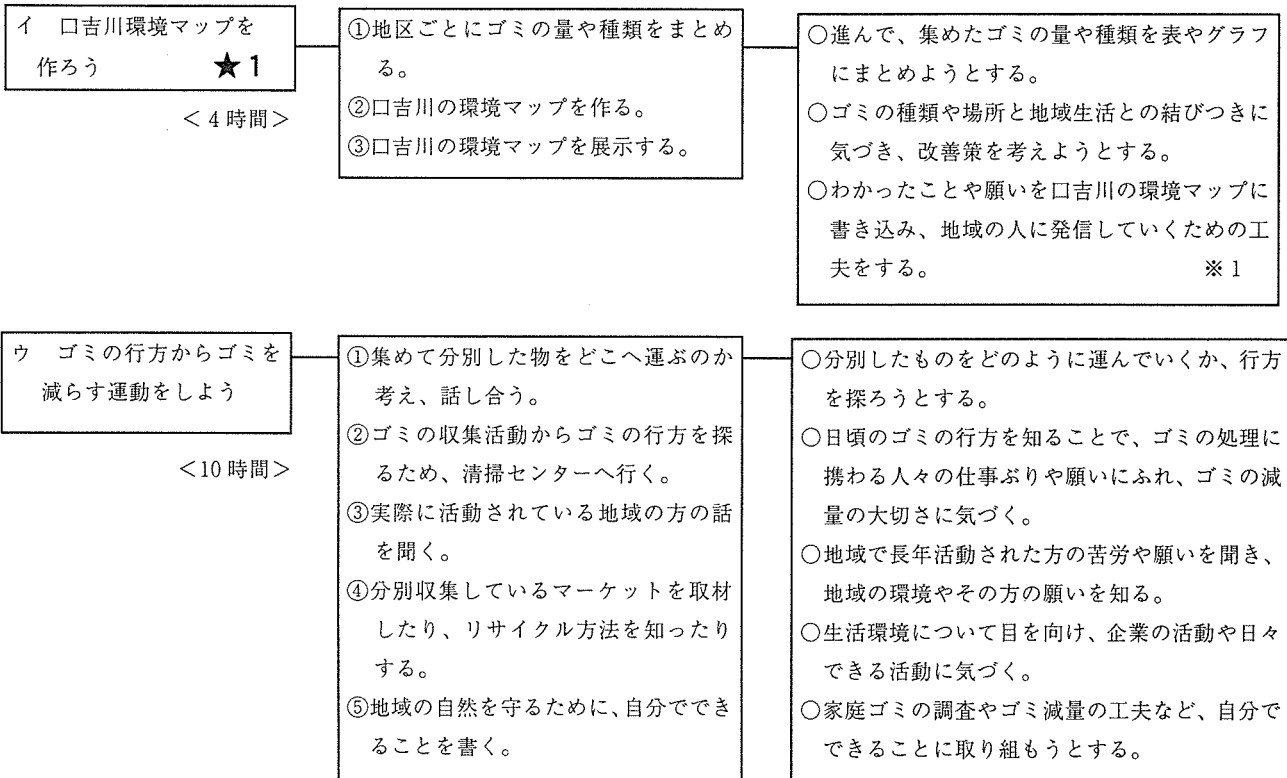
<10時間>

<具体的な経験活動>

- ①ゴミを中心とした活動の進め方を考え、話し合う。
- ②ゴミをどのように集めればよいか方法を考え、意見を出し合って決める。
- ③地区ごとにゴミを集め、ゴミ収集活動をする。(5月と6月)

<具体的な目標>

- 環境問題の中のゴミを通して、どんな活動ができるか、活動の広がりや進め方を考え、計画を立てようとする。
- ゴミを集める方法を考え、ゴミ収集が実行できる活動に取り組む。(地図・役割・方法・活動日時)
- 地区ごとにゴミ収集活動をする中で、ゴミの量や種類から、問題点に気づく。



<4時間>

<10時間>

<支援上の留意点>

○ゴミを通して、人と自然の関係から環境問題を考え、自然と自分たちの生活との関わりについて理解を深め、よりよい環境の創造をめざす。そして、日々の生活の中で、自分はどんなことができるか実践する学習へと深めていく。

【単元修正の内容とその理由】

★1・・・環境問題を考えていく場合、「自然を大切にできる自分になろう」と決め、自分はどのようにしていくのかと実践につながる活動を考えたが、解決が困難なため、「口吉川の環境マップを作ろう」に変えた方が具体性のある活動としてよくわかる。それに、具体性のある活動をすることによって、課題解決が、自分にも相手にもわかる。地域への発信としてもよくわかり、意図が通じ、子どもの学びも深められるのではないかと考える。

単元名 オリジナルな修学旅行を創り出そう

(9月～12月)

1 単元設定の趣旨

6年間の中で、1泊2日の旅行として修学旅行がある。児童は、これまで地域を見つめることを通して、口吉川のよさにふれてきている。この修学旅行で、口吉川以外の地域の伝統文化などにふれ、口吉川地域と比較する活動を通して、奈良や京都の伝統文化やよさを知り、あらためて自分たちの地域を見直すことができるとともに、人とのふれあいの場でもある。それが、自己成長を見つめる機会となる。

そこで、感動を味わうことのできる計画や学びを、友だちの協力のもとで作上げ、体験する。そして、実践したことから、報告を在校生や親に発表する活動を通して、相手を意識したまとめ方や書き方の工夫など、自ら課題に向けて学習していく方法を学んでいき、その経験が今後の活動に生かしていけると考える。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 ア 自分たちの生活との関わりから、生きがいをもって生活している人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える。
- 人 ア 様々な人がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。
- 地 ア 地域の歴史・伝統・文化・生活・産業などの特色に気づき、郷土を愛する心を育てる。

### 3 目標

- ・生きがいをもって生活されている人々の様子にふれ、よりよい生き方に学ぶことができる。(成一ア)
- ・様々な地域で、それぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接することができる。(人一ア)
- ・奈良や京都の歴史・伝統・文化・生活・産業などにふれ、自分たちの地域と比べることで、郷土のよさに気づくことができる。(地一ア)

### 4 展開

<主な経験活動>	<具体的な経験活動>	<具体的な目標>
<p>ア 修学旅行のオリジナルコースを作ろう</p> <p>&lt;14時間&gt;</p>	<p>①奈良や京都で行ってみたい所を調べる。</p> <p>②各自の考えを出し合い、体験したいことを決める。</p> <p>③体験コースを3つの班に分かれて、協力して作る。</p>	<p>○思い出に残る修学旅行にするために、行ってみたい所を考えようとする。</p> <p>○コースを作るときに必要な条件を理解し、協力して決めていく。</p> <p>○体験コースとして実行できるか、詳しい人に相談し、各班で作り上げる。</p>
<p>イ 修学旅行で歴史・人・ことの出会いをしよう</p> <p>特活&lt;16時間&gt;</p>	<p>①自分たちの作った体験コースに従い、行動する。</p> <p>②伝統文化に携わる人の生き方を聞く。</p> <p>③グループごとに、和菓子作り・やきもの・西陣織の3つに分かれ、体験する。</p> <p>④歴史上の建物にふれ、鑑賞する。</p>	<p>○計画した体験コースが、実際の場で生かされるよう、勇気をもって人に聞くこと・見たりすることの大切さに気づく。</p> <p>○奈良・京都での体験学習をする中で、口吉川のよさにも気づく。</p> <p>○体験を通して、生き方や伝統の技に気づく。</p> <p>○その時代の建物から、歴史にふれようとする。</p>
<p>ウ 修学旅行体験記を作ろう</p> <p>&lt;2時間&gt;</p> <p>国語&lt;2時間&gt;</p>	<p>①旅行の目的にあった体験を書く。</p> <p>②心に残った思い出を友だちと語り合う。</p>	<p>○人との出会いの体験記を書くことで、自分の成長と未熟さに気づく。</p> <p>○体験コース作りを通して、驚き・喜び・気づきなど心に残ったことをまとめ、産業や人のつながりに気づく。</p>
<p>エ 旅行会社の方にガイドマップを見ていただく</p> <p>&lt;4時間&gt;</p>	<p>①実践して経験したことを、体験コースに工夫してまとめる。</p> <p>②旅行会社の人に、作ったガイドマップを見てもらい、書き方や工夫の仕方を知る。</p> <p>③もう一度、教えてもらったことを生かして、ガイドマップを作る。</p> <p>④5年生にガイドマップの報告会をする。 ★1</p>	<p>○相手に使ってもらえるガイドマップを作るための工夫をしようとする。</p> <p>○旅行会社の人から、ガイドマップの書き方の工夫や苦労話を聞き、自分のマップに生かそうとする。</p> <p>○ゲストティーチャーの方の生き方を聞く中で、自分の生活をふりかえろうとする。</p> <p>○助言や評価を生かし、5年生に喜んでもらえるガイドマップを作ろうとする。 ※1</p>
<p>オ 修学旅行の報告会をしよう</p> <p>&lt;10時間&gt;</p>	<p>①感動したことを伝える報告会にするために話し合う。</p> <p>②発表に必要な小道具を協力して作る。</p> <p>③体験したことを、3つのコースに分かれ、全校生に発表する。</p>	<p>○見聞したこと・体験したことをわかりやすく伝える報告会にするために話し合おうとする。</p> <p>○報告会をするための小道具を意欲的に作ろうとする。</p> <p>○人とのふれあいから学んだことを、相手に応じた方法で伝えようとする。</p>

<支援上の留意点>

- まず、各自が行きたい場所を考え、グループごとに意見をまとめ、互いに協力し合い思い出作りをする。そのための支援が必要である。
- 一人一人が意欲的に、計画から実践、そして経験したことの学びをまとめ上げられる。そのため、在校生に伝えていく工夫やガイドマップ作りを通して、相手を意識したものに創り上げるようにする。
- 旅行会社の人からガイドマップ作りの評価をもらい、今後の学びにつなげていくとともに、その人の生き方にふれ、自分の将来の夢について考えを深めさせていく。
- 人との出会いを大切に、感謝の気持ちを表現しようとする心を育てる。

【単元修正の内容とその理由】

- ★1・・・在校生（1年から5年）への報告会だけでなく、来年修学旅行を経験する5年生へのアドバイスとなるガイドマップ作りを加えた。ガイドマップ作りを何回もすることで、相手に伝えるための工夫が学べ、よりよいものに仕上がっていく。これからの相手に伝えるもの作りに生かせると考えた。

単元名 夢トライやるに挑戦しよう

(1月～3月)

1 単元設定の趣旨

口吉川は、自然のすばらしい所であり、野菜・米・酒米を作るのに適した土地で、田畑や山に囲まれ、水や空気のきれいな所である。このすばらしい環境のよさを知り、大切にしたいと考えている。そんな6年生が、地域の中で、人のためにどんなことができるかを考えようとしている。そのことから、自分自身の進んでいく将来の夢や希望に向かって見つめてみてはどうかと思う。特に、小学校生活最後の時期、改めて今までの自分をふりかえり、これからの生き方を考えてみることは、大変意義あることである。そのため、人の生き方を見たり聞いたりして、将来のことをじっくり考えさせたい。

そのために、地域の中だけでなく、地域外の広い範囲で、将来のために働いておられる様子や苦勞話等、自ら聞いてみたいことを探してみる。そして、本やインターネットで調べたり、生きがいをもって生活されている方に出会い、話を聞いたりして、その人の生き方に学び、自分の夢を追究する。さらに、オリジナルな自分の夢や希望を盛り込んだ卒業論文としてまとめてみる。

このような活動を通して、子どもたち一人一人が、現在の自分を知り、新たな自分の生き方を更新することへとつながっていくと考える。さらに、その取組を達成することで、自分に自信をもち、将来の夢の実現に向かって気持ちを高められると考える。

2 みなぎのコース内容系列表の該当項目

- 成 ア 自分たちの生活との関わりから、生きがいをもって生活している人々の姿にふれ、人としてのよりよい生き方について考える。
- 成 イ 成長の足跡をふりかえり、これからの自分の生き方について考え、自己をより高めていこうとする。
- 人 ア 様々な人がそれぞれに生きがいをもって生きようとしていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。

3 目標

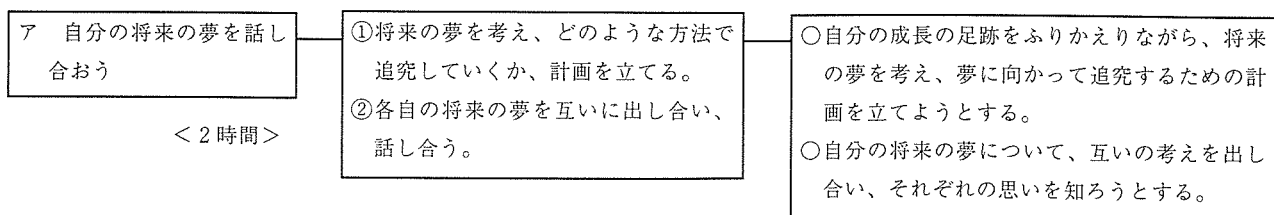
- ・生きがいをもって生活されている人々への取材や、本やインターネット等で調べたことを、これからの自分の生き方に生かすことができる。(成—ア)
- ・自分の成長の足跡をふりかえり、現在の思いをまとめ上げることで、自分に自信をもち、将来の夢に向かって気持ちを高めていくことができる。(成—イ)
- ・人それぞれに、自分の仕事に生きがいをもって生活しておられることを知ることができる。(人—ア)

4 展開

<主な経験活動>

<具体的な経験活動>

<具体的な目標>



イ 生きがいをもって生活  
されている方に出会い、  
話を聞こう

< 5 時間 >

- ①自分がめざす人のことを調べる。
- ②〇〇の職業についての取材内容をま  
とめる。
- ③交渉し、取材する。

- 様々な方法で、めざす人や就きたい仕事の情  
報を集めようとする。
- 人との出会いを大切に、感謝とマナーを忘  
れず、接しようとする。
- 時間等も考えながら、自分が学びたいことを  
まとめ、的確な取材をしようとする。

ウ オリジナルな卒業論文  
を完成しよう

< 2 時間 >

< 国語 2 時間 >

- ①人々の姿から、学んだこと・感じた  
ことをもとに、自分の夢や希望を卒  
業論文としてまとめる。
- ②互いに読み合い、学んだことを語り  
合う。

- 多くの人々の支えや励ましがあって、今日の  
その人の姿があることに気づく。
- 友だちの学びや希望を知り、互いに支え合い  
ながら、自己をより高めていく決意をする。

#### < 支援上の留意点 >

- 子どもによって、将来の夢を探るのに時間がかかる場合が出てきた時、その子への支援が必要である。
- 子どもたちに出会わせたい人は、子どもの力だけでは、交渉が無理な場合も多いと考えられる。よい出会いができるように、教師が前もって連絡を取っておく。
- 小学校卒業を目の前に、中学校の進級意欲が高まる時期である。成就感と希望をもち、卒業式に臨めるよう、細かい支援を工夫していく。

## 7 子どもの活動の連携

幼小連携のねらいは日常生活における日常的な交流活動の中で人間関係を作り、強める活動であることはいうまでもない。本校園では、このことを念頭に置き、日常生活の中での交流がほとんどない子どもたちに、日常生活での交わりを実現させる。特に今年度は、意図的な交流の場を設定することで、幼稚園児と小学生が相互理解をし、お互いの距離が近くなることによって、新たな人間関係が生まれることを考えていった。

### (1) なかよし班活動の実際

月 日	場 所 等	主 な 内 容
5月 1日	体育館	<u>なかよし班結団式</u> 全校生・全園児が集う。 式後、各班に別れ自己紹介、班の名前を決める。
8日	各教室	<u>各班での話し合い</u> 6年生をリーダーに遊びの計画、班目標を決める
15日	各教室、校庭	<u>各班での遊び</u> いす取りゲーム、絵本の読み聞かせなどを楽しむ。
20日	校庭	<u>ひつじの毛刈り見学</u> 一昨年、小学校で飼育していた羊を、今、飼っていただいている方に連れて来ていただき、羊の毛刈りを見学する。
29日 6月 5日	体育館	<u>運動会の種目の計画</u> みなぎの音頭の練習やなかよし班の演技を話し合う。
12日	校庭	<u>運動会練習</u> なかよし班演技に必要なものを準備する。
19日	各教室	<u>運動会の反省</u> 次回の遊びの計画を立てる。
26日 7月 3日	校庭・園庭	<u>各班での遊び</u> ドッジボール、裏山探検、始めの第一歩などを楽しむ。
10日	体育館	<u>外国の方との交流</u> 簡単な会話や手遊び・ゲームをして楽しむ。
17日	各教室	<u>1学期の反省</u> 反省と絵本の読み聞かせをする。
9月 4日	各教室	<u>2学期の計画</u>
11日 18日 25日	各教室	<u>全校合宿の計画</u>
10月 2日 9日		<u>全校合宿の反省会並びにビデオ鑑賞</u>
16日～ 12月11日	校庭・裏山・園庭	<u>各班での遊び</u> 鬼ごっこ、サバイバル、長縄跳び裏山探検などを楽しむ。
18日	各教室	<u>2学期の反省</u> サンタの折り紙を折ってみんなで装飾を作り楽しむ。
1月15日	各教室	<u>班での遊び</u> いろはかるたや百人一首のかるた取りをする。
22日 29日	教室・校庭	<u>ミニ運動会と計画</u>
2月 5日	校庭	<u>節分</u>
12日		<u>各班での遊び</u>
19日26日		<u>記念品づくり</u>
3月 5日		<u>6年生を送る会</u>

## (2) 合同授業(保育)の実際

日時	対象学年	主な内容
5月2日 ～8日 (2時間)	幼・1・2年生	<u>こいのぼり製作</u> 6班に別れ、2年生をリーダーとして班毎に工夫して材料から持ち寄り、2m位の作品に仕上げる。
8日 (1時間)	幼・1・2年生	こどもの日お祝い会 こいのぼりを囲んで、歌を歌ったり、ゲームを楽しむ。
5月20日 (1時間)	幼・1・2年生	<u>幼小合同遠足の話し合い</u> リーダーを選出し、見学の話し合う。
23日 (6時間)	幼・1・2年生	<u>幼小合同遠足</u> 宝塚ファミリーランドへ行く。
29日～ 6月14日 (8時間)	幼・1・2年生	<u>運動会に向けて練習</u> 合同で遠足の経験を表現遊びにまとめる。
15日	幼稚園・小学校	<u>幼小合同運動会</u>
12月16日 ～17日 (6時間)	幼・1年生	<u>さよなら秋パーティー</u> 9班に別れ、それぞれがどんぐりや木の実などの自然物を使って、アクセサリやゲームの作品を作る。
18日 ～19日 (2時間)	幼・1年生	<u>さよなら秋パーティー</u> 作品を使って、お店ごっこやゲームをする。また、秋野菜を使って鍋料理をして会食する。

## (3) その他の交流活動の実際

日時	対象学年等	主な内容
7月17日 (1時間)	幼・2年生	<u>あいがもと遊ぶ</u> 2年生が飼育している合鴨に、園児が触れて遊ぶ。また、2年生は合鴨について餌のやり方などを教え、幼稚園児は質問するなどの交流をする。
9月18日 (1時間)	幼・1年生 にこにこ学級	<u>お月見会</u> 園児がお月見団子を作り、1年生やにこにこ学級のお友達を招待し、会食をする。
20日	幼・1年生	<u>給食交流会</u> 園児が1年生の教室に行き、給食を一緒に食べる。
10月7日 (1時間)	幼・2年生	<u>秋ランドづくり</u> 2年生の活動を聞き、園児が集めた木の実などを届ける。
15日 24日 (1時間)	幼・1年生・2年生	<u>秋ランドを楽しむ</u> 2年生の秋ランドへ園児や1年生を招待し、ゲームなどを楽しんでもらう。手づくりの小物をプレゼントする。
10月30日 (1時間)	幼・1年生	<u>鬼ごっこ</u> なかよし班で遊んだ経験から、泥警を楽しむ。遊んだ後分かち合いをし、約束事を作るなど次回に期待を持つ。
11月13日 (1時間)	幼・1年生	<u>コーラス観賞</u> 地域のコーラスサークルの方の歌を聞く。一緒に歌う。
27日 (1時間)	幼・1年生	<u>鬼ごっこ・給食交流</u> 2回目の泥警を楽しむ。遊んだ後楽しかったこと、困ったことを話し合う。昼食を一緒に食べる。
28日	幼・6年生	<u>給食交流</u> 6年生の教室で一緒に会食をする。
12月2日 13日 (2時間)	幼・1年生・2年生 全校生・保護者	<u>あいがもランドを楽しむ</u> 2年生が園児と全校生を招待し楽しむ。保護者も参加。

10日 (2時間)	幼・1年生 にこにこ学級	幼稚園生活発表会 1年生・にこにこ学級と一緒に参加。1年生は歌や合奏、にこにこ学級はペープサートやキーボードの演奏をし、共に楽しむ。
--------------	-----------------	---

なお、5月から、障害児学級（にこにこ学級）児と園児との交流を定時に行っている。それは、毎週金曜日の1時間目の20分程度、戸外での遊びを中心に一緒に楽しんでいる。以下、その取組を述べる。

【実践事例】 幼稚園での「好きなあそびの時間」における交流

本校の障害児学級には、2年生の男児1名が在籍している。

昨年度の交流において、本児は、幼稚園の遊具に親しみを持ち、ブランコやデルタスクーターなどに自分から挑戦しようとする姿が見られ遊具に対する恐怖心が少なくなり、園児たちの遊ぶ姿から興味や関心を広げていくことができた。しかし、一人遊びや教師との遊びが中心で集団遊びや個人同士の対等な遊びにまでは至らなかった。本年度の交流においては、保育園で2年間をともに過ごした仲間でもあるということ、本児にとっても園児たちにとってもスムーズに関わりをもつことができた。それは、園児との「縄跳び遊び」や「じゃんけん遊び」、「かくれんぼ」「なかあて（ボール遊び）」などの遊びの中で見られた。「縄跳び遊び」では、縄をスムーズに回すことができない本児に対して、「いっしょに、とほか。」と2人跳びをする姿が見られたり、「かくれんぼ」や「なかあて」においては、「こっちやで。」「いっしょにかくれよか。」などと誘ったりする姿が自然に見られた。そして、本児も幼稚園での交流を心待ちにするようになっていく。

これらの「好きなあそびの時間」の中で本児の体力の向上も少しずつ図られている。それは、デルタスクーターから、スクーターへとステップアップできたことや、雲梯にぶら下がるができなかった本児が足を震わせながらも何度もチャレンジし、今では、誇らしげにぶらさがることができるようになったことなどプラス面が多く見られる。また、これと同じ時期に、築山にも自力でスムーズに登ることができるようになっていった。

ようちえんのせんせいへ  
 ○○せんせい、○○せんせい、  
 二十二日は、ようちえんへ  
 いかれへんかった。  
 ぼくは、いややった。  
 こんどの二十九日、金よう日やから  
 ようちえんへいく。  
 それで、あそぶ。  
 スクーターであそぶ。  
 山へのぼってから、  
 スクーターでおりてくる。  
 うんていとかなわとびもする。  
 ○○ちゃんや○○ちゃんや  
 ○○ちゃんとなわとびがしたい。

【考察】

これらの成長があったのは、交流によって園児の遊ぶ姿に触発された本児が、その遊びや遊具に興味や関心を抱き、自分もやってみたいという気持ちになれたからだと思う。幼稚園の遊具という「もの」や、園児という「ひと」に触れたことで本児の遊びの世界が広がり、コミュニケーションや体力面での力をも伸ばしてくれた交流であったと思う。また、本児との自然な関わりの中で、そのがんばりを認めたり日常動作などを手伝ったりする姿が見られるなど、園児にとってもこれらの交流活動を通してともに歩んでいこうとする姿勢が育まれつつあるのではないかと考える。



## 8 教師の連携

### (1) 組織として

幼稚園教諭と小学校教諭の連携を充実させるための組織として、幼稚園と小学校1・2年グループの低学年部会と3年以上の高学年部会に分かれ、課題別の話し合いをするため月1回の研修をもった。また、みなぎのコースの内容や単元開発及び修正に関しては、幼稚園と1・2年の低学年グループと3・4年の中学年グループ、及び5・6年の高学年グループに分かれて話し合いを実施した。

日々の実践や児童の様子とその日の予定を共有するため、毎朝、幼稚園と共に職員打ち合わせを行い、研究推進委員会では、幼稚園職員2名と小学校職員4名で毎週金曜日に定例化し、研究内容と課題などについての話し合いをもった。

### (2) 連携を深めるために

幼稚園の保育の実際と小学校の教育の実際を互いに見学する期間を設ける。この見学や観察を通してより具体的な話し合いが展開できた。

#### 「幼稚園の見学」

- ・ 保育の1日の流れ・・・・・・・・保育の時間、園児の活動の流れなど
- ・ 園児の様子・・・・・・・・園児の動きや学びの実際
- ・ 保育の目標と環境構成・・・・・・・・幼稚園教育要領との関係、環境構成の意味
- ・ 保育の目標と教師の働きかけ・・園児に対する教師の言葉かけとその反応

#### 「小学校の見学」

- ・ 小学校の1日の流れ・・・・・・・・授業時間と休み時間、給食・掃除など学校生活の様子
- ・ 児童の様子・・・・・・・・児童会などの働き、学習の実際
- ・ 学習の目標と教室環境・・・・・・・・教科の目標や単元の目標と環境や準備の内容
- ・ 授業の実際と教師の働きかけ・・学習集団や個人への教師の働きかけと反応

これらの交流を通して、園児や児童の姿を思い浮かべることができ、合同研修やみなぎのコースでの内容系列の判断がしやすくなった。

### (3) 研修の実際

研究経過に記載

## IV 研究開発実施の効果

### 1 教育課程の評価

今年度は、昨年度からの課題になっていた「みなぎのコース」の内容系列表の作成に取り組んだ。内容系列表の作成により、7年間で育てていこうとする子どもの姿が明確になり、自己成長力を強めるための保育・単元構想ができるようになった。幼児の遊びを通しての学びや児童の学習過程を互いに見つめて、保育や単元のあり方、子どもの育ちについて話し合えた。

「みなぎのコース」の内容系列表に表された6領域、さらに「教科に発展していく内容」の4領域をもとにして、保育や単元の構想を考え、そのあり方を振り返ってきた。自己成長力を強めるために必要な6領域を意識した保育・単元開発は、子どもたちがふれる内容の偏りを少なくしていった。さらに、「教科に発展していく内容」の作成は、小学校とのつながりを考えた7年間にわたる教育課程の基礎を保育内容の中で実践することにつながっていった。内容・目標が明確化することで保育・授業のねらいが明らかになり、子どもたちの育ちを見る視点がより細かな部分にまで行き届くようになってきた。

「みなぎのコース」を実施する時間として、低学年において「みなぎのコース」に他教科や領域の時間数を含めた教育課程の編成を行ってきたが、必ずしも十分な効果をあげることができなかった。それは、「みなぎのコース」における内容項目を設定し、実践していく過程において、音楽科・図工科の内容が十分にはカバーしきれない状況にあることがわかったためである。カバーしきれない内容は、音楽科・図工科の時間を設け実施する必要があるが出てきた。そこで、次年度については、他教科・領域については、現行の学習指導要領の時間数に揃えることとした。

### 2 実践の効果

今年度（2年次）は、「みなぎのコース」と名称を改めたり、スコープ表をもとにした単元づくりをしたり、なかよし班活動を充実させるなど、子どもたちがより主体的に学び、豊かな人間関係をつくることをねらって、実践してきた。その効果として、児童・保護者を対象としたアンケートに次のような声が寄せられた。

<児童のアンケートより>

設問1 「みなぎのコース」を学習することによって、その後の学習活動にどんな変化があったと思いますか。

\* 3年～6年対象

- |                                  |                             |
|----------------------------------|-----------------------------|
| ・他の教科の学習も楽しくなってきた。               | ・家の人や地域の人から話を聞くことが多くなってきた。  |
| ・根気強く探求するようになった。                 | ・図書室などへ行って進んで調べられるようになってきた。 |
| ・進んで質問したり、発表したりするようになってきた。       | ・自分に自信がもてるようになってきた。         |
| ・地域の行事に進んで参加するようになってきた。          | ・資料を活用したり、調査したりするようになってきた。  |
| ・グループで集まって学習することが多くなってきた。        | ・問題を見つける力がついてきた。            |
| ・図書館や公民館や市役所など公共施設を活用するようになってきた。 |                             |
| ・やったらいいと思ったことは自発的にやれるようになった。     |                             |

設問2 「なかよし班活動」を通してどんな力がついてきたと思いますか。

\* 4～6年生対象

- ・みんなをまとめることができるようになってきた。(6年)
- ・幼稚園や低学年のめんどうを見ることができるようになってきた。(4～6年)
- ・自分だけのことでなく、周囲の他の人のことも見るようになってきた。(4～6年)
- ・会の計画を立てたり、進行したりする等、堂々と意見が言えるようになってきた。(5・6年)
- ・「なかよし班」のみんながだんだん仲よくなってきた。(4～6年)
- ・心をつにして運動会や全校合宿をやり遂げられた。(5・6年)
- ・低学年の子と遊んだり、話しかけたりすることが多くなった。(4～6年)
- ・小さい子に対しての接し方を考えたり、小さい子も楽しめる遊びを考えたりすることができた。(5・6年)
- ・6年生が卒業してもやっていけそうだと分かった。(5年)
- ・ふだん遊べない上の子や下の子とふれ合えるようになったこと。(4年)

<幼・1年生の保護者のアンケートより>

設問1 「みなぎのコース」を通して成長したと感じられるところをお知らせください。\* 1・2年生保護者対象

- ・自分の意見がもてるようになり、積極的になった。
- ・何事も自分でするようになった。チャレンジ精神も旺盛になった。
- ・練習を家でもしたり、何事も自分なりに一生懸命がんばったりしていると思う。
- ・実際に自分の体で体験して取り組むという姿勢が徐々に感じられ、新しいものに対する興味が今まで以上に増し、成長したと思う。
- ・白菜料理の後、楽しかったのか、いろいろ手伝ってくれるようになった。根気よく、しんどいこともがんばってやれるようになった。
- ・集団活動に楽しく参加できるようになったことは、大きな成長だと思う。「悩み」ながら自分の考えを出し、「でも…」と見直して「新しい考え」を出せるようになったところに、成長を感じている。
- ・みんなで力を合わせて何かをやり遂げることができた。成功させるために“考える力”や“協調性”などができ、成長したと思う。やり遂げた時の達成感・満足感などが今後の努力や挑戦欲につながってくれればと思う。
- ・動物をかわいがる気持ちが少しできてきた。飼育当番や自分の役割を意識してできるようになったと思う。
- ・休みごとの世話係の仕事がだんだん手際よくなり、しっかりやっていると思った。みんなが恥ずかしがらずに意見が出せたり、自分たちで考えた音頭をしっかり踊ったりしていた。
- ・生き物を育てるというやさしい心やかわいいという母性本能が芽生えてきたと思う。
- ・どんな小さな生き物であっても、生命があり、その生命を大切にしないといけないことや、飼っている動物の世話を続けることの大切さを学んだ。
- ・生命あるものにとって、いろんな環境の中で生きていくことの難しさを知り、自分よりも弱いものをどうやって守ってやるかを学ぶなど、生命の尊さについて自分なりに考えられるようになったと思う。
- ・生き物を飼うには、みんなで責任をもって世話をしなければならないこと、どんな食べ物を食べるのか、どんな環境が必要なのか…など自分で調べようとしたり、環境を整えようと、家にあるものを持って行ったりするなど、いつも前向きに考え、活動できている姿を見ることができ、とても成長したなあと考えた。
- ・あいがもコーナーのデジカメ、秋ランドの秋みつけ等、自分から進んでがんばっていた。友だちと力を合わせることで、自分の責任を果たすことなど、成長したと思う。

設問2 幼・小連携に取り組むようになってから、お子さんに変化が見られるように思われますか。

\* 幼・1年生の保護者対象

- ・小学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんのちょっとした心づかいが嬉しかったり、自分にはできないことも難なくこなすところを見て、すごいと思ったりしているようです。違う年齢と接することができてとても楽しいようです。
- ・自分から話しかけることができるようになった。同年代以外の子どもたちとも話せるようになった。
- ・水曜日が楽しみで、大きいお兄さんたちのことをよく話してくれるようになりました。
- ・小学校のお兄さん・お姉さんに対して親近感がわいてきて、学ぶことが多いようで、よくまねをします。
- ・年上の子どもと話せるようになり、小学校へ行くのを楽しみにするようになった。
- ・今までは家であまり話さなかったが、楽しかったこと・こんなことしたよということを、聞かなくても話してくれるようになり、自分ですることが増えました。また、自分の意見も持てるようになりました。
- ・学年や年齢を意識せず、みんなが仲間として接することができると思います。そして、よい意味で上の子が下の子を助け、下の子が上の子を信頼するという関係が自然と身についていると思います。
- ・上級生や幼稚園の子たちと一緒に遊んだり、活動したりすることで、交流が増えて、いろんなお友だちと仲良くなれたと思います。
- ・3人兄弟の末っ子なので、自分よりも年下の子どもたちとふれあう機会が少なく、自分よりも小さい子には自分から寄り添っていくことはなかったが、全く知らない小さい子にでも声をかけていくようになった。

——生活発表会に参加した障害学級児への幼稚園の保護者の声——

『3びきのがらがらどん』の劇はすごく楽しかったですよ。A君のニコニコした笑顔を見ると、私も楽しくなりました。『大きな古時計』の演奏も一生懸命オルガンをひいてくれたので、びっくりしました。よく練習したんでしょね。大合唱になってすごく盛り上がりました。これからも幼稚園に遊びに来てくださいね。共に、学んで楽しいことも悲しいことも分かち合えたらいいですよ。

設問3 幼・小連携に関してご意見があればお書きください。\* 幼・1年生の保護者対象

- ・小学校が週休2日制になり時間数が減った分、授業内容の進み具合や密度がたいへん濃いように思います。特に1年生は、何もかも基礎ばかり。幼稚園の3学期にはもっと遊びの中で線や数に興味を持てるように自然に取り組めるようになればいいと思います。例えば今の時期、1年生と一緒にカルタとり、すごろく大会、ゲーム感覚で遊べるものやあやとり、おはじきなど、指先を使って遊ぶ遊びなどができたらいいと思います。1・2・幼のなかよし班で1日すごすのも、慣れてくるとできるのではないのでしょうか。2年生は1番年長としての意識ができていいのではないのでしょうか。
- ・保育所の頃から年齢の違うお友だちと遊んだりはしていましたので、それほど変化はないと思いますが、あまりそういう経験のない子どもたちにとっては、学ぶことも多いと思います。児童、園児の連携もよくなり、また、幼稚園児は入学の際の不安も少なくなって、とてもよいと思います。
- ・幼・小連携は来年以降も続いていくのですか。続けてあったほうが、少人数の学校なのでいいかなと思います。小学校にあがる前に、顔や名前を上級生に覚えてもらえて、その後の小学校生活にも入っていきやすいのではないかと思います。
- ・一緒に遊んだり、行事に取り組んだりする中で、小さい子への思いやりが芽生えると思う。上級生へのあこがれや、してもらったことへの感謝の思いなどが、心に残る体験になると思う。

### <幼稚園から>

- ・ 小学生とのかかわり（運動会、各学年との交流）は招待という関係ではなく、計画の段階から教師同士が話し合い活動を実施してきた。小学校の先生方の目に映った子どもの情報には、幼稚園では見ることのない姿や今までとは違った子どもの見方などがあり、指導の参考になった。また、教師自身も初めて小学生を指導することとなり、今までにない体験をした。小学校の先生から子どもの前に立った時には、的確にはっきりとした口調で話すということや友だちのよいところを認め合う発表の形態など気づかされたことも多かった。また、小学校の先生との合同研修会は小学校独特の言葉を理解することから始まり、幼稚園の教育要領と小学校の学習指導要領の比較、活動の内容のとらえ方や子どもの様子の研修、研究授業にも参加して子どもの姿や活動の内容について研修をする等、今までとは違う形式や内容に随分と戸惑いがあった。しかし、回を重ねる中で小学校の先生たちの教育内容に対する細やかな研究や指導にあたっての支援がとてもできていることがわかった。このことから保育を考えるにあたっては今まで以上に物事を深く考え、活動が楽しくなるような保育を考えるようになった。

### <小学校から>

- ・ この1年は、幼稚園で主に行われているエピソード評価を小学校の低学年で取り入れていく取り組みを行った。幼稚園で行われている一人一人を細かく評価していく教師の姿勢は小学校でもしっかりと取り入れていく必要性を感じた。幼稚園教育と小学校教育の原理の違いに気づき、幼児一人一人を細かく見る教師の視点に学び続けた1年間であった。幼稚園教育要領を見ながら、幼児教育で学びを積んでくる子どもたちをみて、それを生かした小学校での単元を作っていきたいと考えて取り組みを進めてきた。子どもや単元について話をしていくことで、活動の重なりに配慮し、子どもたち一人一人の学びを積み上げていけるように単元構想や活動の支援のあり方に工夫をこらすことができた。また、小学校単独での研究会や研修会ではふれることのなかった幼児教育の重要性を改めて学ぶことのできた1年であった。

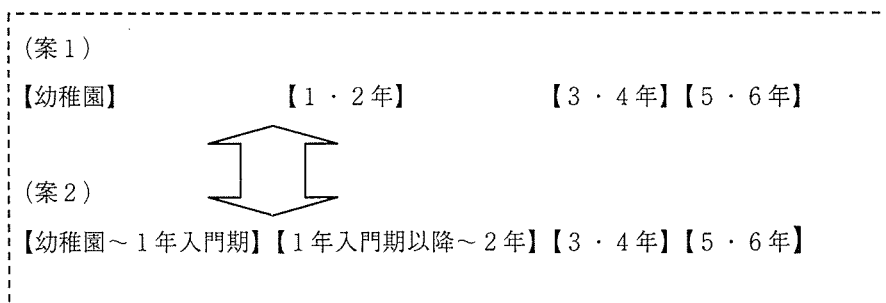
## V 研究開発実施上の問題点および今後の研究開発の方向

研究開発も2年次を終えようとしている。2年間の取組の中で、明らかになってきた問題点及び今後の方向性については、以下の通りである。

### 1 「みなぎのコース」内容系列表の検討及び修正について

今年度作成した「みなぎのコース」内容系列表を検討し、より子どもの発達段階にあった内容・表現や、教師が触れさせていきたい内容・表現に修正することが大きな課題であるが、内容系列表では、次の2点が検討課題である。

#### (1) 内容系列表における発達区分の分け方



内容系列表における発達区分を、幼稚園と小学校の接続期でどのように分けるかということは、今年度も大きな課題となっていた。1年生の入門期を考えると、いわゆる集団学習準備期にあたる当面の間は、幼稚園の指導原理や幼稚園の活動形態等をたっぷりと盛り込みながら学校生活を展開するほうが、徐々に子どもたちが小学校の集団学習に慣れてくると考えることができる。そのためにもこの時期の子どもたちの学びの内容を整理することが、必要になってきている。

#### (2) 「みなぎのコース」の内容と「特別活動」の内容の関係及び整理

本校は長年にわたって、特色ある特別活動として、全校合宿や子どもたちがつくる学校行事、縦割り班活動である「なかよし班」を展開する中で、生きる力の育成を図ってきた。すなわち、本校にとって特別活動は、自己成長力を強めていくための大きな領域であった。今後、研究を進めていく上で、本校の行う「特別活動」の内容を明らかにし、「みなぎのコース」と「特別活動」の関係を整理していくことで、より効果的に自己成長力を強く育てていく教育課程を開発していきたいと考える。

### 2 幼稚園指導計画の改善と充実

保育の展開にあたっては、幼稚園と小学校の連携を意識しながら、一人一人の幼児の発達に即し、その時期にふさわしい生活を展開し必要な経験が得られるよう、日々の足跡を10領域の視点から整理し、それを次の計画へとつないでいく活動が重要である。そのためにも、日々の記録を大切にし、幼児が自分を取り巻く環境に主体的に関わり、生き生きとした関係を生み出せるような環境構成や支援の工夫を図る。

そしてさらには、5歳児の1年間で身につけた学びや育ちを縦の関係（小学校の1年生のみなぎのコースの内容系列）との関係でまとめ、つなぎ、実践検証していかねばならない。

### 3 幼稚園保育と小学校入門期の滑らかな接続

本研究では、「みなぎのコース」内容系列表での発達区分をどのようにするかという課題とともに、いかに滑らかに幼稚園教育と小学校教育の入学期をつないでいくかということは大きな課題である。幼稚園で座ることや聞くことを意識した環境構成の工夫や、小学校でのノーチャイムを生かした授業形態（授業時間の組み方）や幼稚園の指導方法を取り入れた活動の中からの学びの積み上げ、指導方法や指導形態の工夫も図っていきたいと考えている。

### 4 小学校各学年における「みなぎのコース」単元修正

本研究開発は、単に幼稚園と低学年期の連携のみを扱っているものではない。7カ年を通して、小学校教育全体構想に位置付けて取組を進めている。学年発達の特性を踏まえながら、子どもの姿をもとに、単元修正を行っていく。そのための評価方法についての研究を、教師の単元の見方や子どもの見方、子どものポートフォリオのあり方などをもとに、さらに具体的に押し進めていく必要がある。

### 5 その他の課題と方向性

#### （1）幼児と児童の交流の充実について（「なかよし班」と合同授業）

幼稚園児と小学生がともに活動する「なかよし班活動」も、今年で2年目を迎え、行事中心の活動から休み時間の遊び中心の活動への移行も子どもたちの中に定着してきた。また、「みなぎのコース」だけでなく、教科授業などの中でも幼稚園児と小学生がともに活動することも増えてきた。今後も、子どもが熱中する活動であること、教師の願いをより明確にした活動であることを条件に、より学びの多い活動に発展させていきたい。

#### （2）教師間の円滑な連携について

幼小合同研修会、幼小合同研究推進委員会、幼小合同保育・授業研究会などを重ねる中で、お互いの教育について、子どもへの願いについて、取組の内容について相互理解に努めてきた。本年度は、それぞれの教育現場を見学する機会を多く設けた。今後は、幼稚園・小学校間でTTを組むなど、実際の授業を通して縦軸のつながりがもてるよう連携を深めたい。特に、幼稚園と1年生のつながりを深めるための情報の共有に努めていく。

#### （3）保護者・地域との連携・啓発について

「みなぎのコース」の単元立ち上げの条件の中にもあるように、様々な人との関わりを含む単元を創造していくことから、「みなぎのコース」は、子どもたちの活動に多くの人に参加し、協力し、支えていただきながら展開されていく。小学校では、「調べ方読本」を作成し、全学年の児童が個人で持っている。人と関わりながら活動を進めていくうえでの、方法やマナー等を、しっかりと身につけさせることにより、協力してくださる様々な人とのパイプを保っていききたい。そのためにも、この取組を地域や保護者の方に評価していただくとともに、その願いをしっかりと受け止めた研究を進めるといった、互いに恵みあう関係を作っていく必要がある。

研究同人

校 園 長 須 崎 まゆみ

副 園 長 中 西 富 美

教 頭 赤 松 篤

教 諭 藤 枝 徳 子

河 邑 幸 子

塗 雅 子

市 橋 初 美

山 木 正 博

養 護 若 佐 佳 世 子

共同研究者 小 谷 宜 路

教 諭 志 原 節 子

戸 田 節 子

河 津 恵 子

岸 本 睦 美

水 野 ル ミ

池 町 徹 也

講 師 小 林 栄 理 子





